ISSN 1344-476X

財団法人 東洋文庫年報

2011 年度

財団法人 東洋文庫

財団法人 東洋文庫年報 2011年度

目次

Ⅰ 2011年度の東洋文庫 …… 1

Ⅱ 図書事業 …… 5
1. 資料の収集 …… 5
2. 資料の整理 …… 7
3. 資料の利用と複写サービス …… 7
4. 書庫資料の見学と研修 …… 10
5. 資料の保存整理と複製 …… 11
6. 書誌情報の公開 …… 12
7. 書庫内資料と書架スペース …… 13
8. 電子図書館情報システム …… 14

Ⅲ 研究事業 …… 17
1. 調査研究 …… 17
A. 超域アジア研究 …… 17
B. アジア諸地域研究 …… 20
C. 資料研究 …… 33
D. 地域研究プログラム …… 34
E. 受託研究 …… 36
F. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究 …… 37
G. 東洋文庫研究員・研究課題一覧 …… 47
2. 研究資料出版 …… 54
3. 研究情報普及 …… 56
A. 講演会 …… 56
B. データベース公開 …… 59
C. 研究者の交流および便宜供与のサービス …… 62
4. 普及・広報活動 …… 64
A. 展示 …… 64
B. 広報普及 …… 66

C. 国際交流 …… 67
5. 研究員等の研究業績 …… 67

Ⅳ 業務報告 …… 119
1. 総務報告 …… 119
2. 人事報告 …… 121
3. 会計報告 …… 123

Ⅴ 役職員名簿 …… 138
1. 役員 …… 138
2. 評議員 …… 139
3. 東洋学連絡委員 …… 139
4. 名誉研究員 …… 140
5. 職員・研究員 …… 141
6. 客員研究員 …… 144

Ⅰ　2011年度の東洋文庫

2011年度において東洋文庫が実施した諸事業の経過、及び内容の要旨は次の通りである。

まず本年度内に生じた役員・職員の異動について述べる。誠に残念ながら佐藤次高研究部長が4月にご逝去された。佐藤次高氏は1990年に研究部長に就任され、1991年よりは理事兼研究部長として、20年以上に渡り東洋文庫の研究活動にご尽力され、多大な功績を残された。後任の研究部長には濱下図書顧問が就任された。

6月の評議員会にて、任期満了となった理事9名、監事2名の改選が行われ、理事には、槇原稔、田仲一成、鶴見尚弘、濱下武志、福澤武、三木繁光の各氏が再任され、平野健一郎氏が新任された。監事は西村敏行氏が再任、原實氏が新任された。又、評議員については、17名全員が任期満了となり、理事会にて、荒蒔康一郎、有馬朗人、梅村坦、岸本美緒、久保正彰、後藤明、瀬谷博道、長尾真、増田信行、間野英二の各氏が再任され、大崎仁、草原克豪、東條和彦の各氏が新任された。これにて、当文庫は理事10名、監事2名、評議員13名の体制となった。又、2月13日より、これまで文庫長が兼務していた普及展示部長に平野研究顧問が就任された。

職員では、8月に昨年度より嘱託として勤務していた岡崎礼奈氏を普及展示部の研究員として採用した。尚、国会図書館より派遣されていた新谷氏は3月末をもって原籍復帰され、60余年に及ぶ国会図書館からの人員派遣は終了した。尚、国立国会図書館とは、今後とも協力関係を継続すべく、来年度以降の具体的協力に就き打ち合わせている。

文庫の建替えは総て完了し、9月末に正式引渡しを受けるとともに、10月20日よりミュージアムを開館した。グランド・オープニングを初めとする各行事には、国立国会図書館長、文京区長、文部科学省事務次官、三菱各社幹部等、多数の要人の列席を得た。ミュージアムの入場者数もほぼ予定通りの水準で推移しており、大方の評判も良く、良いスタートが切れたと思われる。当文庫の広く一般を対象とする普及活動がいよいよ本格的に始動した。

又、本年度より、東京芸術大学の造形の大学院生の卒業制作の中より「東洋文庫賞」の作品を選定し、その作品を庭園シーボルト・ガルテンに展示する事とした。

図書部関係では、当文庫のデータベースへの月間アクセス数は大幅に増加し、月間約30万件のレベルに達した。本年度の当文庫の図書の増加は、購入4,837冊、受贈4,808冊、合計9,645冊であった。又、吉阪昭治氏より、チェンバレン宛書簡類の寄贈を受けた。

春の東洋学講座は、辛島昇氏「インド文化論 — カレーとラーマーヤナ」、山本英史氏「江南基層社会とその地域性 — 近代蘇松地方における郷村役の比較を通して」、小杉泰氏「現代イスラーム世界の立憲主義と議会」であった。また、秋の東洋学講座は、新館竣工記念として、ハーバード・エンチン研究所エリザベス・ペリー所長による「Anyuan: Mining China's Revolutionary Tradition」、姜尚中氏による「東洋学の現在」、そして芥川賞作家である楊逸氏による「楊逸と楽しむ東洋の妖怪ミラクルワールド」であった。

研究資料の出版では、本年度は定期出版物9冊の刊行に加え、論叢類3冊を発刊した。

各種研究会・講演会を計115回開催し、合計参加人数は1,623人であった。又、受入れ外国人研究者4名、外国人研究者への便宜供与は、中国、米国、モンゴル、シンガポール、台湾より5名であった。日本学術振興会特別研究員PDとして9名を受け入れた。

財政面では、一昨年度より年間収支は赤字が続いており、運営調整積立資産を取り崩している。一方、建替え関連の特別会計は、今年度末で閉鎖し、残金より「PCB引当資産」に24,605,000円を充当し、納税準備として3,500,000円を一般会計に充当した後の残高30,211,202円は、「建物設備修繕引当資産」に臨時積立する事とした。これにより、毎年度の建物設備修繕引当積立額は23,000,000円より21,700,000円に減額する。又、ミュージアム開館に伴う特定資産「展示開設準備引当資産」も閉鎖され、残金約560万円は一般会計に組み入れた。尚、来年度以降3年間については、三菱金曜会各社より年間9千万円の寄付金を頂ける事となったので、今後3年間はほぼ年間収支均衡の

運営が出来る見込みである。

広報活動では、三菱広報委員会が発行している月刊誌『マンスリーみつびし』に隔月で東洋文庫の貴重本の紹介が継続して行われている他、10月号には裏表紙全ページ広告を掲載した。

ミュージアム開館にあわせ、駅広告、ポスター・チラシ、報道対応等による広報活動に力をいれた。雑誌『東京人』では11月に東洋文庫特集号を発刊した他、『新建築』等の雑誌にも紹介された。又、一般向けの図録『時空を超える本の旅50選』の英文版を出版すると共に、第二回企画展である「東インド会社と海賊」図録として、同題の本を『時空を超える本の旅2』として出版した。

主要訪問者としては、9月のミュージアムのグランド・オープニング並びにその後、福田元首相を初め、学界・経済界・政界等各界の要人の多数のご来訪を得た。又、本ミュージアムのBGM、「東洋文庫組曲」を作曲した、ブラザース・フォアのボブ・フリック氏の来訪を受け、記念植樹を行った。

ミュージアムの運営にあたっては、近隣との協力関係の強化に努め、六義園との共通チケットの発売を実施した他、小石川中等教育学校とも提携した。

国際交流の面では、昨年締結したハーバード・エンチン図書館・財団との協力協定の一環として、本年度よりハーバード・エンチン財団の奨学生に、東洋文庫も応募する資格を得（毎年応募の資格があるのは、日本では東大、京大、東洋文庫の3機関のみ)、2名応募したが残念ながら採用には至らなかった。又、新たにイラン議会図書館と協力協定を締結した。又、高麗大学が実施する東洋文庫の朝鮮本のデジタル化にも全面的に協力する事とした。

ミュージアム開館もあり、当文庫への個人のサポートも顕著に増加し、「友の会」の会員は約120名となった他、本年度より、新たに5万円以上のご寄付をされた方々を「名誉文庫員」とする事とし、大口の個人ご寄付も頂いた。名誉文庫員は庭のパネルに顕名する事とした。

現在、当財団は特例民法法人となっており、2013年11月までに新法に基

づく公益財団法人に衣替えする必要がある。2月の評議員会・理事会にて、公益財団法人への移行が決議され、新定款等も決定し、最初の評議員選定委員会にて、最初の評議員も選任されたので、来年度中に移行申請を行う予定である。

以上

Ⅱ　図　書　事　業

1. 資料の収集

A. 資料購入

本年度資料購入費の支出総額は31,968,937円で、各部門別の冊数内訳は以下のとおりである。

	和漢書 （うち非図書）	洋書 （うち非図書）	計
超域・現代中国研究	462(1)	11	473(1)
超域・現代イスラーム研究	0	1,093	1,093
東アジア研究	682	15	697
内陸アジア研究	87(33)	44	131(33)
インド・東南アジア研究	1	37(22)	38(22)
西アジア研究	0	521	521
共通（継続・大型資料）	1,555(25)	248	1,803(25)
計	2,787(59)	1,969(22)	4,756(81)

※単位：冊（非図書資料はマイクロフィルム1リール、CD1枚を1冊に換算）

主な購入図書としては以下のものがある。

阿媽港・安南風俗図（写本）		1冊
ヴォルフ編：東洋図鑑　手彩色版画30枚入		1冊
シャトラン：日本帝国図		1枚
北京版カンギュル DVD		5枚
英国国家図書館蔵敦煌遺書（漢文部分）	第1-10冊	10冊
法国国家図書館蔵敦煌蔵文文献	第1-12冊	12冊
天津商会档案・銭業巻		29冊
大明律講解（壬午11月内賜本）		3冊
幽斎翁聞書（写本）		1冊
藻塩草20巻（刊本）		10冊
四時幽賞（寛文8年刊本）		2冊

また、本年度人間文化研究機構地域研究プログラムによる資料購入費の支出総額は1,420,600円で、冊数は洋書501冊（うち非図書49）である。

B．資料交換

出版物交換の実績は以下のとおりである。

区　分	受　　贈*			寄　　贈		
	和漢書(冊)	洋書（冊）	計（冊）	国内（冊）	国外（冊）	計（冊）
単　行　本	1,871	288	2,159	608	433	1,041
定期刊行物	2,058	531	2,589	3,875	857	4,732
非図書資料	60	0	60	0	0	0
計	3,989	819	4,808	4,483	1,290	5,773

* 科学研究費による購入はここに含む

主な受贈資料としては、以下のものがある。

国際問題研究所寄贈資料　和漢書30冊，洋書42冊，CD-ROM24枚
柳田征司氏寄贈仏典（『大慧普覚禅師書抄』，『碧巌鈔』ほか）　14冊
故山本達郎氏寄贈越南本漢籍
マイクロフィルム3点，硝子乾板写真4種（付CD-ROM1枚）
千々和到氏寄贈『維摩変相図及造像碑拓本　東魏武定元年建』　1軸
吉阪昭治氏寄贈 Basil Hall Chamberlain 宛書簡及び関連資料　1組
蟻川浩雄氏寄贈漢籍経部など　160点
イラン・イスラーム共和国国民図書館寄贈資料　131冊
加藤義雄氏寄贈川島浪速関係資料　11点

C．蔵書数

収蔵する蔵書総数は986,482冊で、和漢書556,565冊、洋書400,117冊、複写資料29,800冊である。

2. 資料の整理

A. 図書

整理冊数は次のとおりである。

和漢図書　1,836 冊
欧米語図書　81 冊
アジア諸言語図書　1,772 冊（イスラーム地域研究資料室の 338 冊を含む）

整理した主な図書

(1)　新編中華人民共和国地方志　18 冊
(2)　中国文化大革命関係資料　第 28 輯　第一至五十八分冊　38 冊
(3)　モロッコ上院下院議事録　120 冊
(4)　明清賦役全書　第一編　60 冊

B. 雑誌

本年度の受入タイトル・冊数は次のとおりである。なお、そのうち新規受入誌は和・中・韓文 31 タイトル、欧文 9 タイトルである。

	タイトル数		冊数	
	和・中・韓	欧	和・中・韓	欧
受贈	527	175	2,058	531
購入	176	83	1,075	212
小計	703	258	3,133	743
計	961		3,876	

C. 新聞

本年度は和・中・韓文で 23 種を受入れた。

3. 資料の利用と複写サービス

A. 閲覧サービス

本年度、閲覧証の新たな交付は 159 名で、内訳は教職員 78 名（外国人 14 名）、研究機関関係者 28 名（外国人 15 名）、大学院生 28 名（外国人 3 名）、大学

生 14 名（外国人 4 名）、その他 11 名（外国人 1 名）であった。

閲覧開館日は 189 日、利用者数は 1,972 名、利用資料数は 32,430 冊で、詳細は後掲の表のとおりであった。

なお東洋文庫研究員および職員の研究室等での資料の利用は延べ 544 名、1,458 冊であった。

また新本館への蔵書移転作業のため、2011 年 1 月から 2011 年 5 月末まで、閲覧（複写）業務を停止した。

(1) 開館日数および閲覧者数

	開館日数	閲覧者数	日平均	昨年同月比（△印は減）
2011 年 4 月	（日） —	（人） —	（人） —	（人） —
5	—	—	—	—
6	21	205	10	57
7	19	185	10	39
8	22	208	10	50
9	19	181	10	64
10	17	166	10	47
11	19	220	12	91
12	16	177	12	△ 9
2012 年 1 月	16	132	9	132
2	20	264	14	264
3	20	234	12	234
計	189	1,972	11	699

＊ 2011 年 1 月から 5 月末まで新本館への蔵書移転のため閲覧業務を停止

(2) 閲覧カウンター出納冊数

	和書		漢書		洋書		合計		日平均	昨年同月比（△印は減）
	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数	部数	冊数		
2011 年 4 月	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6	206	1,089	284	2,204	121	394	611	3,687	176	1,836
7	145	620	260	1,690	124	480	529	2,790	147	805
8	203	713	299	2,386	108	296	610	3,395	155	486
9	160	781	194	1,721	131	394	485	2,896	153	909

10	116	630	203	1,524	59	212	378	2,366	140	587
11	122	497	337	2,258	179	255	638	3,010	159	103
12	127	415	204	1,292	122	399	453	2,106	132	△3,366
2012年1月	108	328	203	1,234	43	238	354	1,800	113	1,800
2	166	600	1,124	6,105	186	557	1,476	7,262	364	7,262
3	178	1,695	288	998	207	425	673	3,118	156	3,118
計	1,531	7,368	3,396	21,412	1,280	3,650	6,207	32,430	170	10,629
比率	22.72%		66.03%		11.25%		100.00%			

＊2011年1月から5月末まで新本館への蔵書移転のため閲覧業務を停止

B．複写サービス

国内外の研究者・研究機関の便宜に供するために行ったもので、実績は下記のとおりであった。

(1) マイクロ・フィルム

申込件数	紙焼用撮影齣数	紙焼提供枚数	フィルム提供齣数
187	8,393	8,910	191

(2) 電子複写

申込件数	提供枚数
850	30,702

C．レファレンス

受付数は目録室、閲覧室など合わせて577件であった。

D．資料の貸出

博物館・美術館などが主催しておこなう展覧会への資料の貸出は5件で、詳細は次のとおりである。

	展覧会名	主催者	展覧会会期	開催場所	主な資料と数量
1	「香り　かぐわしき名宝」展	東京藝術大学 日本経済新聞社	2011年4月7日（木）～5月29日（日）	東京藝術大学大学美術館	『風俗略六芸十種香』（三-G-b-110）全1点
2	特別展「写楽」	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館 東京新聞文化事業部 NHK視聴者事業局 NHKプロモーション	5月1日（月）～6月12日（日）	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館	『春の色』（三-F-a-へ-107）全1点
3	「江戸文化シリーズNo.27　実況中継EDO」	板橋区立美術館	9月3日（土）～10月10日（月）	板橋区立美術館	『プチャーチン以下露国船来朝、戸田浦にて軍艦建造図巻』（I-2-E-34）全1点
4	名古屋城特別展「王と王妃の物語帝鑑図大集合」	名古屋城特別展準備委員会（名古屋市，名古屋城振興協会，中日新聞社）	9月16日（金）～10月30日（日）	名古屋城天守閣2階展示室	『分類合璧図像句解君臣故事絵入』（二-B-a-1）全1点
5	「江戸の百科事始―本草学者小野蘭山の世界―」	練馬区立教育委員会生涯学習部生涯学習課石神井公園ふるさと文化館	9月17日（土）～11月6日（日）	練馬区立石神井公園ふるさと文化館	『校正本草綱目附本草綱目品目』をはじめ全6点

4. 書庫資料の見学と研修

主な見学は次のとおりである（23件259名）。なお、このほかに50件114名の見学があった。

	実施日	申請者	参加者	人数	主な内容
1	2011年 5月30日	加賀山　元	三菱ゆかりの地見学会一行	19	書庫及び所蔵資料見学

2	6月 6日	本野英一	早稲田大学・慶応義塾大学学生	20	〃
3	6月17日	吉澤誠一郎	東京大学学生	8	〃
4	7月25日	中本　舜	NIHUセミナー研修生	19	〃
5	8月 4日	臼井佐知子	東京外国語大学学生	9	〃
6	8月24日	高野真理子	私立大学図書館協会研修生	30	〃
7	8月30日	高橋　智	北京古文献研究所一行	7	〃
8	9月 5日	羽田　正	漢籍整理長期講習会受講生（東京大学東洋文化研究所主催）	11	〃
9	9月21日	斯波義信	上海図書館一行	2	〃
10	10月14日	石塚晴通	岩崎文庫善本研究会一行	10	〃
11	11月 9日	松元宙子	北区立中央図書館一行	4	〃
12	11月14日	松重充浩，粕谷　元	日本大学文理学部学生	19	〃
13	12月 5日	村田雄二郎	辛亥革命100周年日本会議一行	28	〃
14	12月 8日	田辺孝夫	京都府立総合資料館一行	3	〃
15	12月13日	中村元哉	津田塾大学国際関係学科学生	10	〃
16	12月15日	湯　開建	澳門大学一行	3	〃
17	12月15日	楠木賢道	筑波大学人文・文化学群人文学類学生	8	〃
	2012年				
18	1月26日	正木　博	日本ビブリオフィル協会・23年度第三回研修会一行	18	〃
19	2月10日	沈　慶昊	高麗大学校一行	6	〃
20	2月13日	松村祥子	放送大学付属図書館一行	2	〃
21	3月 1日	徳原靖浩	図書館司書連絡会研修会一行（研究部イスラーム地域研究資料室主催）	13	〃
22	3月 9日	マジード・サーエリー	イラン議会図書館一行	3	〃
23	3月29日	深沢眞二	佐藤勝明和洋女子大学教授ほか	7	〃

5. 資料の保存整理と複製

2006年度末をもって、製本室並びに撮影室が閉鎖され、原資料の保存整理と劣化資料のマイクロフィルム化などの作業を行わないことになった。

実施した作業項目と内容は次のとおりである。

雑誌合冊製本（外注）　377冊

6. 書誌情報の公開

2011年度末現在、当文庫ホームページで提供している目録データベースは下記の39種である。

このうち2011年度新規公開分は※印で示す。各データベース名の後の( )は収録件数。

01	中国語逐次刊行物　2011/12/26 リニューアル公開	(4,267件)
02	日本語逐次刊行物　2011/10/27 リニューアル公開	(2,459件)
03	欧文逐次刊行物	(2,638件)
04	朝鮮・韓国語逐次刊行物　2011/8/30 リニューアル公開	(848件)
05	漢籍資料オンライン検索	(77,900件)
06	續修四庫全書	(6,231件)
07	越南本漢籍検索	(324件)
08	朝鮮本漢籍検索	(3.895件)
09	岩崎文庫（和書貴重書）	(7,966件)
10	ラテン文字資料	(90,106件)
11	辻直四郎文庫（洋書）の検索	(7,218件)
12	キリル文字資料	(11,719件)
13	モリソン文庫資料検索	(15,796件)
14	モリソン文庫資料分類検索	(15,318件)
15	中国語図書の検索	(57,466件)
16	中国語図書分類検索【暫定版】	(44,146件)
17	日本語図書の検索	(63,037件)
18	研究部近代中国研究班収集日本文図書分類検索	(16,846件)
19	韓国・朝鮮語図書の検索	(4,145件)
20	藤井文庫オンライン検索	(1,444件)
21	モンゴル語資料　検索	(1,606件)
※22	西アジア諸言語図書分類検索　2011/7/6 新規公開	(36,472件)
23	アラビア語図書の検索	(15,156件)
24	ペルシャ語図書の検索	(13,271件)
25	現代トルコ語図書の検索	(11,009件)
26	オスマントルコ語図書の検索	(1,396件)

27　イスラーム地域研究資料室収集資料（アラビア語・ペルシア語・オスマントルコ語資料）（4,190 件）
28　南アジア諸語（アラビア文字）図書検索（3,620 件）
29　キルギス語図書全リスト（PDF）（約 20 件）★ 2010 年度に同じ
30　ウイグル語図書全リスト（PDF）（約 1,100 件）★ 2010 年度に同じ
31　カザフ語図書全リスト（PDF）（約 240 件）★ 2010 年度に同じ
32　スィンディー語図書（188 件）
33　チベット語文献（河口慧海将来蔵外文献）（約 500 件）★ 2010 年度に同じ
34　チベット語文献（米国議会マイクロフィッシュ版）（約 4,000 件）★ 2010 年度に同じ
35　ビルマ語（ミャンマー語）図書の検索（664 件）
36　インドネシア語・マレーシア語図書の検索（311 件）
37　タイ語資料検索（884 件）
38　南方史資料（4,199 件）
39　榎文庫（9,883 件）

注 1：「漢籍統合データベース」は、05 漢籍資料オンライン検索、07 越南本漢籍検索、08 朝鮮本漢籍検索の横断検索用と判断し、リストからは除外。また、昨年度まで公開の「新収蔵漢籍検索」は、05 漢籍資料オンライン検索に併合のため、リストから除外
注 2：「榎文庫 NDC8 による分類検索」は、39 榎文庫の検索方法の相違に過ぎないものと判断し、リストからは除外
注 3：件数を概算できないもののうち、件数に大きな変動がないものは、2010 年度年報の数字を用いた

7. 書庫内資料と書架スペース

書庫内資料の排架一覧

階	排架内容
6	Old Books（大型），MS（大型），漢籍稀覯書，岩崎文庫，銅版画，古地図，梅原考古資料，自筆稿本，檔案（満洲語檔案など）

<table>
<tr><td>5</td><td colspan="3">欧文図書（モリソン文庫を除く，大型），アジア諸語図書（アラビア語・ペルシア語・トルコ語ほか），個人文庫（辻文庫・梅原文庫・榎文庫・岩見文庫・モリソンII世文庫・ベラルデ文庫）</td></tr>
<tr><td>4</td><td colspan="3">和書，漢籍（集部，叢書部，大型），中・朝雑誌，近代中国研究委員会収集資料（和・中・欧文図書・雑誌）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">3</td><td>3階書庫1</td><td>3階書庫2</td><td>2階・中2階・3階ミュージアム</td></tr>
<tr><td>漢籍（経部・史部・子部）</td><td>朝鮮本，越南本，満洲語，蒙古（モンゴル）語，チベット語，サンスクリット語図書，拓本資料，電子資料</td><td>モリソン書庫（大型本を除く）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">B1</td><td colspan="2" rowspan="2">逐次刊行物（和・中・朝・欧文新聞，和・欧文雑誌）</td><td>マイクロ保管庫</td></tr>
<tr><td>マイクロ資料</td></tr>
</table>

新本館が竣工し、懸案事項であった書架狭隘問題が解消した。旧書庫では分散していた資料を集中排架し、出納作業が円滑に行えるようになった。

8. 電子図書館情報システム

2011年度末現在、当文庫ホームページで提供している「東洋学多言語資料のマルチメディア電子図書館情報システム」は下記のとおりである。

このうち2011年度新規公開分は、画像データ：地図（日本関係）24件400コマ、風景15件939コマ、浮世絵・美人画2件170コマ、奈良絵本・挿絵など21件1,271コマ、全頁データ：モリソンパンフレット73件1,206頁、動画データ2種、現代中国研究資料室による「東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー」である。（※印）

1．画像データ

1）地図

①中国関係	中華帝国図ほか	222件（274コマ）
※②日本関係	江戸内府図ほか	46件（422コマ）
※2）風景		23件（1,066コマ）
※3）浮世絵・美人画		30件（198コマ）

※4）奈良絵本・挿絵など　91件（4,593コマ）
5）モリソン文庫―香港銅版画・水彩画等　392件（416コマ）
6）考古器物（梅原考古資料）　15,343件

2. 全頁データ
1）岩崎文庫　古籍善本　2011/8/22 リニューアル公開 55件（7,618頁）
2）モリソン文庫　洋書稀覯本　18件（9,451頁）
※3）モリソンパンフレット　453件（8,224頁）
※4）東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー（現代中国研究資料室）
2012/1/21 新規公開 146件（8,893頁）

3. 動画データ
1）香港の祭祀と演劇（概観）
①広東系　約50分
Ⅰ巡遊
Ⅱ儀礼
Ⅲ-1 六国封相（武戯）
Ⅲ-2 粤劇：双仙拝月亭（文戯）
Ⅲ-3 粤劇：再生紅梅記（文戯）
②海陸豊系　約40分
Ⅰ巡遊
Ⅱ儀礼
Ⅲ-1 海陸豊劇：呂布（武戯）
Ⅲ-2 海陸豊劇：蕭光祖（文戯）
※Ⅲ-3 海陸豊劇：正字戯「宛城の戦」（『三国演義』第16回）
2012/2/13 新規公開［うち約20分］
③潮州系　約80分
Ⅰ巡遊
Ⅱ儀礼
Ⅲ-1 楊門女将（文戯）
Ⅲ-2 楊門女将（武戯）
Ⅲ-3 宝蓮燈（文武戯）
Ⅲ-4 守揚州（文武戯）

2）香港広東正一派道士の儀礼

①龍躍頭太平清醮儀礼	約 50 分
②粉嶺太平洪朝儀礼	約 50 分
③八門功徳	約 6 分

3）中国（江西）の儺舞・儺戯

①萍郷県の儺舞	約 60 分
②万載県の儺舞	約 40 分
③婺源県の儺舞・儺戯	約 50 分
④南豊県石郵村の儺舞	約 30 分
⑤南豊県水南村の儺舞	約 30 分

4）目連戯

①浙江省紹興前良村調腔目連戯	約 50 分
②祁門県栗木村目連戯	約 50 分
③福建仙遊目連戯	約 50 分
④湖南省湘西目連戯	約 10 分
⑤莆田木身目連戯	約 30 分

5）元宵祭祀

①萍郷県元宵花灯会	約 30 分

6）莆仙劇

※①白蛇伝　2012/2/15 新規公開	約 20 分

Ⅲ　研　究　事　業

東洋文庫は、アジア諸地域の歴史と文化の発展に関する基礎資料を80年余にわたって組織的かつ継続的に収集してきた。研究事業の主たる目的は、これらの資料を収集・整理して、内外の研究者の利用に供するとともに、これらの資料にもとづく広範なアジア研究を推進して、世界のアジア研究の進展に大きく貢献することに置かれている。アジアの全域を対象にして基礎資料を体系的に収集・整理し、それにもとづく総合的な基礎研究を推進することは、アジア研究の長い伝統を有する東洋文庫以外にはなしえない。

東洋文庫は、この事業をさらに効果的に推進するために、平成15年度から、旧来の研究体制を一新した。すなわち、（イ）アジア研究の組織的な編成と若手研究員の積極的な採用、（ロ）現代アジアの重要課題に関する総合的研究への取り組み、（ハ）欧文の成果発信を拡充することによる国際的な活動の強化、および（ニ）資料・研究情報の公開と共同利用を促進すべく、研究部と図書部を一丸とした電子情報システムの構築である。この改革を機に、研究分野は《超域アジア研究》と《アジア諸地域に関する歴史·文化研究》（以下、《歴史・文化研究》）、《資料研究》とから構成されることになり、前者は一次資料にもとづく現代アジアの学際的な実証研究、後者は各ディシプリンを生かした歴史・文化的な基礎研究を主要な課題としている。

1. 調査研究

A. 超域アジア研究

1940年代以降のアジア諸地域は、大きな変動を経験するとともに、経済的な急成長をとげたことにより、21世紀の世界情勢の展望にとってアジアの占める位置と役割は著しく高まりつつある。中国は1949年の革命後、特に79年の改革・開放後に急速な変容と発展を遂げ、今や中国情勢は、国内問題にとどまらず、隣接アジアを包摂した課題として総合的・多面的な実証研究を不可避としている。また、イスラームのグローバル化とその先鋭化も近年の著しい現象であり、現代世界の理解のためには、中東や中央アジア、中国・東南アジアなどのイスラームの現実を基礎データにもとづいて柔軟に

解析することが必要である。

以上のような状況をふまえ、現代の中国圏域およびイスラーム圏域に関するアジア研究を新たに組織し、これを政治学・経済学・宗教学・歴史学などを融合した学際型の共同研究として実施する。これらの現代研究は、基礎資料の収集と解析にもとづき、長期的な視野の下に息の長い実証研究を行うことが特徴である。

〈超域アジア研究部門〉

(1) 現代中国研究班

「現代中国の総合的研究 (2)」

総　括　　毛里和子
政　治　　毛里和子*、天児　慧、青山瑠妙、興梠一郎、唐　　亮、平野　聡
経　済　　中兼和津次、加藤弘之、厳　善平、丸川知雄、梶谷　懐、寳劔久俊、唐　　成
国際関係・文化
　　平野健一郎◎、濱下武志◎、田中明彦、川島　真、貴志俊彦、黄　東蘭、砂山幸雄、高田幸男、古田和子、村田雄二郎
資　料　　斯波義信◎、矢吹　晋、貴志俊彦、新村容子、城山智子、村上　衛
(◎は専従者、*は重複を示す。以下同じ)

現代中国は、政治、経済、社会の大改革を行い、その影響力は東アジアから広く世界に及びつつある。この動態を、歴史・文化の要因をも視野に収めながら、総合的に捉える研究体制（資料、政治、経済、国際関係・文化の各グループで構成）を構築した。資料の収集は東洋文庫の蓄積を基点としつつ、学際的研究と公開利用に向けて拡充と再編をはかる。その際、台湾中央研究院や中国社会科学院、ハーバード・エンチン研究所との学術交流など、海外・国内の研究機関との連携をいっそう強化し、政治、経済、国際関係・文化グループは研究会の開催を継続実施し、次年度以降における成果の刊行に備える。

［研究実施概要］

a) 資料グループは、継続してきたモリソンパンフレットの系統的な調査・研究の結果をとりまとめ、『モリソンパンフレットの世界』（東洋文庫和文論叢 75）を刊行した。

b) 政治グループは、政治・経済・行政・社会・法律各分野の専門家で陳情に関心を持つ中堅・若い研究者をメンバーとして隔月一回程度の研究会を実施した。

c) 経済グループは、「歴史的視野から見た現代中国経済」研究の第 2 部として、毛沢東時代の「社会主義経済」に関する再検討を継続し、中国から現代中国経済に関する研究者を招いてシンポジウムを開催した。

d) 国際関係・文化グループは、前年度に続き、全体的な研究テーマ「戦後中国の国際関係と社会・文化変容」のもと、隔月一回程度の研究会を開催した。また、2012 年度よりあらたに「1950 年代中国の研究」を開始するため、その準備として研究会を実施した。

e) 政治グループ、経済グループ、国際関係・文化グループとも、図書資料の購入に関しては、東洋文庫の現代中国研究資料センターと提携して、系統的な収書を行った。

(2) 現代イスラーム研究班

「現代イスラームの超域的基礎研究
—議会主義の展開と立憲体制に関する一次資料の収集と比較分析研究—」

総　括	八尾師誠
アラブ	池田美佐子、長沢栄治、小杉　泰、関本照夫、松本　弘、鈴木恵美
イラン	八尾師誠*、松永泰行、黒田　卓、鈴木　均
トルコ	粕谷　元、小松久男、設樂國廣、江川ひかり、大河原知樹、秋葉　淳、澤江史子
中央アジア	宇山智彦、小松久男*、湯浅　剛

世界の近現代イスラーム研究において、これまでほとんど用いられることのなかった中東諸国の議会文書（アラビア語、ペルシア語、トルコ語）を収集・整理・分析し、それぞれの地域（国家）に誕生した議会主義の政治思想と立憲体制の実態を比較・検討する。2009 年度からは、新たに中央アジア

諸国を比較の対象に加え、基本資料の収集と整理・分析を行う。これによって中東・中央アジアなどのイスラーム地域における国民国家の歴史的役割と今日的意義を一次資料にもとづいて総合的に考察する。他方、イスラーム関係資料の収集と整理、データベース化を推進し、日本における資料センターとしての充実をはかる。

［研究実施概要］

現代イスラーム研究班の活動は、資料の性格に対応してアラブ、イラン、トルコ、中央アジアの４グループに分かれて実行される。アラブ、イラン、トルコグループの研究は、第１期（2003年～2008年度）の実績を踏まえて実施された。

a）アラブグループ：2006年度に刊行した*A Guide to Parliamentary Records in Monarchical Egypt*を利用して、議会文書の解読・分析を進めた。

b）イラングループ：2005年度に作成した議会文書のインデクス（CD-Rom版）を利用して、議会文書の分析を進めた。また、『1945-46年のモクリー地域におけるクルディスターン民主化運動の研究』の編集作業を行った。

c）トルコグループ：2006年度刊行の論文集『トルコにおける議会制の展開』を基礎に、関係資料の収集と議会文書の解析を進めた。

d）中央アジアグループ：2010年度に引き続き関係資料の収集と整理を行った。

以上の成果は、『全訳　イラン・トルコ・エジプト議会内規』として、2012年度に刊行する。

B．アジア諸地域研究

現代アジアの複合的かつ動態的な展開を理解するためには、各民族が有する個性豊かな歴史と文化の基礎研究が不可欠である。本研究はアジアの現状と密接に関連する歴史・文化の諸要素につき、基礎的かつ長期の取り組みを要する総合的な研究を行う。

〈東アジア研究部門〉

(1) 前近代中国研究班

①「古代地域史研究—『水経注』の分析から— (2)」

総　括　　太田幸男
松丸道雄、藤田　忠、飯尾秀幸、籾山　明、塩沢裕仁、
多田狷介、窪添慶文、池田雄一、金子修一、川合　安

本研究班では地域史という視点から、中国古代の地域社会の構造を検討してきた。その基礎となるのは『水経注』(原典6世紀、中国最古の地理書)とその諸注の再検討である。これを注文、疏文まで精読し、加えて考古学上の諸発掘成果およびランドサット衛星地図などと合わせて分析するという歴史地理学的な方法による研究に挑んでいる。また流域の古代遺跡と『水経注』記載の内容を合わせて検討することで、歴史的自然環境・社会的実態を具体的に理解し、流域の地域社会の構造の変化を明らかにしていく。刊行を予定している『水経注疏訳注』渭水篇下巻及び洛水・伊水篇訳注もこれらの成果を反映させたい。渭水下流域及び洛水・伊水流域は「黄河文明」の中心地である。ここを「地域史」という観点から分析することは中国古代史研究においては新鮮な視点であり、『水経注』の研究という範疇を超えて、内外における中国古代史研究の新たな展開となる研究を目指している。

[研究実施概要]

a) 陳橋驛復校『水経注疏』(江蘇古籍出版社刊)をテキストとし、「巻15洛水／伊水」の講読を隔週の研究会において実施した。
b)「張家山漢簡」の講読と分析を進めた。

②「宋代社会経済史用語解集成の作成とその電子辞典化」

総　括　　斯波義信◎*
梅原　郁、千葉　炅、渡辺紘良、妹尾達彦、長谷川誠夫

本グループがこれまでに作成・公刊した『宋史食貨志訳註(一)～(六)』(東洋文庫刊、1960年～2006年)、および『宋会要輯稿・食貨篇・社会経済用語集成』(東洋文庫刊・2008年)における訳註および用語の収集の成果を

ベースとして、整理と増補を加え、広範囲かつ多方面の利用者の便宜に適合するような冊子体およびCD-ROMの用語解説集を作成し、研究活動のいっそうの発展に資するプロジェクトである。

［研究実施概要］
2007年度以来採集してきた用語およびその解説原稿を整理し、『中国社会経済史用語解』として刊行した。

③「東アジア都城の考古学的調査・研究（3）」

総　括　　清水信行
田村晃一、飯島武次、妹尾達彦*、井上和人、小嶋芳孝、早乙女雅博

本研究班では、渤海を中心として東アジアにおける都城の比較研究を行い、その研究成果として2004年度に『東アジアの都城と渤海』（全394頁）を、2006年度に『渤海都城の考古学的研究Ⅱ』を公刊した。しかしその中心となる渤海上京龍泉府址（東京城）出土遺物の調査・研究は、予想以上に多数の遺物があったため、一部の遺物の調査・研究を継続実施する。

［研究実施概要］
長春、延吉、牡丹江市の渤海遺跡を踏査し、その資料と遺物について調査をおこなった。

④「前近代中国民事法令の変遷」

総　括　　山本英史
南　宋　　大澤正昭、青木　敦
元　代　　鈴木立子
明　代　　鶴見尚弘
明清代　　岸本美緒、濱島敦俊、寺田浩明、西　英昭、高遠拓児

宋代以降の戸婚・田土・銭穀などを扱う「民事」法令を分析し、どのように変遷してきたかを明らかにする。中国の各時代の様々な法についての研究の中でも、近20年の特徴のひとつとして、法令の有効性、厳格性などを版牘文や契約文書によって検討する研究がなされてきたことがあげられる。契約文書や多くの条例、版牘文などが発見され、また中国国内にあるものが利

用しやすくなったことにもよろう。本研究班も過去5年間、この方向で研究活動をしてきた。この5年間の研究を通して、あらためて法令そのものに視点をあてることが必要であることに到った。民事的な法令に限ったのは、社会状況を反映しやすく、社会の実態の変化を分析するに適していると見ているためである。一度できた法は常に現実社会に適合しにくくなってゆくが、時代を通して考察することにより、漢族社会の大きな変容をつかむことができると考える。

［研究実施概要］

a）2010年度に引き続き、宋～清の条例の収集を進め、特に宋・元期の文献資料について目録作成作業を行った。

b）収集した条例の整理、解読を行うべく、メンバー以外の研究者もふくめ、定期的に研究会を開催した。

(2) 近代中国研究班

「20世紀前半日本の中国調査」

総　括　　本庄比佐子
経　済　　久保　亨、金丸裕一、弁納才一、富澤芳亜、吉澤誠一郎
政　治　　内山雅生、松重充浩、田中比呂志
文化・社会　飯島　渉、佐藤仁史、浅田進史、瀧下彩子◎

本研究は、近代中国研究班が、それ以前の近代中国研究委員会時代から引き継いで行ってきた研究で、1910年代から40年代にかけて日本の諸研究調査機関が、華北を中心とする中国で実施した調査活動に関する資料収集とその分析を継続するものである。従来の日本側資料に加え、本研究では中国側資料の検討も行い、華北を重点としながらも、地域的特質を検討するために、華中南を含めて全国的規模に対象地域を拡大する。そして日本側および中国側資料の活用について、近年の研究成果を踏まえながら、新たな視点から再整理をはかり、20世紀前半期の中国社会の全体像を考察する。さらに戦前・戦中期の日本の研究機関等による中国実態調査資料の収集を継続するとともに、中国の研究機関等との共同研究を発展させる。過去に、中国社会科学院、上海市档案館、青島市社会科学院、山東社会科学院などとの共同研究により、日本国内外に散逸していた近代中国研究にとって必要不可欠な資料の収集を

実施してきた。本研究では、新メンバーの加入を契機に、交流拠点を北京大学や南開大学、山西大学および南京大学等に拡大し、中国近現代史に関する重要資料の散逸を防ぐためにも、東洋文庫に資料を蓄積し、その分析を進めて目録・解題等を作成し、日中両国の共同研究を発展させる。

［研究実施概要］

a）2012年2月12日に国際シンポジウム「華北の発見」を開催し、①地域概念としての華北、②華北の農村と社会、に焦点をあて、2009年より実施してきた戦前期日本の華北調査に関する研究についての報告を行った。報告者は本研究班のメンバーに加え、張利民氏（天津社会科学院）、張思氏（南開大学）、江沛氏（南開大学）を招聘し、リンダ・グローブ氏（ハーバード・エンチン研究所）にも報告を依頼した。また、コメンテーターとして笠原十九司氏（都留文科大学）、光田剛氏（成蹊大学）が参加した。

b）上記シンポジウムの成果をとりまとめ、2013年に『調査資料を通して見た華北の地域概念』を刊行するため、研究会を行った。

c）研究成果の一部を、『近代中国研究彙報』に発表した。

(3) 東北アジア研究班

①「日本所在近世朝鮮文献資料研究（2）」

総　括　　六反田豊
吉田光男、糟谷憲一、井上和枝、須川英徳、武田幸男、
森平雅彦、山内弘一、山内民博

2004年度以来継続してきた、京都大学附属図書館、天理大学附属図書館今西文庫をはじめ、日本各機関・個人が所蔵している朝鮮近世の記録類の第2次調査を行い、解題目録の完成を期する。従来、近世朝鮮のいわゆる朝鮮本と言われる古典籍については、総合的な調査が進行し、ある程度その全貌が解明されてきた。しかし主として成冊と言われる、帳簿を中心とした、地方資料・民間資料などの記録については、全体的な調査がほとんど行われてこなかった。第1次調査では、すでに現地に残存が確認されていない資料を発見し、内容分析を行ってきた。第1次調査と今回の第2次調査によって、日本における該当資料は悉皆的な調査を行うことができる。

［研究実施概要］

a）『日本所在近世朝鮮文献記録類解題 II』の刊行にむけて、準備作業を進めた。

b）東京大学総合図書館所蔵資料や京都大学附属図書館所蔵資料を主要な対象として、個々の調査資料の分析やそれらの諸資料が日本に将来された経緯の調査・研究を行った。

②「清朝満洲語檔案資料の総合的研究（2）」

総　括　　松村　潤

満洲語档案　加藤直人、中見立夫、楠木賢道、細谷良夫、柳澤　明

清代の第一公用語である満洲語は、清初ばかりでなく、清朝一代にわたって用いられた言語である。18 世紀の乾隆帝代より、京師に暮らす旗人たちは、日常語として漢語をもちいるようになっていったが、文章用語としての満洲語は、民国にいたるまで継続して利用された。現在、北京・中国第一歴史檔案館には、約 1 千万件の文書資料が保存されているが、その半分は、満洲語（または漢語とのいわゆる合璧）によって記されたものである。このことは、清代の文書伝達体系全体において、満洲語の利用が不可欠であったことを示している。とくに入関前（1644 年以前）および清初の時期の文書・書籍、ならびに旗人、藩部をはじめとする辺境地方、そして対外関係等の文書において、多くの場合満洲語が用いられている。本研究は、これら満洲語で記された、または場合によっては印刷された清代の文献資料について、清初期を中心として総合的に検討を加えようとするものである。

［研究実施概要］

a）清初の「内国史院」関係文献と『鑲紅旗満州衙門檔案』の研究を実施した。

b）『内国史院檔天聰五年 II』の編集作業を行った。

c）崇徳年間分の檔案研究を継続した。

③「清代東アジア・北アジア諸領域の歴史的構造分析（2）」

総　括　　石橋崇雄

岸本美緒*、C.A. ダニエルス、柳澤　明*

中国では北京オリンピック開催準備をめぐる国家事業が急進するなか、それまで内在していた政治・経済・民族・文化問題がチベットをめぐる自治区

の問題に端を発して表面化し、その影響は広く中央アジア・北アジア領域世界にも及んだ。そこには、中国内地の諸領域世界とその周辺に連なる諸領域世界との一体化を進展させた清朝の最大版図が直接に現代中国と繋がるなか、その一体化から生じた政治・経済・民族・文化の問題も現代中国に直結していた反映と捉えられる特徴が多々窺える。本研究班では、このような観点から、清朝の国家領域構造と対外関係の問題を総合的に研究・分析してきた。刊行予定の英文論文集にその成果を反映させると共に、引き続き清代東アジア・北アジア諸領域における歴史的構造の全容を総合的に捉える研究体制を構築するべく、清朝の国家領域構造と対外関係を分析する上で不可欠な檔案（公文書）類のうち、保存収蔵状況が未詳な檔案類を中心に体系的に蒐集、整理、デジタル化し、向後の研究に貢献することを目的とする。

［研究実施概要］

a）清代中国西南民族史の各専門研究領域をもとに、既成の領域世界・時代区分の枠を越えて海外における図書館・檔案館・研究機関などに所蔵されている檔案文献史料類の史料調査・現地調査を実施して整理・分析作業を行った。

b）上記の文献史料類について、目録作成を進めた。

(4) 日本研究班

「岩崎文庫貴重書の書誌的研究（2）」

総　括	今西祐一郎
語　学	酒井憲二、柳田征司、石塚晴通
文　学	深沢眞二、上野英二、大谷俊太、辻本裕成、杤尾　武、宮崎修多
思想・文化	齋藤真麻理、和田恭幸

東洋文庫所蔵の岩崎文庫には日本の文化・文学・言語を研究する上で重要な典籍が数多く所蔵されているが、その書誌的調査は未だ十分にはなされていない。2009年度までに室町時代以前に成立した古写本・古版本についての書誌解題（Ⅰ～Ⅵ）を公刊してきたことを受けて、ひき続き近世の成立ないしは刊行の貴重書を調査して研究の基盤を整備するとともに、その成果を広く公開することをめざしている。

［研究実施概要］

a）江戸期刊行・成立の歌書約100点について、書誌調査を行い、研究会を催してその資料群の全体像の把握に努めた。

b）上記a)の成果を『岩崎文庫貴重書書誌解題Ⅶ』として公刊するため、編集作業を進めた。

〈内陸アジア研究部門〉

(1) 中央アジア研究班

①「サンクトペテルブルグ所蔵古文献の研究－ウイグル文を中心として－」

総　括　　梅村　坦
ウイグル　　庄垣内正弘
コータン　　小田壽典、松井　太、熊本　裕

東洋文庫が入手したサンクトペテルブルグの東洋学研究所のマイクロフィルムのうち、ウイグル語とソグド語については『東洋文庫所蔵St.Petersburgウイグル文字・ソグド文字・マニ文字写本マイクロフィルム仮目録［第1稿］』として、初期の現地での実見データの一部を取り込んだフィルム番号整理一覧を、2002年に刊行した。その後、マイクロフィルムのデータを昨年までのプロジェクトでデジタル整理を続けた。ほぼ完成に至った目録の改訂版を原稿とし、冊子かデジタルデータの形で編集し直して刊行することは、内外研究者の要望に沿うことになる。ただし、東洋文庫と東洋学研究所の初期の契約の制約があるため、その刊行方法については慎重に検討をおこなうものとしたい。ついては、ウェブ上に未公開のものを含む大英図書館蔵のウイグル文字文献の一覧表などと合わせて刊行する可能性も検討したい。その中から、文書研究の成果についての論文をこれに付すこととする。

［研究実施概要］

a）2010年度にひき続き、目録整備情報をベースとして文献研究を進めた。

b）古ウイグル文を中心とする古文献の書式整理を通して分類をすすめるとともに、個々の古文献研究の文献リスト整備をおこなった。

c）漢文との合璧文献を中心として、中央アジア研究班③「漢語文献」グループとの協同研究を実施した。

d)「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵ウイグル文献目録（増補版）」（DVD 版）作成準備を進めた。

②「近現代中央ユーラシアにおけるイスラームと政治権力」

総　括　　小松久男*
梅村　坦*、新免　康、濱田正美、長縄宣博、濱本真実、堀川　徹

ソ連解体（1991 年）以後、中央ユーラシア近現代史研究は、大きく可能性が開かれた。これまでアクセスが不可能であった多種多様な史料が公開され、また現地の研究者との共同研究や外国人研究者による現地調査も可能になったことは、決定的な意味をもっている。こうした中で、本研究は次の 2 点を課題とする。

第一に、8 世紀以降の中央アジア史を考えるとき、その政治と社会、文化においてイスラームが果たした役割を無視することはできないが、ソ連時代は無神論イデオロギーのためにイスラームに関わる諸問題は不当に軽視されてきた。いま新たな中央アジア史を再構成しようとするならば、この点を克服することが不可欠である。

第二に、ペレストロイカ以降、中央ユーラシア地域においてはイスラームの復興が顕著であり、イスラーム国家の樹立を目標とする急進派は、世俗主義を掲げる政権との間に鋭い緊張関係を作り出している。このような現代のイスラーム復興主義は、中央ユーラシア史の文脈においてどのように考えるべきだろうか。それには、近現代史におけるイスラームと政治権力との相互関係を実証的に検討することが不可欠である。

［研究実施概要］

a) 2010 年度に引き続き海外における資料収集を継続した。
b) 新規収集資料と東洋文庫の蓄積してきた豊富な文献資料とを活用し、研究会の開催などを通して、上記の課題に関する研究を推進した。

③「サンクトペテルブルグ東洋学研究所所蔵内陸アジア出土漢語文献マイクロフィルム目録のデータベース化」

総　括　　土肥義和
梅村　坦*、片山章雄、妹尾達彦*、荒川正晴、氣賀澤保規、
關尾史郎、池田　温、岡野　誠

2002年に東洋文庫が世界にさきがけて入手した東洋学研究所の内陸アジア出土文書マイクロフィルム（全363リール、約25万齣）には、4、5世紀から15世紀に及ぶコータン・サカ語、西夏語、チベット語、ウイグル・ソグド語、漢語、チャガタイ・トルコ語、サンスクリット語、アラビア語、ペルシア語、満洲語、モンゴル語の11言語の文書が含まれている。このフィルム資料の目録をデータベース化してそれを公開することは、わが国だけでなく、諸外国の研究機関・研究者の希求するところ切なるものがある。

本研究は、上記フィルムの中からとくに漢語文献を抽出してそのフィルム目録のデータ化を図るとともに内陸アジア出土漢語文献の特性を明らかにすることを目的とする。

［研究実施概要］

a）敦煌出土文献 Reels 256 ～ 363 中、チベット語文献について、リールに付された各文書整理番号とその齣数との対照作業を継続し、917件の文書を確認した。

b）定期的に「内陸アジア出土古文献研究会」を開催した。

(8) チベット研究班

①「チベット蔵外文献の書誌的研究（2）」

総　括　　吉水千鶴子
仏教思想　　川崎信定
敦煌文献　　武内紹人
ポン教　　御牧克己
宗義文献　　松濤誠達
歴　史　　山口瑞鳳
密教図像　　立川武蔵
言　語　　星　泉

チベット研究班においては、新たに発見された写本を中心とするチベット語資料を収集・保管し、歴史・文化・宗教の各分野にわたるチベット語文献の体系的網羅的なコレクションの充実をはかることを目的とする。収集した資料については目録化を行い、データベースとして公開すると同時に、敦煌チベット語文献、河口慧海将来文献などとともに東洋文庫所蔵チベット語蔵外文献として写本校訂と訳注研究を行い、電子データベースあるいはシリーズ刊行物として公開する。以上の3点により、世界的なチベット学の研究拠点として高い貢献を目指すものである。

［研究実施概要］

a）資料収集：2010年度に引き続き、近年中国で新たに発見された10～13世紀のチベット語写本の影印版、チベット語大蔵経文献、蔵外文献の電子版を収集し、その分析と目録作成をおこなった。

b）チベット人研究協力者の協力のもとに、次の研究を行った。

1. 筆記体写本の校訂：古いチベット語写本をチベット人協力者の指導を得て校訂し、活字体テキストデータベース作成をすすめた。
2. 1のデータベースをもとに文献の分析・研究を行った。
3. あらたにStudies in Old Tibetan Texts from Central Asiaシリーズをたちあげ、そのvol. 1として*Old TibetanTexts in Stein Collection Or.8210*を刊行した。

〈インド・東南アジア研究部門〉

(1) インド研究班

「インド刻文史料の蒐集と研究」

総　括	辛島　昇
	小名康之
ウルドゥー	萩田　博
ドラヴィダ	太田信宏、水野善文、石川　寛
アーリヤ	三田昌彦

インド（南アジア）の刻文研究は、これまでわが国でごく僅かな研究者しかいなかったが、近年、ドラヴィダ系言語について石川寛、太田信宏、アー

リヤ系言語について三田昌彦、古井龍介といった若手研究者が育ってきた。刻文は、「史書なきインド」の古代・中世史研究においての根本史料であるにもかかわらず、そのようなこれまでの状況から、わが国においては、テキストおよび研究書の蒐集が充分とは云えない。

他方、インド自体での刻文研究は、テキストの出版が遅れていることと、若手研究者が育たないことによって、危機的な状況にあるとさえ云いうる。また、世界的にも、インド刻文の研究者数は、極めて少ない。

そのような状況に鑑み、わが国の研究機関において、未出版のものをも含めてインドの刻文史料を蒐集し、それを国際的に公開しながら、わが国の新しい研究者の力を結集して、インド古代史・中世史の研究進展を図ることは、わが国のインド研究に課せられた急務と云えよう。

［研究実施概要］

a) 2010年度に引き続き、東洋文庫に所蔵のない刻文史料や、欠けているものについて、インド独立後の新しい出版物（とくに、州政府考古学局の）を購入、あるいはコピーの形で収集した。トランスクリプトは、許可を得て、マイソールの刻文部でコピーする必要があり、辛島昇（研究班総括）、太田信宏（研究員）、石川寛（研究員）がその作業を行った。

b) 個々の研究者が独自の研究を行うと同時に、研究班メンバーおよびインドの研究協力者が共同でなしうる幾つかのテーマについて研究を行った。

(2) 東南アジア研究班

「近現代東南アジアに関する史料研究」

総　括　　弘末雅士
　　嶋尾　稔、桜井由躬雄、北川香子、坪井祐司、牧野元紀◎

近代日本と東南アジアは、明治期の後半から緊密な関係を有し始め、第二次世界大戦期に日本は東南アジアを軍事占領した。また戦後日本は、東南アジアと緊密な経済関係を形成するに至っている。こうしたなかで日本の東南アジア研究も、この40年間に飛躍的な研究の発展をとげた。ただし日本の東南アジア研究は、第二次世界大戦後にいきなり始まったわけではない。すでに大正期より東洋史の東西交渉史の一分野として南洋史が注目を浴び、また南洋ブームの高まりとともに経済関係の文献も出版されていた。そして第

二次世界大戦期には、翻訳本も含め多数の東南アジア関係の文献が出版された。これらの文献は、一部の実証研究を除いて、学術的にあまり注目を浴びてこなかった。しかしそれらは、日本の東南アジア観を検討するためのみならず、東南アジア社会を考察する上においても、重要な資料となりうる。本研究は、従来力点が置かれた日本の東南アジア関与という観点からのみならず、当時の東南アジアの社会統合に果した日本人の役割の視点からその記述を検討し、日本人をはじめ中国人やインド人さらにはアラブ人や欧米人など多様な人々が居住した近代東南アジア社会の特質について研究する。

［研究実施概要］

a) 近代東南アジアの都市の社会統合に果たす日本人の役割に関する文献資料の収集と整理を行なった。合わせて、第二次世界大戦後に出版された戦前・戦中期の日本の東南アジア関係の文献について、目録作成をすすめた。

b) 東南アジアの主要都市を訪れ、日本人を含む外来系住民の居住空間の歴史的展開を調査した。

c) 研究会を開催して文献調査や訪問調査の成果をもとに議論を構築した。その成果は、本プロジェクト終了年度に、出版物として刊行する。

〈西アジア研究部門〉

西アジア研究班

「イスラーム世界における契約文書の研究（2）」

総　括　　三浦　徹
トルコ　　永田雄三、磯貝健一、林佳世子
契約観念　　後藤　明
トルコ・ペルシア
　　清水宏祐、堀川　徹*、守川知子、矢島洋一
アラブ　　佐藤健太郎、原山隆広◎

ワクフ（宗教的寄進）は、都市や農村の宗教施設を建設するだけでなく、経済基盤となり、政治権力者、名士、民衆の結びつきをつくった。ワクフに関わる、法学書、年代記、地理書などの叙述史料とワクフ寄進文書や調査台

帳などの文書史料を収集し、諸地域における実態と歴史的変容を解明する。

［研究実施概要］

a）第一期からの継続課題であるヴェラム文書（モロッコの契約文書、東洋文庫所蔵）について、文書解読のための研究会を定期的に開催するとともに、関連資料の収集や調査を行った。

b）ワクフ文書の総合的研究にむけ、関連資料の収集を行うとともに、研究会を開催した。

C．資料研究

〈資料研究部門〉

東アジア資料研究班

「東アジア資料の研究」

総　括	斯波義信◎*
総括補助者	田仲一成◎
日　本	浅野秀剛、片桐一男、永積洋子、延廣眞治、吉田伸之
中　国	丘山　新、小川裕充、佐藤慎一、鈴木博之、戸倉英美、濱下武志◎*、矢吹　晋*、平勢隆郎、片山　剛
朝　鮮	藤本幸夫
内陸アジア	森安孝夫
情　報	廣瀬紳一

中国、台湾、香港、東南アジア華人社会などに所蔵される文献資料の探索、各国図書館との国際的情報交換・資料交換・人的交流を目指す。

［研究実施概要］

a）台湾中央研究院との研究交流、資料交換を推進した。

b）宗教神事に関わる民俗芸能について日中間の比較研究をおこなった。

D．地域研究プログラム

(1) イスラーム地域研究資料室

「イスラーム史料情報学の開拓」

室　長　　三浦　徹*
堀川　徹*、磯貝健一*、大河原知樹*、近藤信彰、秋葉　淳*、柳谷あゆみ、徳原靖浩

本研究では、イスラーム地域の現地語史料について、書誌情報や文献情報の体系化を進めることによって研究の基盤を作り、同時に史資料の体系的な収集や利用のための環境を構築する。史料群を地域社会全体を表す縮図と捉え、これを体系的・俯瞰的に研究することによってイスラーム地域の重層的な像を解明することを目的とする。

［研究実施概要］

・史資料の収集と整理

現地語史資料の体系的な収集と目録化を継続した。言語別購入冊数（備品受入分）は、アラビア語 121、ペルシア語 207、トルコ語・オスマン語 102、洋書 22。

・史資料の利用促進・司書支援

a）アラビア文字資料の利用促進と利用者の検索スキルの向上のため、「論文を書く学生のための情報検索リテラシーセミナー」（7／25）を開催した。

b）「アラビア文字資料司書連絡会」（第 6 回）を開催し（3／1）、関係機関・大学図書館の担当者らと、NACSIS-CAT におけるアラビア文字の検索キーの正規化の問題や、リテラシー教育の実施について情報共有を行った。

c）「アラビア文字資料の検索方法（NACSIS Webcat 編）」を作成し、HP 上に公開した。また、図書館での目録作成作業を支援するため、特殊文字入力ツールを作成・公開した。

・史資料の研究

a）オスマン民法典の講読・翻訳を目的とする「シャリーアと近代」研究会を計 9 回行った。「売買の書」部分の訳稿をほぼ完成させ、語彙集の作成を進めた。

b）「オスマン帝国史料の総合的研究」研究会は、帝国末期の史料『覚書

(Tezakir)』の講読会を計6回開催したほか、「オスマン帝国史料解題」を作成し、HP上に公開した。

c) 他機関との連携・共催による中央アジア法制度研究会、中央アジア古文書セミナー、オスマン文書セミナーを開催した。

(2) 現代中国研究資料室

「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」

室　長　　高田幸男*
土田哲夫*、内田知行、川井伸一、貴志俊彦*、久保　亨*、小浜正子*、内山雅生*、田中　仁、服部龍二、中村元哉、瀧下彩子◎*、大澤　肇

中国研究に関するウェブやデータベースに関する情報を交換し、研究者の知見を広めるために、国内外の研究者・実務家を招いての国際シンポジウム及び小規模なワークショップを開催する。また東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会を継続して開催し、資料の読解能力を高め、若手研究者の養成をはかる(年数回)。また、データベースや文献資料以外に、現代史研究に必要な資料の史料学的研究を進めるセミナーなどを開催する。

[研究実施計画]

a) 東洋文庫所蔵及び新規収集の一次資料に基づいた共同研究会(王清穆日記読書会など)を3回、また新たに立ち上げた1950年代中国研究会を2回開催した。

b) 上述の読書会の成果として手書きの日記の一部を活字にし、「王清穆『農隠廬日記』」として『近代中国研究彙報』に掲載した。

c) 2011年が辛亥革命百周年にあたるため、関連する内容の市民向け講演会等を二度開催し、社会貢献を行った。

d) 近代中国で発行された新聞の大型データベース『申報数拠庫』の契約を行った。

e) 東洋文庫旧近代中国研究委員会(現・近代中国研究班)収集資料のWebcatへの登録を継続し、これまでに約4万タイトルが登録された。これにより、日本の中国研究全体における資料利用環境の整備に貢献した。

f) 電子図書館・資料関係について、2011年5月に資料研究会「中国におけ

る電子図書館・資料デジタル化視察成果報告会」を、同7月に慶應義塾メディアセンター・東大拠点・京大拠点と共催で、シンポジウム「電子書籍・資料のいま：日本と中国」を開催した。国内の学術・出版・図書館・IT産業関係者が報告を行い、百名以上の聴衆を集めた。

g) 2012年1月に電子図書館「東洋文庫近代中国関係資料デジタルライブラリー」の公開を開始した。画像をインターネット上で完全公開している資料は2012年3月末時点で146タイトルである。史資料デジタル化の工程が整ったため、今後の大規模デジタル化の道筋を切り開いたと言える。

E. 受託研究

「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」

（イスラーム地域研究資料室委託業務）

室　長　　三浦　徹*

堀川　徹*、磯貝健一*、大河原知樹*、近藤信彰*、
秋葉　淳*、柳谷あゆみ*、徳原靖浩*、近藤敦子*

本委託業務の目的は、ネットワーク型共同研究「イスラーム地域研究」の発展によって、グローバル化した現代のイスラーム理解を深化・向上させ、その成果を学界及び広く社会に還元すべく国際的な広がりを持つ新時代の共同研究拠点を構築することにある。また、共同研究実施にあたり、国内では公募研究を通じて幅広い人材の参加を促進し、国際的には研究者の協力のネットワークの強化を行い、さらに研究支援組織としても管理業務環境を整備・強化した事務体制を構築する。

財団法人東洋文庫では、イスラーム地域研究の史資料センターとしての役割を果たすべく、ひき続き、史資料の収集・利用の促進と、イスラーム史資料学の開拓に関わる研究開発を実施している。

［研究実施概要］

a) 公募による共同研究課題「イスラーム圏におけるイラン式簿記術の展開：オスマン朝治下において作成された帳簿群を中心として（2008～2012年度）」（研究申請者：髙松洋一［東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所准教授］）において、定例研究会「前近代ペルシャ語簿記術論の具体的考察：14世紀簿記術論 Resāle-ye Falakīye dar ‘elm-e siyāqat（ヴァ

ルター・ヒンツ校訂）講読」を8回開催した。2012年2月にビルギン・アイドゥン氏（イスタンブル・メデニイェト大学）を招聘し、オスマン朝の写本に関するセミナーを京都で1回・東京で2回開催した。2012年2月から3月にかけて写本資料の調査・収集のために、研究協力者2名をトルコ共和国とイラン・イスラーム共和国に派遣した。

b）拠点強化事業「日本における中東・イスラーム研究文献データベース」遡及入力事業（研究代表：後藤敦子）を実施し、当該地域・分野の文献書誌を調査し、データベース化を行った。遡及したデータをNIHUイスラーム地域研究東洋文庫拠点のデータベース検索サイト（http://www.tbias.jp/document_research.cgi）で公開した。

c）2011年7月に大学学部生・院生を対象に第1回「論文を書く学生のための情報検索リテラシーセミナー」（共催：NIHUイスラーム地域研究東洋文庫拠点）を開催した。

d）「イスラーム地域研究」の史資料センターである東洋文庫拠点を整備し強化するために、関係資料を購入し、利用に供した。

F. 日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究

1）研究成果公開促進費（データベース等）

「東洋学多言語資料のマルティメディア情報システム」
［東洋文庫電算化委員会委員長：斯波義信］

［目　的］

本プロジェクトは、東洋学に関する世界5大機関の一つに数えられる研究所・図書館である財団法人東洋文庫が80年にわたり収蔵してきた言語種類50数種、部数約500,000件、冊数約1,000,000冊におよぶ大量の多言語資料を、書誌データのみならず、図像・地図などの画像資料、Video・DVDなど動画資料をふくむマルティメディア・データのレベルまで拡大してデータベース化し、これをインターネットを通じて、内外の研究者が自由に検索できるようにすることを目指している。

書誌データは1994年に入力を開始して以来、約15年を経て、600,000件に到達し、完成の目途がついてきた状態にあり、これを踏まえて、2004年度以降は、デジタル撮影の手法によるマルティメディア・データの構築に重点を移した。従来、岩崎文庫・モリソン文庫・梅原考古器物などは、マイク

ロフィルムによる複製保存を行ってきたため、現在まで約6,000件、1,000,000コマを越える貴重書フィルム（35 mm）を所蔵している。これをスキャナーにより画像をとりこみ、全頁データベースとして公開してきた。また、地図・絵画・貴重書全頁データについては、最新技術によるデジタル撮影により精度の高い画像データベースを構築してきた。さらに1970年代以来、中国の現地調査で得られた「農村の祭祀と演劇」に関するvideo資料を動画データベースとして公開する計画も一部実行してきている。これらの努力の結果、2002年度において毎月2,000件であったアクセス数は、2008年9月末の段階で、当初の50倍、100,000件に到達した。今後は書誌データについては、分類による検索を付加して、利用者の検索を容易にし、画像データについては、引き続きデジタル撮影を継続して、その量的拡大とメタデータの充実をはかる。また、動画については、この3年間に400分を公開したが、一層の充実を目指す。

［事業実施概要］

以下のデータベースを作成、公開した。

(1) 書誌データベースの補充
  a) 中国語逐次刊行物検索
  b) 日本語逐次刊行物検索
  c) 朝鮮・韓国語逐次刊行物検索
(2) 全文公開データベース
  a) モリソンパンフレット
(3) 画像データベース
  a) 青樓美人合姿鏡
  b) 岡場所風俗圖志
  c) 石燕画譜
  d) 伏見鳥羽戦争洛首
(4) 動画データベース
  a) 莆田木身目連戯
  b) 白蛇伝

2) 基盤研究（B）

(1)「1910～1930年代における日本の中国認識―華北地域を中心に」

［研究代表者：本庄比佐子］（2009年度採用、5ヶ年間・第3年度目）

［目　的］

1910～30年代に日本の各種研究調査機関が中国華北地域で実施した調査活動を網羅的に整理するとともに、その調査内容と同時期の中国側資料や近年の研究成果などを比較検討することを通じて、当該時期における華北地域の政治・経済・社会文化、及び日中関係の特質を歴史的・総合的に考察することを目的とする。

第1に、我々がこれまでに行った興亜院や青島守備軍の調査活動に関する研究成果を基礎に、満鉄北支経済調査所、東亜研究所、及びその他の機関などによる調査も含め、日本による華北調査の全体像を明らかにする。

第2に、中国側の資料と研究成果などを参照しながら、20世紀前半における華北地域の変化の過程を明らかにする。

第3に、これまでの学術交流をさらに進め、中国の研究機関・研究者との共同研究を発展させる。

［事業実施概要］

(1)　前年度のワークショップにおける検討を通して、「華北」地域の概念について考えることの重要性を共通認識とすることができたので、これを更に発展・深化させるべく23年度は公開シンポジウム「華北の発見」を開催し、以下のような13件の報告が行われた。「地域概念としての華北」の部においては、戦前戦中期日本の図書・新聞・雑誌（「外地」発行のものも含む）に見られる日本人の華北認識、独中関係史から見た華北、これら華北概念の外来性に中国に古くからある「西北」概念を対置することで見える華北、近30年間の中国における研究状況など6件の報告があった。「華北の農村と社会」の部においては、戦前期日本の中国農村研究における「華北」理解、戦中期日本の食料・農産物調査にみられた「華北」認識、人民共和国時期の追跡調査にみる華北農村の変化、民間信仰にみる江南社会と華北社会、戦前期日本人の中国観光旅行にみえる「華北」観、近代交通体系と華北都市の変遷、など7件の報告があった。これらの議論を通して、1910年代以降の日本人の華北認識の基礎にあったのは経済的要素であったが、1930年代以降には「華北5省」に象徴されるような日本の政治的・軍事的侵出のための認識が生まれたこと、そして地理的範囲の変遷もあったこと、などが具体的事例に基づいて明らかにされた。他分野の研究者も含め約120人の出席を得たことは予想以上であった。

(2)　上記シンポジウムには中国の天津社会科学院と南開大学歴史学院から3名の研究者の参加を得ることができた。これらの人々の報告を通して中国

における「華北」の捉え方と研究状況、また檔案・史料の発掘状況もわかり、交流を深めることができた。

(2)「南インドの刻文に見る中世宗教運動の展開」

［研究代表者：辛島　昇］（2009年度採用、3ヶ年間・第3年度目）

［目　的］

本研究は、研究代表者と分担者が、連携研究者、研究協力者（海外共同研究者）の協力を得つつ、10世紀以降の中世南インドのタミル語およびカンナダ語の刻文、とくにマタ（僧院）の活動を記す刻文、を検討することにより、先行する時期から生み出されてきたヒンドゥー教思想の新しい理念が、当該時期における宗教運動の展開とどう関連し、社会の変化とどう関わり合ったのかの解明を目的とするものである。また、同時にそれは、北インドのサンスクリット文化が南インドにもたらされ、その地の伝統文化との間で、どのような相互作用が起こったかを考察し、インド亜大陸で繰り広げられた文化相互作用に新しい知見を得ようとするものである。

すなわち、それは、ある地に外来文化がもたらされた場合、それが伝統文化にどのような影響を与え、人々や国家とどのような関係を取り結び、そこにどのような新しい思想や文化が形成されたのかを探り、その展開を、現実に行われた宗教運動として跡付けることを目的とするものである。それはまた、国際協力での、刻文を史料とした共同研究により、従来、哲学思想、あるいは単なる社会経済史の検討に止まっていた研究状況を打開し、南アジア研究に、新しい局面を切り開こうとするものである。

［事業実施概要］

2009年度には、10～13世紀の刻文を調査し、マタの活動を検討した。その結果、13世紀に活動が活発になり、北インドのサンスクリット文化による南インド伝統文化の触発と相俟ち、新たにタミル・シャイヴァシッダーンタ派が成立したことを明らかにした。その結果は *Indian Historical Review*, 37-2（2010）に発表した。2010年度には、14世紀以降の刻文を調査し、10～17世紀におけるマタ活動の変遷を明らかにした。その結果、マタ活動のピークは13世紀で、シャイヴァシッダーンタ派の成立は、当時の社会変動と密接に連動していることが判明した。成果は *Indian Historical Review*, 38-2（2011）に発表した。

以上を踏まえ2011年度には、刻文史料を全体的に今一度精査すると同時

に、これらの資料を今後の研究に役立てるべく、関連刻文の全体を、その簡略な内容他の情報と共にデータベース化する作業を行った。さらに、以上の成果を学界で共有すべく、ドイツのクルケ教授と、スリランカのパドゥマナーダン教授を招聘し、日本の研究者との交流を図った。クルケ教授は東京と京都で、東南アジアとインドにおける古代・中世の国家形成について、パドゥマナーダン教授は東京で古代・中世スリランカにおける国家と宗教の問題について講演し、参加者全員で今後の研究の在り方について論じた。それらは、データベースと共に、出版したく考えている。以上のように、23年度の研究は、滞りなく遂行された。

(3)「「モノ」の世界から見た中世イスラームの女性〜ガラス器と陶器を中心に〜」

［研究代表者：真道洋子］（2011年度採用、4ヶ年間・初年度）

［目　的］

イスラーム時代の美術品、考古資料および文献資料、特にガラス器と陶器を通じて、イスラームの女性が営んでいた生活文化を明らかにすることをこの研究の主な目的にしている。いわゆる現代の社会的ジェンダー論ではなく、時代を中世に設定し、出土遺物の具体的使用法、絵画や陶器に描かれた図像、文献史料に描かれた記載などから当時の女性の生活や活動の実態について、食生活や化粧、医薬などをテーマとして実証していこうという試みである。地域的には、東地中海地域とイラン地域を対比させながら、各時代の特質や変容について検討を行う。これによって、イスラーム時代の女性を取り巻く世界からみたイスラームの生活文化史の構築を目指し、さらに「モノ」を通じた異文化理解論の創生に発展させる足掛かりとしたい。

取り上げる各論のテーマとしては、食、化粧、装飾を柱として、それぞれの器具と生活及び文化との関連を考察する。食に関しては、調理・食事に関わる容器や道具類を考古資料と文献史料から抽出して比較検討を行う。化粧に関しては、とくにイスラームの産物であるクフル（アイライン用顔料）とバラ水を取り上げる。装飾に関しては、人々の好みが大きく反映されることから、地域性、時代性を見ていく資料とする。

以上の観点から、「モノ」を通じてイスラームの女性像を明らかとしていく。

［事業実施概要］

研究実施の初年度にあたる2011年度は、考古学、美術史、文献史学、そ

して、建築学のそれぞれの専門家が問題提起を行い、基礎研究を行った。考古学の分野では、研究代表の真道と研究協力者の川床睦夫が中心となり、早稲田大学・出光美術館・中近東文化センターによって1978年～1985年にかけて実施されたエジプトのフスタート遺跡の発掘調査で出土した遺物の画像取り込みを行った。また、欧米を中心とした美術館のカタログや美術書から関連画像の取り込みとデータベース化も行った。そして、これらの資料に基づき、真道がフスタート郊外で発見された同時代資料の『ゲニザ文書』に見られる花嫁持参品リストとフスタート出土の考古資料との対比から女性の装身具の特質についてまとめ、マムルーク朝期における多彩なガラス製装身具の展開について論じた。文献史料では、連携研究者の尾崎が料理関係のアラビア語文献を読み進め、料理器具、とくに、鍋について論考を進めた。

海外調査としては、7月にベルリンとパリに収蔵されているイスラーム時代のガラス製クフル（化粧顔料）用容器の調査と1月にイスラーム建築が専門の深見奈緒子早稲田大学准教授とともに、スペイン、アンダルシア地方の現地調査を実施した。これによって、スペインにおけるイスラーム建築、レリーフ・カットガラスに代表されるイスラーム・ガラスとラスター彩陶器の実態究明に努めた。

(4)「イスラーム法の近代的変容に関する基礎研究：オスマン民法典の総合的研究」

［研究代表者：大河原知樹］（2011年度採用、3ヶ年間・初年度）

［目　的］

本研究の目的は、19世紀半ばにオスマン帝国によって編纂されたメジェッレ（Mecelle-i Ahkam-i ‘Adliye：以下M法典と略）の内容、性質および位置づけの再考を通じた、中東における近代の法制度改革と現代の法制度への影響の批判的検証である。

本研究は、M法典の総合的研究であり、そのためにまず法典全1851条の訳文を確定することを最大の目標とする。そのためには、年間10回程度の研究会を開催し、条文ごとに訳語を確定する。最終的に公開できる段階まで達した各条文には詳細な訳注を付して、刊行その他の手段によって公開する。これは近代法、イスラーム法およびイスラーム地域研究に関心をもつ研究者が簡便に利用できるようにする。M法典に関する基本文献、研究文献、研究資料は日本ではごくわずかしか収集されていないため、これを期間内に積極

的に収集し、世界的にも通用するコレクションを研究拠点に整理・収蔵し、目録を作成し、版権の問題のない文献についてはウェブ公開して目録化し、広く研究者たちの利用に供する。最終年度には現代中東法制史の海外研究者を招聘して国際シンポジウムを開催し、オスマン民法典研究の国際レベルでの発展を促す基礎としたい。また、イスラーム法用語に関する諸語（英語、仏語、アラビア語、トルコ語）の参照用語集を作成し、ウェブ公開する。

［事業実施概要］

2011年度は、研究体制の確立の段階であり、年度内に9回の定期研究会を開催した。

これらの定期研究会において、オスマン民法典であるメジェッレ（以下、M法典）の中では「序章」とは異なった意味で最も重要な意味合いをもつ「第1章　売買〔契約〕の書」（101～403条：全303条）の訳文を検討し、ほぼそれを終えた。しかしながら、若干の条文の検討が完了しなかったために、公刊するまでには至らなかった。「売買の書」の訳出作業にあたって、日本民法専門家から、イスラーム法の特性として、(1) 売買契約の分類、(2) 売買契約における売買目的物の引渡しと受領の規定の多様性、(3) 選択権の種類の多様性などが指摘された。また、イスラーム法専門家は、M法典の中に、時代の要請に合わせた法解釈を発見し、具体的な条文として、製造物供給契約（イスティスナー）規定（2篇7章4節389条）をあげた。ハナフィー派の通説では一般的に「無効な契約」とされてきた契約（たとえば服の製造）を、これまでは少数派意見であったクヒスターニーの学説を採用して有効化したことが確認された。このようなイスラーム法の近代的な変容のプロセスについて、今後の研究会でも積極的に明らかにしていきたい。

また、トルコとキプロスにおいて海外調査を実施し、これまで日本に招来されていなかった文献をかなりの程度購入した。アラビア語版のM法典の校訂作業については完了した。年度末には、それまでに確定した専門用語についてデータ入力、整理を実施した。

3）基盤研究（C）

(1)「近代の地方名士　―マニサ地方を中心に―」

［研究代表者：永田雄三］（2010年度採用、3ヶ年間・第2年度目）

［目　的］

本研究は、申請者が長年研究を続けてきたトルコの地方名士（アーヤー

ン）に関する研究の一部である。地方名士に関する研究は、トルコに限らず、オスマン帝国（1299 ～ 1922）の支配下に置かれていた中東およびバルカン地域の 18 世紀から 19 世紀にかけての政治・社会・経済・文化の全般におよぶ最も重要なテーマであり、当該地域に対する歴史的理解の前提である。申請者はこれまで主として前近代トルコの地方名士研究を行い、その成果を和文・トルコ文・英文による論文・著書として公表してきた。本研究は、その結果をふまえて、新たに近代における地方名士層の国家および在地社会との関係の変容過程を明らかにしようとするものである。

オスマン帝国における地方名士の研究は、うえに述べたような問題意識から国際的に広く展開されている。申請者は、日本人としての視点から、明治維新変革の担い手の一角を占めた豪農層、中国の郷紳層、イギリスのジェントリ層など、同時期の世界史上にあらわれた「名望家」層との比較研究を射程に入れている。

［事業実施概要］

2011 年度は、トルコの「総理府オスマン文書局」に所蔵されている 1845 年付マニサ地方「資産台帳」全 66 冊を収集し、1 年をかけてこれを読破した。この作業によって、約 3 万人に達するマニサ地方の都市民・農民・遊牧民の資産状況を分析し、かつその中にカラオスマンオウル家を位置づけることに努めた。結論をいえば、この時期に始まった中央政府による近代化改革、すなわち中央集権化政策と 1838 年の「英土通商条約」の締結による国際貿易の拡大とを契機とした地方社会の変容過程のなかで、カラオスマンオウル家は、その富と権力の源泉の一つであった徴税請負権こそ失ったものの、経済的基盤であったチフトリキ（大農場）経営を通じて地域の農業生産とその市場化過程を掌握しつづけることによって、地方名士としての地位を持続させていた。しかし、同時に社会変動に伴う新たなライバルの出現は、この一族の地域社会における独占的な地位を相対化させる方向に世の中を動かしつつあった。本研究の成果は、東洋文庫の英文紀要 *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko* No. 70 に「19 世紀中葉トルコの地方名士―カラオスマンオウル家を事例として―」と題して英文にて出版の予定である。

(2)「内陸アジア出土 4 ～ 12 世紀の漢語・胡語文献の整理と研究」

［研究代表者：土肥義和］（2010 年度採用、3 ヶ年間・第 2 年度目）

［目　的］

本研究は「内陸アジア出土4～12世紀の漢語・胡語文献の整理と研究」と題して3年間の計画で遂行するものである。旧来、中国の正史に代表される編纂史料を中心に進められてきた内陸アジア諸地域（敦煌やトルファン、ホータン、チベットなど）の諸民族の歴史に対して、本研究は、現地で各時代に作成された漢語文献・胡語文献（非漢語諸民族文献）を用いて、とくに内陸アジア諸民族の文化や社会の諸相について新考察を加えることを目的とするものである。

具体的に述べれば、研究期間中、まず（1）東洋文庫が近時、ロシア科学アカデミーから入手した内陸アジア出土文書のmicrofilm（約25万齣）に含まれている4～12世紀に書かれた漢語・胡語文献の「文献番号・齣数対照目録」を作成し、かつ（2）そこで抽出された文書資料を、関連する漢語・胡語文献の資料群の調査結果とも比較して分析することによって、胡漢諸民族の文化や社会の諸問題を究明する。

上記の目的に従って作業と研究はすでに進行中である。

［事業実施概要］

研究代表者土肥義和と研究分担者岡野誠・片山章雄の3名は、研究実施計画にもとづき、以下の整理作業と調査研究を行った。

(1)　東洋文庫がロシア科学アカデミーから入手した内陸アジア出土文書マイクロフィルム363リール中の、古ウイグル・ソグド語文書マイクロフィルム30リールに含まれる胡語・漢語文書を抽出し、「文書番号・齣数対照目録」のデータベース化の方針を決めて作業に入り、7割程度の進展を見た。リール19の漢文文書全部に関しては、成果提示用のA4で136ページの稿本を作成した。

(2)　関連する漢語・胡語資料の所蔵機関の調査で、代表者土肥は旅順博物館の吐魯番文書の実見調査を行なって史科学的考察を進め、分担者片山は同館にて吐魯番文書・彩画の綴合や配置、赤外線撮影による判読の作業を進めた。また、片山は北京の中央民族大学新収の吐魯番文書に関する画像と提供者の解説文につき、翻訳公表の了解という副産物を得た。分担者岡野は北京大学図書館で敦煌文書に関わる李盛鐸旧蔵本及び宋代法制文献を実見調査した。土肥と片山の成果は画像提示を含む口頭発表で示し、旅順博物館関係者との共同論文の原稿を完成させて別途発表の予定である。

(3)　河南省における調査では、代表者土肥は未確認の少林寺や嵩岳書院・永岳寺・法王寺の石刻史料を調査し、また登封市歴史博物館（城隍廟）と中

岳廟の石刻史料を調査し、洛陽に移動して龍門石窟研究院で情報収集した。さらに開封では河南大学で情報収集して繁塔の調査も継続し、鄭州博物館にも赴いた。その成果も別途発表の予定である。分担者の岡野は、洛陽の古墓博物館でソグド人墓、龍門石窟で薬方洞を調査した。

4）特別研究員奨励費（外国人）

「祭祀演劇中の儀礼文化に関する日中比較研究：宗教学に基づく文学研究」
［外国人特別研究員：呉真、受入研究者：田仲一成図書部長］

（2009年度採用、3ヶ年間・終了）

［目　的］

本研究の目的は、現在の中国の巫系演劇である儺戯（仮面劇）や目連戯（地獄芝居）が、日本に古くから伝承されてきた地方祭祀芸能と同じルーツから出たことを明らかにする点にある。中国の学界では、この種の原始演劇に対して、これを演劇史の主流に位置づけようとせず、後世に高度に発達した鑑賞性演劇とは無関係とする考えが今なお強く残っている。中国では、早くから地方芸能が消滅し、巫系演劇と舞台演劇をつなぐリンクが失われ、これをつなぐことができないからである。本研究は、日本の地方芸能の中に現存する、このMissing Linkを、中国戯曲史と宗教学の双方に通じている中国籍の外国人特別研究員・呉真博士を通して、中国の学会に提示し、中国における演劇史の再構築を促すことを目指す。日本の各地に残る古い地方芸能の実態を、現地共同調査を通して、できるだけ系統的に示し、その資料を提出することで、この目的を達成したい。

［事業実施概要］

日本の祭祀芸能を中国との対比において研究することを目的とし、先に提出した実施計画に基づいて、重要な調査地点を順次に訪問し、フィールドワークを実施した。まず2011年5月、①高知県吉良川町の御田祭り、次に同年5月から6月にかけて、②岐阜県能郷の猿楽、③同高山市の春季祭礼、④奈良法隆寺の10年1度の聖霊会（行道行列）、⑤奈良春日大社の「呪師走りの翁」、⑥大阪住吉大社の御田植神事などを、連続して調査記録した。また、2011年9月には、⑦奈良市豆比古神社の古式翁舞、⑧京都市宇治田原町の三社宮座神事を、同11月には、⑨愛知県東栄町小林の花祭りを調査した。これにより、日本の古代祭祀、中世祭祀、近世祭祀について、広く考察することができた。具体的に言えば、まず古代祭祀については、④法隆寺の聖霊会によ

り、古代に大陸から日本に渡来した伎楽系の仮面の実態を考察し、さらに⑤翁芸の源流とみなされている法呪師による「呪師走りの翁」を考察して、日本芸能の基礎となる部分の理解を深めた。次に中世芸能については、②能の原始形態を伝える岐阜県能郷の猿楽、①夢幻能の初期形態を示す吉良川の小林の幽霊、⑦翁の中世的発展を示す奈良市豆比古神社の3人翁舞、さらに⑧中世宮座の原初形態を示す宇治田原町の神事などを考察できた。さらに近世祭祀としては、岐阜高山市の操り人形の精巧な演出を考察し、近世町衆の祭祀芸能の典型を考察できた。これにより、2009年11月に研究を開始して以来、古代祭祀、中世祭祀、近世祭祀のすべてにわたり、展望を得た。今後は、これを踏まえて、(1) 古代祭祀における大陸芸能の影響、(2) 中世祭祀における宮座組織と中国の宗族組織との異同比較、(3) 近世祭祀における市民社会の成熟度の日中比較などの課題にとりくみたい。また、日中両国語による報告書の刊行を計画している。

G. 東洋文庫研究員・研究課題一覧

研究員名	研究課題
會谷　佳光	和刻本を中心とした仏典の書誌学的研究
青木　　敦	宋代の法と経済
青山　瑠妙	現代中国政治・外交の研究
秋葉　　淳	オスマン帝国末期の社会及び制度
浅田　進史	独中関係史
淺野　秀剛	日本版画美術の研究
天児　　慧	現代中国の政治体制及び国際関係
新井　政美	トルコ近代史
荒川　正晴	中央アジア古代史
飯尾　秀幸	中国古代国家史
飯島　明子	メコン河流域地域在地文書の新開拓と地域史像の再検討
飯島　武次	殷周時代の考古学研究
飯島　　渉	医療社会史
池田　　温	中国中古史、前近代東亜文化交流史
池田美佐子	エジプト近現代史
池田　雄一	中国古代社会史
石川　　寛	南アジア史

研究員名	研究課題
石塚　晴通	日本語の歴史的研究、古代漢字文献学
石橋　崇雄	清朝政治史
磯貝　健一	イスラーム期中央アジア古文書研究
市古　宙三	太平天国及び中国共産党の研究
井上　和枝	李氏朝鮮時代郷村社会史研究・朝鮮女性史研究
井上　和人	東アジア古代都城制度の比較研究
今西祐一郎	源氏物語を中心とした平安時代文学の研究
上野　英二	平安朝文学の研究
内田　知行	中華民国社会史
内山　雅生	近代中国華北農村経済史
梅田　博之	現代朝鮮語の記述的研究
梅原　　郁	宋元時代の法制制度の研究
梅村　　坦	ウイグル民族誌、内陸アジア史
宇山　智彦	中央アジア近代史・現代政治
江川ひかり	トルコ社会経済史
大江　孝男	現代朝鮮語及び中期朝鮮語の研究
大河原知樹	19-20 世紀シリアの社会史・政治史
大澤　　肇	近現代中国における学校教育史
大澤　正昭	唐宋時代社会史
太田　信宏	南インド近世史
太田　幸男	秦墓竹簡の研究
大谷　俊太	室町・江戸時代文学の研究
岡崎　礼奈	日本近代美術史
岡田　英弘	アジア史
岡野　　誠	前近代中国の王権・国家・法、敦煌吐魯番文献
丘山　　新	中国仏教資料研究
小川　裕充	中国絵画資料研究
奥村　　哲	中国近現代史
小田　壽典	古トルコ語仏教文献の研究
小名　康之	インド・ムガール朝史
梶谷　　懐	中国の財政金融改革
粕谷　　元	トルコ現代史
糟谷　憲一	18-19 世紀朝鮮政治史

研究員名	研究課題
片桐　一男	日蘭文化交渉史の研究
片山　章雄	中央アジア古代史
片山　　剛	広東農村社会史研究
加藤　直人	清朝の民族統治政策・清代档案史料の研究
加藤　弘之	地域開発の現状と政策に関する実証研究
金丸　裕一	中国政治経済史・日中関係史
金子　修一	中国古代史
辛島　　昇	南アジア史
川井　伸一	中国企業研究
川合　　安	六朝貴族制の研究
川﨑　信定	チベット仏教の研究
川島　　真	近代中国外交史
菊池　英夫	唐宋時代の行政および法制の研究
貴志　俊彦	東アジアの通信メディアをめぐる比較史的研究
岸本　美緒	明清時代地方社会史
北川　香子	カンボジア史
北本　朝展	文献のデジタル・アーカイブ化
金　　鳳珍	東アジアの歴史・思想・国際関係
草野　　靖	中国王朝国家の発展と社会経済
楠木　賢道	清初の「民族」関係
久保　　亨	中国近現代史
窪添　慶文	魏晋南北朝時代史
熊本　　裕	イラン語史の研究
黒田　　卓	近現代イラン史
氣賀澤保規	魏晋南北朝隋唐時代の政治社会文化史
厳　　善平	中国の三農問題
黄　　東蘭	近代日中関係史
興梠　一郎	現代中国論、中国現代史
小嶋　芳孝	渤海文化の考古学的研究
小杉　　泰	現代イスラム政治の研究
後藤　　明	イスラム社会と政治の研究
小浜　正子	中国近現代都市社会史
小松　久男	中央アジア近代史

研究員名	研究課題
小南　一郎	中国藝能史研究
近藤　信彰	
斉藤真麻理	中世日本文学の研究
早乙女雅博	東アジア考古学の研究
酒井　憲二	日本語の史的研究
櫻井　　徹	在留外国人コミュニケーション誌の現況について
桜井由躬雄	ベトナム史
佐藤健太郎	マグリブ・アンダルス史
佐藤　慎一	中国近代政治史資料研究
佐藤　　宏	農村経済社会の長期変動
佐藤　仁史	近現代江南農村社会史研究
澤江　史子	現代トルコ政治
塩沢　裕仁	中国古代歴史地理研究
設樂　國廣	オスマン帝国末期政治史
蔀　　勇造	南アラビア古代史
篠﨑　陽子	前近代中国文化史
斯波　義信	中国社会経済史
嶋尾　　稔	ベトナム史
清水　宏祐	セルジューク朝時代イランの研究
清水　信行	古代の日本・大陸交流史
志茂　碩敏	13-14 世紀モンゴル政権中枢・中核の研究
庄垣内正弘	チュルク語の研究
城山　智子	近現代中国の通貨・金融システム
真道　洋子	イスラーム・ガラス文化史
新免　　康	中央アジア史
末成　道男	東アジア社会人類学
須川　英徳	高麗・朝鮮時代の商業
鈴木　恵美	現代エジプト政治史
鈴木　　均	イランおよびアフガニスタンの地域研究
鈴木　博之	徽州民間祭祀の研究
鈴木　立子	元朝社会経済史
砂山　幸雄	現代中国思想・文化・政治体制
妹尾　達彦	中国古代・中世都市史

研究員名	研究課題
関尾　史郎	敦煌・トルファン文書研究
関本　照夫	東南アジア伝統工芸業の研究
曽田　三郎	中国近代政治・社会史
高田　幸男	長江下流域の地域社会・エリート・教育団体
高遠　拓児	清代における刑罰制度の研究
瀧下　彩子	近現代中国文化史
武内　紹人	古代チベット語の歴史言語学的研究
武田　幸男	朝鮮古代・近世史
田島　俊雄	中国農業・農家の経済計算と所得分配
多田　狷介	漢魏晋史
立川　武蔵	チベット密教教理の研究
田中　明彦	現代東アジア国際政治の研究
田仲　一成	中国演劇史
田中　時彦	日本の政治的近代化の研究
田中　　仁	中国近代政治史—中国共産党史
田中比呂志	近現代中国の社会統合の研究
C. A. ダニエルス	清代社会経済史、中国技術史
田村　晃一	東北アジアの考古学研究
竺沙　雅章	中国仏教文化史
千葉　　畏	宋代宮廷史
辻本　裕成	中古・中世日本文学の研究
土田　哲夫	中国近現代史、国際関係史
坪井　祐司	マレーシア近代史
鶴見　尚弘	明・清時代社会経済史
寺田　浩明	中国明清法制史
唐　　成	現代中国金融の研究
唐　　亮	現代中国政治史の研究
徳原　靖浩	ペルシア文学・イラン思想史
戸倉　英美	中国古典文学資料研究
杤尾　　武	和漢比較文学の研究及び日本に伝来した漢籍の研究
土肥　義和	西域出土漢文文書の研究
富澤　芳亜	中国近代経済史
鳥海　　靖	日本近現代史

研究員名	研究課題
中兼和津次	現代中国経済・移行経済の研究
中村　元哉	中国近代政治史—憲政史・メディア史
長沢　栄治	近代エジプト社会経済史
永田　雄三	オスマン帝国社会経済史
永積　洋子	日本近世対外交渉史
長縄　宣博	帝政ロシアのムスリム社会と国家
中谷　英明	インド仏教学、中期インド語学
中見　立夫	清代モンゴル史、清代文書の史料的研究
新村　容子	近代中国におけるアヘン問題
西　英昭	中国・台湾の近現代法制史
西尾　寛治	マレーシア・インドネシア近世史
西田　龍雄	チベット・ビルマ語派の研究
延廣　眞治	江戸・明治の文芸
萩田　博	ウルドゥー語学・文学の研究
長谷川誠夫	宋代官僚制の研究
八尾師　誠	20世紀初頭のイランにおける立憲革命の研究
服部　龍二	東アジア国際政治史
濱下　武志	中国近現代史
濱島　敦俊	中国近世社会経済史
濱田　正美	中央アジアにおけるイスラーム研究
濱本　真実	ロシア・ムスリム史
林　佳世子	オスマン朝期中東社会史
林　俊雄	中央ユーラシア史・草原考古学の研究
原　實	インド古代文学の研究
原山　隆広	アッバース朝末期政治史
平勢　隆郎	中国考古資料研究
平野健一郎	近代東アジア国際関係論
平野　聡	中国党支配（国民党・共産党）の史的研究
弘末　雅士	インドネシア宗教社会史
廣瀬　紳一	漢字文化圏電子情報学の研究
深沢　眞二	連歌・俳諧の研究
藤井　昇三	日中国際関係史
藤田　忠	中国古代政治・社会史

研究員名	研究課題
藤本　幸夫	朝鮮本研究
古田　和子	情報・流通ネットワークの歴史的分析
古屋　昭弘	中国語史
弁納　才一	近現代中国農村経済史
寶劔　久俊	現代中国の農村社会経済変動の研究
星　　泉	チベット言語学
細谷　良夫	清朝政治史
堀川　　徹	中央アジア文書研究
本庄比佐子	近現代日中関係史
牧野　元紀	ベトナムのキリスト教
松井　　太	中央アジア出土ウイグル語・モンゴル語文献の研究
松重　充浩	近現代中国政治・社会史及び東北アジア地域史
松永　泰行	現代イランの政治・宗教及びシーア派研究
松濤　誠達	インド古代神話学の研究
松丸　道雄	殷周金文の研究
松村　　潤	東北アジア民族史
松本　　弘	イエメン地域研究、エジプト近代史、現代中東政治
丸川　知雄	中国の産業集積および日中経済関係
三浦　　徹	イスラム都市社会史
水野　善文	古典サンスクリット文学と中世ヒンディー文学
三田　昌彦	北インド中世史
御牧　克己	チベット宗義書の研究
宮崎　修多	近世近代漢詩文の研究
宮脇　淳子	モンゴル帝国史
村井　章介	日本中世を中心とする東アジア文化交流史
村上　　衛	清末沿海経済史の研究
村田雄二郎	中国近代ナショナリズム、改革開放期の文化問題
毛里　和子	現代中国政治・外交及び東アジア国際関係
本野　英一	清末民初における対外経済関係
籾山　　明	中国古代法制史・辺境論・資料論
守川　知子	イラン・イスラーム史
森平　雅彦	朝鮮中世・近世史
森安　孝夫	古代ウイグル文書の研究、中央ユーラシア古代中世史

研究員名	研究課題
矢島　洋一	
柳澤　　明	清代外交史・民族関係史
柳田　征司	日本語の歴史的研究
柳谷あゆみ	中世イスラーム政治史、イスラーム地域資料研究
矢吹　　晋	近現代中国経済
山内　弘一	李朝史、朝鮮儒教研究
山内　民博	朝鮮後期郷村社会史研究
山口　瑞鳳	チベット史、チベット語文法、チベット仏教研究
山村　義照	日本近現代史
山本　英史	17-19 世紀中国社会構造の研究
山本　毅雄	東洋学研究資料のデジタル・アーカイブ化
湯浅　　剛	中央アジア政治史
吉澤誠一郎	中国近現代史
吉田　伸之	日本近世都市社会史
吉田　光男	朝鮮近世史
吉田　　豊	ソグド語及びソグド語文献の研究
吉水千鶴子	インド・チベット仏教思想史の研究
吉村慎太郎	イラン近現代史
六反田　豊	朝鮮中世・近世史
和田　恭幸	日本近世出版文化史および通俗仏書の研究
渡辺　紘良	宋代社会史

（全 236 人）

2. 研究資料出版

プロジェクト研究および基礎研究では、中国語・朝鮮語・満洲語・ウイグル語・アラビア語・ペルシア語・トルコ語など、アジア諸語で記された文書・写本・刊本・地図などを用いて研究を行い、その成果を東洋文庫和文紀要に掲載するとともに、和文・欧文の研究叢書（「東洋文庫論叢」・「東洋文庫欧文論叢（TBRL）」）、訳注書、書誌解題などを単行本として出版する。これらの成果は、現代アジアの諸問題の解明に寄与するばかりでなく、国際的な発信を通じて国内外に大きな刺激をあたえ、アジア研究のさらなる進展に貢献

するものである。

A. 定期出版物刊行

(1)『東洋文庫和文紀要』(東洋学報) 第93巻第1～4号　A5判　4冊 (刊行済)
(2)『東洋文庫欧文紀要』(*Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*) No. 69　B5判　1冊 (刊行済)
(3)『近代中国研究彙報』第34号　A5判　1冊 (刊行済)
(4)『東洋文庫書報』第43号　A5判　1冊 (刊行済)
(5)『超域アジア研究報告』第8号　B5判　1冊 (刊行済)
(6) *Asian Research Trends New Series* No. 6　A5判　1冊 (刊行済)
(7)『東洋文庫年報』2010年度版　A5判　1冊 (刊行済)

B. 論叢等出版

(1)『モリソンパンフレットの世界』東洋文庫論叢75　A5判　1冊 (刊行済)
(2) *Old Tibetan Texts in Stein Collection Or.8210:* Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia vol.1　B5判　1冊 (刊行済)
(3)『中国社会経済史用語解』(東方書店と共同出版)　A5判　1冊 (刊行済)

C. 研究資料の全文オンライン公開

以下の研究部ホームページにおいて、順次研究資料の全文公開を行った。
http://www.toyo-bunko.or.jp/newresearch/publication_new.php

3. 研究情報普及

A. 講演会

(1) 東洋学講座

（春期）共通テーマ：東洋文庫新館竣工記念講演会

第523回　2011年5月16日（月）
「インド文化論―カレーと『ラーマーヤナ』―」
東洋文庫研究員
東京大学名誉教授　辛島　昇　氏

第524回　2011年5月23日（月）
「江南基層社会とその地域性―近代蘇松地方における郷村役の比較を通して―」
東洋文庫研究員
慶應義塾大学教授　山本　英史　氏

第525回　2011年5月30日（月）
「現代イスラーム世界の立憲主義と議会」
東洋文庫研究員
京都大学教授　小杉　泰　氏

（秋期）共通テーマ：東洋文庫新館竣工記念講演会

第526回　2011年11月17日（木）
「Anyuan：Mining China's Revolutionary Tradition」
ハーバード・エンチン研究所所長
エリザベス・ペリー　氏

第527回　2011年11月19日（土）
「東洋学の現在」
東京大学教授　姜　尚中　氏

第528回　2011年12月10日（土）
「楊逸と楽しむ東洋の妖怪ミラクルワールド」
芥川賞作家　楊　逸　氏
コメンテーター・東洋文庫研究員
牧野　元紀　氏

(2) 特別講演会

2011年10月7日（金）
"From the Great Divergence to the Great Convergence:
The Peculiar Trajectory of the Chinese Economy, 16th-21st Century Would be Relevant?"
Research Director, Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales
GIPOULOUX, Francois　氏
（通訳・司会：濱下武志・東洋文庫研究部長）

2011年10月25日（火）
"Umayyad Legitimacy and the Arabic Ode: al-Akhtal at the Court of 'Abd al-Malik ibn Marwan"
インディアナ大学教授
STEKEVYCH, Suzanne Pinckney　氏
（司会：三浦徹・東洋文庫研究員）

2011年12月1日（水）
"Before and Beyond Divergence: The Politics of Economic Change in China and Europe"
Director, UCLA Asia Institute
WONG Bing　氏
（司会：濱下武志・東洋文庫研究部長）

2011年12月2日（金）
「逆境の中の守りと前進—新発見史料より南京臨時政府の外交を見る」
中国社会科学院近代史研究所所長
王　建朗　氏

「東アジア史上の辛亥革命」

新羅大学歴史学部教授

裴　京漢　氏

（司会：高田幸男・東洋文庫研究員）

2012年2月12日（日）

「公開シンポジウム―華北の発見―」

天津社会科学院研究員

張　利民　氏

ハーバード・エンチン研究所所長

リンダ・グローブ　氏

南開大学教授　江　沛　氏

南開大学教授　張　思　氏

（司会：本庄比佐子・東洋文庫研究員）

2012年2月15日（水）

「中国参加早期世界博覧会的歴史研究―以中国旧海関出版品為中心」

復旦大学歴史地理研究中心教授

呉　松弟　氏

（司会：斯波義信・東洋文庫文庫長）

(3) 研究会（東洋文庫談話会）

2011年9月28日（水）

「ブハラのマンギト朝のイデオロギー的性格について：

イスラーム王権論からの一考」

日本学術振興会特別研究員（PD）木村　暁　氏

2011年11月4日（金）

「孟姜女物語における孤魂救済の主題と儀式の機能」

日本学術振興会外国人特別研究員（PD）呉　真　氏

2012年2月24日（金）
「19世紀インド洋西海域における奴隷交易監視活動の実体」
日本学術振興会特別研究員（PD）鈴木　英明　氏

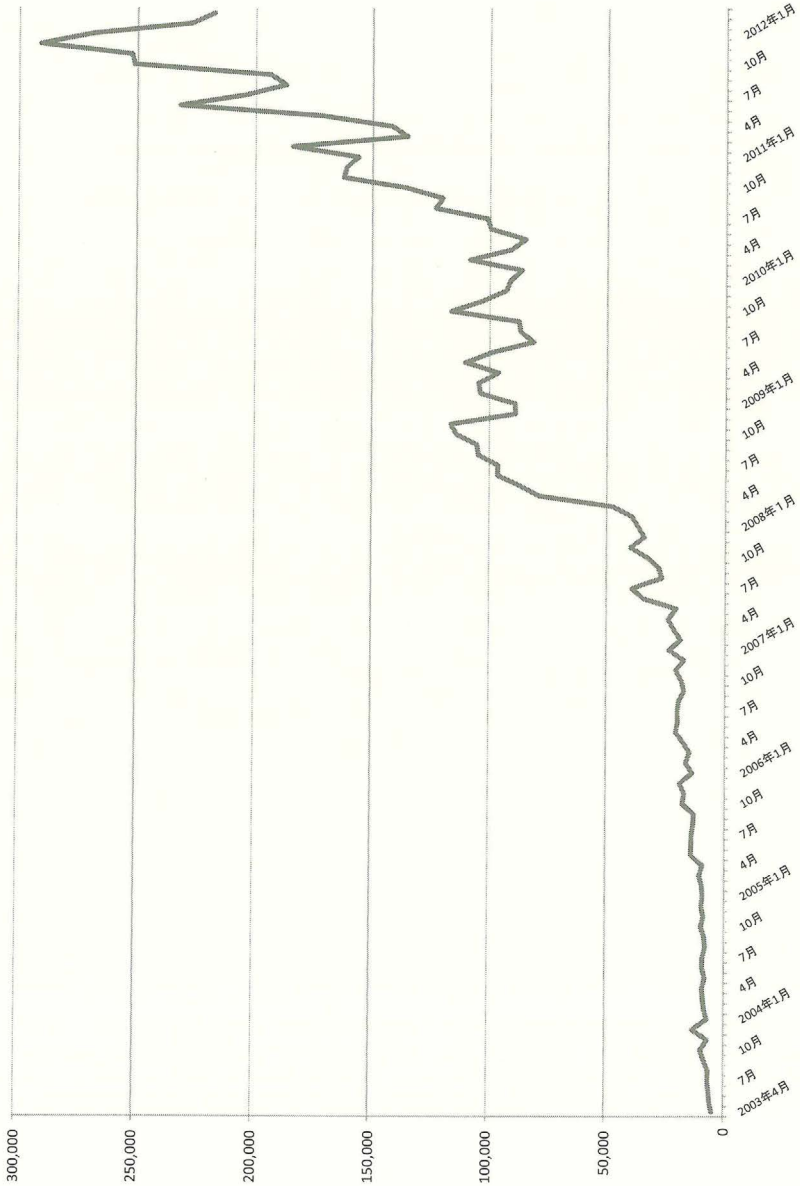
2012年3月22日（木）
「穀物問題に見る16世紀後半の地中海世界とオスマン朝」
日本学術振興会特別研究員（PD）澤井　一彰　氏

(4) 各種研究会・講演会開催状況

数量／月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
研究会数	3	6	5	5	2	9	15	16	17	13	14	9	115
参加人数	34	232	50	54	7	96	153	321	288	113	223	52	1,623

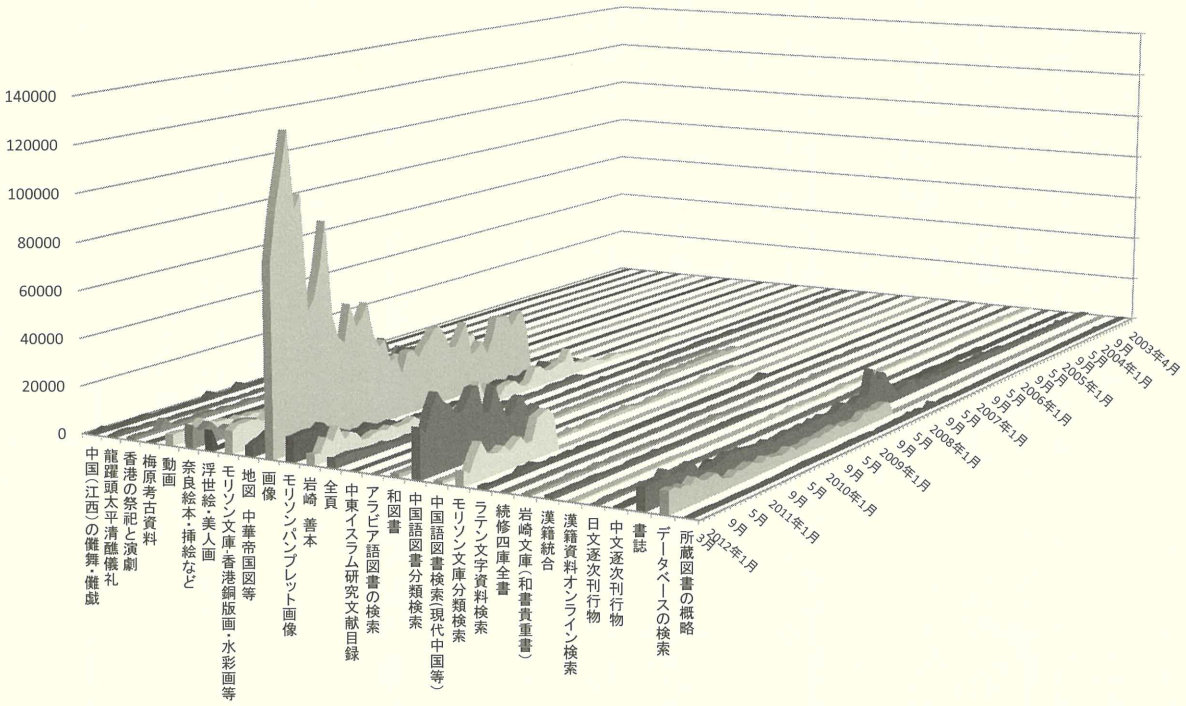
B. データベース公開

2011年4月1日～2012年3月31日までの期間における、東洋文庫の図書・資料のデータ（日本語・英語）に対するオンライン検索アクセス状況は、【図1】（P. 60）【図2】（P. 61）のとおりである。


300,000
250,000
200,000
150,000
100,000
50,000
0
2003年4月
7月
10月
2004年1月
4月
7月
10月
2005年1月
4月
7月
10月
2006年1月
4月
7月
10月
2007年1月
4月
7月
10月
2008年1月
4月
7月
10月
2009年1月
4月
7月
10月
2010年1月
4月
7月
10月
2011年1月
4月
7月
10月
2012年1月

【図 1】

【図 2】


140000
120000
100000
80000
60000
40000
20000
0
2003年4月
9月
2004年1月
5月
9月
2005年1月
5月
9月
2006年1月
5月
9月
2007年1月
5月
9月
2008年1月
5月
9月
2009年1月
5月
9月
2010年1月
5月
9月
2011年1月
5月
9月
2012年1月
5月
9月
所蔵図書の概略
データベースの検索
書誌
中文逐次刊行物
日文逐次刊行物
漢籍資料オンライン検索
漢籍統合
岩崎文庫（和書貴重書）
続修四庫全書
ラテン文字資料検索
モリソン文庫分類検索
中国語図書検索（現代中国等）
中国語図書分類検索
和図書
アラビア語図書の検索
中東イスラム研究文献目録
全頁
岩崎　善本
モリソンパンフレット画像
画像
地図　中華帝国図等
モリソン文庫香港銅版画・水彩画等
浮世絵・美人画
奈良絵本・挿絵など
動画
梅原考古資料
香港の祭祀と演劇
龍躍頭太平清醮儀礼
中国（江西）の儺舞・儺戯

C. 研究者の交流および便宜供与のサービス

〈長期受入〉

(1) 外来研究者の受入

彌永　信美（フランス国立極東学院　東京支部長）
「日本仏教」　(2011年9月1日～2012年8月31日、延長予定)

呉　　真（南開大学文学院　副教授）
「祭祀演劇中の儀礼文化に関する日中比較研究：宗教学に基づく文学研究」
(2009年11月25日～2011年11月24日・学振外国人特別研究員を終了。
2011年12月1日～2012年11月30日、私費)

GIRARD, Frédéric（フランス国立極東学院教授）
「日本仏教」　(2011年9月21日～2012年9月20日、極東学院)

施　　愛東（中国社会科学院文学研究所副研究員）
「中国民間文学研究」　(2011年5月15日～2012年3月31日、私費)

(2) 2011年度日本学術振興会特別研究員PDの受入

澤井　一彰（東京大学大学院PD）
「16, 17世紀のオスマン朝における物資流通とイスタンブル」
(2009年度採用、2010・2011年度・3カ年間・終了)

鈴木　英明（東京大学大学院PD）
「インド洋海域世界の「近代」：奴隷交易の変容を事例にして」
(2009年度採用、2010・2011年度・3カ年間・終了)
※日本学術振興会海外特別研究員への採用決定につき、2012年2月をもって日本学術振興会特別研究員PDの身分を終了。

木村　　暁（東京大学大学院PD）
「近代中央アジアにおけるイスラーム王権とムスリムの政治秩序観」

（2009 年度採用、2010・2011 年度・3 カ年間・終了）
※就職につき、2011 年 9 月 30 日をもって日本学術振興会特別研究員 PD の身分を辞退

小林　亮介（筑波大学大学院 PD）
「20 世紀前半における「チベットの領域」問題の形成―東チベットを中心に」
（2010 年度採用、2011・2012 年度・3 カ年間）

池尻　陽子（筑波大学大学院 PD）
「チベット仏教僧の思想とネットワークが清代内陸アジア史に与えた影響に関する研究」（2010 年度採用、2011・2012 年度・3 カ年間）

村上　正和（東京大学大学院 PD）
「清代中国社会と演劇文化」（2011 年度採用、2012・2013 年度・3 ヵ年間）

亀谷　　学（北海道大学大学院 PD）
「パピルス文書による初期イスラーム時代統治システムの研究」
（2011 年度採用、2012・2013 年度・3 ヵ年間）

小林　隆道（早稲田大学大学院 PD）
「10-13 世紀中国における統治と「文書」―官文書分析による史料批判学の再構築―」（2011 年度採用、2012・2013 年度・3 ヵ年間）

今井　就稔（一橋大学大学院 PD）
「日中戦争期中国資本家の研究―経済構造の変容と対日関係の模索―」
（2011 年度採用、2012・2013 年度・3 ヵ年間）

〈外国人研究者への便宜供与〉

China
周長山［広西師範学院］（ほか 40 名）

Egypt
KESHK, Hassanein［国立社会学犯罪学研究所］

France
GIPOULOUX, François

Iran
SAELI, Majid［イラン議会図書館］

Korea
柳基一［高麗大学校］（ほか５名）

Mongol
BATSAIKHAN［MongolianAcademy of Sciences］

Singapore
KRATOSKA, Pall

Taiwan
黄克武［中央研究院］（ほか２名）

USA
PERRY, Elizabeth［Harverd Yenqing Institute］（ほか４名）

4. 普及・広報活動

東洋文庫では、幅広い層に東洋学の普及をはかるため、下記の諸事業を行っている。

A. 展示

一般多数の方々を対象とした東洋学の普及を図る手段として、「東洋文庫ミュージアム」を運営した。

(1) 基本方針
このミュージアムでは、特に東洋学に興味を持たない一般の方々を主な対

象とし（中学生程度の歴史知識を前提）、これらの利用者に、ミュージアム見学を通して東洋学に興味を持つ機会を提供するものである。本ミュージアムは、東洋文庫の蔵書・史料を中心に種々の展示企画を組み立て、常に新たな発見と変化のある展示を心がけている。

(2) 展示手法

広く一般の方々にミュージアム訪問の興味を喚起するため、①見学に適切な規模の展示内容とし、②展示の解説は日頃東洋学とは疎遠な利用者にも十分理解できる簡易なものとし、③デジタル技術等を取り入れた視聴覚的かつ斬新な展示で利用者の興味を引くことに努めた。

(3) 施設

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に万全を期した。また、併設のギフト・ショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

(4) 展示スケジュール

常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、以下の展示を開催した。

a) 常設展は国宝と浮世絵を中心に構成されており、保存と集客の観点から、毎月初めに展示資料の入れ替えを行った。

b) 企画展は一年に3回の頻度で行っている。本年度は以下の企画展を実施した。

①「時空をこえる本の旅」(2011年10月20日～2012年2月26日)

②「東インド会社とアジアの海賊」(2012年3月7日～2012年)

c) 各企画展において展示図録を作成した。全ページカラーで画像を多用し、解説文も平易なものわかりやすいものに仕上げた。A5版でハンディなブックレットタイプである。

d) 会期中に公開講座（企画展示記念講座）を開催した。2月5日に辛亥革命特別展示記念講演会を開催した。講演者に久保田文次（日本女子大学名誉教授）、村田雄二郎（東京大学教授）、司会者に高田幸男（明治大学教授）、閉会挨拶に松尾浩也（東京大学名誉教授・法務省特別顧問）を迎え、講演室は100名超の満員となった。

(5) 文庫員ガイドツアー

ミュージアムへの来客サービス・集客戦略の一環として、文庫長・学芸員による館内ガイドツアーを実施し、好評を得た。

(6) 学校連携

ミュージアムフリーパスの制度を導入した。年度あたり生徒数×一定料金の支払いにより、連携校の生徒及び教員はミュージアムへの入場が無料となる。本年度は小石川中等教育学校との連携がスタートした。東洋文庫ミュージアムの展示を学校教育で活用してもらうことにしている。隣接する昭和小学校より児童の団体見学、保護者（PTA）より新聞取材などがあった。

(7) VIP 来訪

三菱グループほか主要企業幹部多数、米・英・独・インド・フィリピン等の主要企業幹部など国内外の財界要人、福田康夫（元首相）、蒲島郁夫（熊本県知事）ほか政界要人、E. ペリー（ハーバード・エンチン研究所所長）ほか国内外の大学・研究機関の幹部多数など。

(8) 入場者数

ミュージアム開館以来 3 月末までの総入場者数は以下のとおりである。

月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
入場者数	1,108 人	3,145 人	2,139 人	1,501 人	1,370 人	1,592 人	10,855 人

B. 広報普及

東洋文庫所蔵の図書・史料の掲載・報道・放映等の依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新し、利便性を確保した。東洋学の若年層への普及を目指し、学校連携活動も行った。

(1) 報道実績

ミュージアムに関しての報道実績の主なものを以下に挙げる（50 音順）。

・新聞：全国紙『朝日新聞』、『産経新聞』、『読売新聞』、地方紙『熊本日日新聞』、『北海道新聞』

・専門紙：『新美術新聞』
・雑誌：『池袋 15 分』、『学士会会報』、『季刊永青文庫』、『芸術新潮』、『すばる』、『東京人』、『東方』、『マンスリーみつびし』、『ミュゼ』、『文部科学時報』『目の眼』、『歴史と地理』など
・テレビ：文京ケーブルネットワーク

(2)『東洋見聞録』
東洋文庫の活動をご支援頂いている「名誉文庫員」、「友の会会員」、職員 OB ほか関係者をつなぐニュースレターとして発行・頒布した。

C. 国際交流

東洋文庫は、フランス国立極東学院、台湾中央研究院、ハーバード・エンチン図書館、ハーバード・エンチン財団、アレクサンドリア図書館に加え、あらたにイラン議会図書館と協力協定を締結した。また、ハーバード・エンチン研究所と中国復旦大学が共同で開催するワークショップ "Training Program in Historical Materials and Method" に大澤肇研究員を派遣し、中国と欧米の先進的な若手研究者とともに中国資史料学について活発な意見交換を行った。

5. 研究員等の研究業績

期間：2011 年 4 月 1 日～ 2012 年 3 月 31 日まで
略号：①…雑誌論文　②…図書　③…学会発表

會谷　佳光
②『西蓮社（旧三縁山増上寺山内寺院報恩蔵）収蔵嘉興版大蔵経目録』（西蓮社，2012 年，97 頁）.

青木　　敦
①「南宋判語所引法の世界」（『東洋史研究』，70 巻 3 号，1 ～ 38 頁，東洋史研究会，2011 年 12 月）.
①「伊藤正彦『宋元郷村社会史論』」（『史学雑誌』, 121 編 3 号, 106 ～ 115 頁,

山川出版社，2012年2月）.
②『中国社会経済史用語解』（〈（財）東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉,（財）東洋文庫, 2012年, 556頁）.
③「省級地方行政區域的誕生—以宋代路分為中心」（中国語）（臺灣大學歷史系演講会，於：臺灣大學，2012年3月16日）.
③"Institutional Dynamics in Chinese Dynastic Regime: 4-14th Centuries", in The Association for Asian Studies and International Conference of Asian Scholars, Honolulu, Hawaii, U.S.A., 3 Apr. 2011.

秋葉　淳
①「オスマン帝国の制定法裁判所制度—ウラマーの役割を中心に」（鈴木董編『オスマン帝国史の諸相（東京大学東洋文化研究所研究報告）』, 294～320頁，東京大学東洋文化研究所・山川出版社，2012年）.
③「オスマン帝国におけるベル＝ランカスター教授法の導入（1830～40年代）」（NIHUプログラム・イスラーム地域研究東洋文庫拠点・科研基盤研究（C）「オスマン帝国における教育の連続性と変化（19世紀～20世紀初頭）」（研究代表者：秋葉淳）共催研究会「ベル＝ランカスター教授法の世界的流行：フランスとオスマン帝国」，於：（財）東洋文庫，2011年12月18日，[http://www.tbias.jp/php/investigation_detail.php?year=2011S#111218]）.
③「オスマン帝国における近代国家の形成と教育・福祉・慈善」（比較教育社会史研究会春季例会，於：お茶の水女子大学，2012年3月25日，[http://www.tbias.jp/php/investigation_detail.php?year=2011S#120325]）.

浅田　進史
③「植民地における軍事的暴力と社会創造—ドイツ植民地統治の事例から」（歴史学研究会大会近代史部会「植民地認識を問い直す—継続する『戦争』、終わらない『分断』」，於：青山学院大学，2011年5月22日，[『歴史学研究』885，99～108頁，歴史学研究会，2011年10月]）.
③「青島におけるドイツ植民地統治—20世紀初頭の東アジア経済・世界経済のなかに位置づける」（東京大学経済史学会，於：東京大学，2011年10月31日）.
③「独中関係史からみた華北—19世紀後半から20世紀初頭までを中心に」

(「東洋文庫公開シンポジウム『華北の発見』」，於：(財) 東洋文庫，2012年2月12日).
③「日独青島戦争におけるドイツ総督府の戦時動員」(日本西洋史学会第61回大会自由論題報告，於：日本大学，2011年5月15日).

浅野　秀剛
①「『好色世話絵づくし』の紹介」(『西鶴と浮世草子研究』, 5号, 122～151頁, 笠間書院，2011年6月).
①「歌麿と栃木」(『國華』，1387，17～30頁，國華社，2011年5月).
①「和菓子研究：菓子袋・菓子箱と商標」(『和菓子』，19，111～128頁，虎屋文庫，2012年3月).
①「十七世紀の絵入版本の絵師について」(『ビブリア』，136，3～32頁，天理大学出版部，2011年10月).
②『写楽』(〈田沢裕賀, マティ・フォラー〉, 東京国立博物館, 2011年, 335頁).

荒川　正晴
①「唐の西北軍事支配と敦煌社会」(『唐代史研究』，14巻，71～98頁，唐代史研究会，2011年8月).
①「唐代の交通と商人の交易活動」(鈴木靖民・荒井秀規編『古代東アジアの道路と交通』，179～190頁，勉誠出版，2011年).
①「唐代天山東部州府の典とソグド人」(森安孝夫編『ソグドからウイグルへ—シルクロード東部の民族と文化の交流』，47～66頁，汲古書院，2011年).
①"Aspects of Sogdian trading activities under the Western Turkic state and the Tang Empire", *Journal of Central Eurasian Studies*, vol. 2, pp. 25-40, Center for Central Eurasian Studies, Seoul National University, May 2011.
①"China's View of the World", Seija Jalagin, Susanna Tavera, Andrew Dilley eds., *World and Global History: Research and Teaching* (CLIOHWORLD Reader, 7), pp. 59-67, Pisa: Pisa University Press, 2011.

飯島　明子
②『メコン河流域地域在地文書の新開拓と地域史像の再検討—パヴィ調査団文書を中心に』(2012年，243頁［私家版・限定部数印刷］).

飯島　武次

①「伝河北省鄴城出土の刻印瓦」(〈岸本泰緒子，松下賢，池田春香，松村亮太〉，『駒澤大学文学部研究紀要』，70 号，87 ～ 116 頁，駒澤大學文学部，2012 年 3 月).

①「二里頭文化与商文化的陶炊器—鼎・鬲・甑・甗」(『考古学研究』，8 巻，159 ～ 178 頁，北京大学考古文博学院，2011 年 6 月).

②『中国夏王朝考古学研究』(同成社，2012 年，492 頁).

飯島　　渉

①"The Patriotic Hygiene Campaign (愛国衛生運動) and Restructuring of Society in China: Historical Meaning of the Institutionalization of Public Health"（范燕秋主編『多元鑲嵌與創造轉化:台湾公共衛生百年史』，441 ～ 465 頁，遠流出版，2011 年).

①「「中国史」が亡びるとき」(『思想』，第 1048 号，99 ～ 119 頁，岩波書店，2011 年 8 月).

池田　美佐子

①「エジプトにおける民主主義の系譜—議会と憲法」(『現代思想』，vol. 39-4（4 月臨時増刊号)，144 ～ 151 頁，青土社，2011 年 4 月).

①翻訳「タハリール広場の闘争—自由とは尊厳である（ロジャー・オーウェン)」(『現代思想』，vol. 39-4（4 月臨時増刊号)，82 ～ 83 頁，青土社，2011 年 4 月).

③「1924 年エジプト議会内規(上院・下院)の翻訳における問題点・留意点」(東洋文庫・現代イスラーム研究班・議会内規合同研究会，於：(財）東洋文庫，2012 年 1 月 24 日).

石川　　寛

① "On the Date and Patronage of Elephanta: Historical Background of the Great Cave Temple", Shrinivas V. Padigar and V. Shivananda eds., *Pratnakirti: Recent Studies in Indian Epigraphy, History, Archaeology and Art; Essays in Honour of Prof. Shrinivas Ritti*, pp. 352-356; plates. pp. 3-4, Delhi: Agam Kala Prakashan, 2012.

①「ヴァーカータカ朝研究の新動向—おもにアジャンター後期窟造営との関連から」(『東洋学研究』，49 号，217 ～ 223 頁，東洋大学東洋学研究所，

2012年3月).

石塚　晴通

①「異文化コミュニケーションとしての漢字情報と漢文訓読」(『第十届世界日語教育研究大会論文集』, 27～28頁, 天津外国語大学, 2011年8月).

①「漢字文化圏に於ける典籍の集積、国際的伝播及び其の伝承—高山寺本の場合を例として」(『国語と国文学』, 平成24年2月号, 14～25頁, 明治書院, 2012年2月).

①「岩崎本日本書紀一条兼良点」(『訓点語と訓点資料』, 127輯, 30～43頁, 2011年9月).

①「字体規範と異体の歴史」(『国際シンポジウム　字体規範と異体の歴史予稿集』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011年12月).

①「東アジアの漢字字体と文献の性格」(『古代の文字資料から見た東アジアの文化交流と疎通』, 277～291頁, ソウル:東北アジア歴史財団, 2011年).

石橋　崇雄

①「清初祭天儀礼考」(『清代中国的若干問題』, 36～67頁, 山東画報出版社, 2011年).

①「清代満洲語文献の特徴と重要性」(大澤顕造編著『東アジア書誌学への招待』, 2, 3～22頁, 東方書店, 2011年).

①「日本の清朝史研究—近20年間の動向と課題」, *Perspectives and Research Trends on the Conquest Dynasties in Foreign Scholarship*, pp. 217-249, Seoul: Northeast Asian History Foundation, 2011.

②『大清帝国への道』(講談社学術文庫, 2011年, 317頁).

井上　和枝

①「新女性朴仁徳における『近代』・『民族』・『ジェンダー』・『親日』」(『国際文化学部論集』, 12巻4号, 267～294頁, 鹿児島国際大学国際文化学部, 2012年3月).

②『나혜석 한국 근대사를 거닐다』(〈윤범모, 박영택, 문정희〉, 푸른 사상, 2011年, 575頁).

③「植民地朝鮮における新女性ファッションから＜もんぺ＞へ」(シンポジウム「東アジア近現代の『衣』の社会史」, 於:文化学園大学文化ファッション研究機構, 2011年7月23日).

③「新女性朴仁徳における愛国から親日への軌跡」(九州史学会大会，於：九州大学，2011年12月11日).

今西　祐一郎

③"Illustrated Books and Graphemes"（和名：「絵入り本と文字」）(International Symposium on Japanese Visual Culture: Performance, Media and Text，於：コロンビア大学（米国)，2011年9月17日).

内山　雅生

①「山西省農村の『社』と『会』から見た社会結合」(三谷孝編『中国内陸における農村変革と地域社会—山西省臨汾市近郊農村の変容』，255～281頁，御茶の水書房，2011年).

①「山西大学的農村調査史料与日本的"地方文書"研究」(『山西大学中国社会史研究中心成立二十周年慶典通告（電子版)』，1～4頁，2012年3月6日).

①「中国内陸農村訪問調査報告（2)」(〈三谷孝，祁建民〉，『長崎県立大学国際情報学部紀要』，12号，219～237頁，2011年12月).

①「野澤史学と三谷史学」(『近きに在りて』，60号，19～20頁，2011年11月).

梅田　博之

①「韓国語の丁寧さを表わす終助詞요についての覚え書」(『言語と文明（麗澤大学大学院言語教育研究科論集)』，10巻，93～100頁，麗澤大学大学院言語教育研究科，2012年3月).

梅原　　郁

②『中国社会経済史用語解』(〈(財）東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉，(財）東洋文庫，2012年，556頁).

宇山　智彦

① "Vospriiatie mezhdunarodnoi obstanovki nachala XX v. A. Bukeikhanom i ego sovremennikami", *Alash mŭratï jäne täuelsïz Qazaqstan: Khalïqaralïq ghïlïmi-praktikalïq konferentsiyaning materialdarining jinaghï*, pp. 13-19, Astana: Berkut-

Print, 2011.
①「カザフスタンにおけるジュト（家畜大量死）：文献資料と気象データ（19 世紀中葉—1920 年代）」（奈良間千之編『環境変動と人間（中央ユーラシア環境史 1）』，240 ～ 258 頁，臨川書店，2012 年）.
①「中央アジア・南カフカス諸国」（松本弘編著『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック』，404 ～ 409 頁，明石書店，2011 年）.
②『比較帝国論の世界：新学術領域研究第 4 班中間成果（比較地域大国論集 7）』（北海道大学スラブ研究センター，2012 年，iv + 249 頁）.
② *Asiatic Russia: Imperial Power in Regional and International Contexts*, London: Routledge, 2011, xv + 296 p.

江川　ひかり
①「歴史エピソード　イスラームの女性」（『じっきょう　地歴・公民科資料』，No. 73，13 ～ 15 頁，実教出版株式会社，2011 年 10 月）.
①「遊牧民女性の技と記憶：西北アナトリア，ヤージュ・ベディルの人びととの交流から」（『立命館言語文化研究』，第 23 巻 1 号，127 ～ 139 頁，立命館大学言語文化研究所，2011 年 9 月）.
① Book Review: “Yuzo NAGATA Provincial Notables in Premodern Turkey: A Case Study of the Karaosmanoğlu Family”（書評「永田雄三『前近代トルコの地方名士：カラオスマンオウル家の研究』」）（『日本中東学会年報』，27 巻 1 号，331 ～ 344 頁，2011 年 7 月）.
③「トルコ共和国ドゥズジェ市の形成過程：被災地復興のための学際研究における歴史学の意義」（駿台史学会大会：大会テーマ「20 世紀に見る大震災と復興」，於：明治大学駿河台キャンパス，2011 年 12 月 3 日，［『駿台史学』，144 号，2012 年 3 月］）.

大河原　知樹
①「オスマン帝国の税制近代化と資産税—19 世紀前半のダマスカスの事例」（鈴木董編『オスマン帝国史の諸相（東京大学東洋文化研究所研究報告）』，321 ～ 351 頁，東京大学東洋文化研究所・山川出版社，2012 年）.
①「ヨーロピアン・グローバリゼーションとオスマン帝国—イギリスとオスマン帝国の外交関係を中心に」（『ヨーロピアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容—研究プロジェクト報告書 V』，313 ～ 328 頁，東北学院大学オープン・リサーチ・センター，2012 年）.

③ “Reproduction of Ottoman ‘middle class’?: An analysis of “middle class” family marriage strategy in the late and post Ottoman Damascus”, in International Workshop, In the ‘Middle’ of Society: Social Transformations and the Appearance of New ‘Middle Classes’ in the Urban Centres of the Middle East (ca 1500 to 1900), Cairo: The American University in Cairo, 12 Nov. 2011.
③「オスマン帝国末期における東地中海のグローバル・ディアスポラ—オスマン・イギリス関係を中心として」（東北学院大学オープン・リサーチ・センター（ヨーロッパ）総括研究会，於：東北学院大学，2011 年 7 月）.

大澤　肇

①「戰前日本的亞洲歷史資料及其數位化公開」（『中國大陸研究教學通訊』，97，10 頁，台湾大学政治学系中國大陸暨兩岸關係教學與研究中心，2011 年 5 月）.
③「国民教育制度与基层社会变动：以战后上海（1945 － 1949）为例」（第四届中国近代社会史国際学術研討会“近代中国的社会保障与区域社会”，2011 年 8 月 2 日，［『“近代中国的社会保障与区域社会”国际学术研讨会论文集』，下，436 ～ 442 頁，2011 年 8 月］）.
③「電子図書館構築から見えてきたもの—胡錦濤時代におけるデジタル技術と中国社会」（NIHU 現代中国地域研究・拠点連携プログラム総括シンポジウム「現代中国のジレンマ—胡錦濤時代の 10 年を考える」，2012 年 1 月 21 日，［『現代中国のジレンマ—胡錦濤時代の 10 年を考える』，早稲田大学現代中国研究所，2012 年 1 月］）.
③ “Comparative Study on the Socio-Political History of School Education: 1950’s Mainland China and Taiwan in the Early Cold War Period”, in Training Program in Historical Materials and Methods: The New Horizon for Research on 1950s China, Co-sponsors: Harvard-Yenching Institute and Fudan Univ. (上海：復旦大学) 14 Jan. 2012.

大澤　正昭

①「漢文史料、和訳、英訳、そして〈超訳〉」（〈今泉牧子〉，『ソフィア』，59 巻 3 号（通号 235 号），60 ～ 77 頁，上智大学，2011 年 9 月）.
①「唐代の『本銭』運用について」（『上智史学』，56 号，1 ～ 37 頁，2011 年 11 月，［「隋唐時期的『本銭』運用」『中原与域外—慶祝張廣達教授八十崇寿研討会論文集』，89 ～ 111 頁，国立政治大学歴史学系，2011 年 12 月］）.

②『中国社会経済史用語解』(〈(財) 東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉, (財) 東洋文庫, 2012年, 556頁).
③「唐宋時代の婚姻・夫婦・女性研究史料について」(NWECセミナー女性情報アーキビスト養成研修「女性アーカイブ概論」, 於：国立女性教育会館 (埼玉県比企郡嵐山町), 20011年12月2日).

太田　信宏
①「回顧と展望—南アジア　古代・中世」(『史学雑誌』, 120編5号, 272～276頁, 山川出版社, 2011年6月).
③「現地語媒体による人文系研究の行方：インド・カンナダ語圏における「文化研究」を題材に」(AA研フォーラム, 於：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011年12月15日).
③「前近代ヒンドゥー教の寺院とマタ：カルナータカ地方におけるシヴァ神信仰の事例から」(東洋文庫インド班研究会, 於：(財) 東洋文庫, 2011年12月16日).

太田　幸男
①「私の原点・私を育てた四種の文献」(『歴史評論』, 743号, 97頁, 歴史科学協議会, 2012年3月).

大谷　俊太
①「後水尾院・後西院述、近衛基凞記、諸道聞書『御手扣』解題と翻刻」(『女子大国文』, 150, 89～130頁, 京都女子大学国文学会, 2012年1月).
①「伊勢物語と旧注—宗祇・三条西家流注釈の論理」(前田雅之編『中世文学と隣接諸学5　中世の学芸と古典注釈』, 440～452頁, 竹林舎, 2011年).
①「新出・新潟吉田文庫所蔵『心敬難題百首自注』について—付翻刻・校異」(『かがみ』, 42, 70～116頁, 大東急記念文庫, 2012年3月).

岡崎　礼奈
①「東洋文庫の世界」(〈牧野元紀, 藤代和卓〉, 『東京人』, 12月号, 14～19, 24～29, 34～37頁, 都市出版株式会社, 2011年11月).
①「東洋文庫蔵『書物袋絵外題集』について」(『東洋文庫書報』, 第43号, 39～52頁, (財) 東洋文庫, 2012年3月).

②『時空をこえる本の旅2　東インド会社とアジアの海賊』(〈斯波義信，平野健一郎，牧野元紀〉，(財) 東洋文庫，2012年，28頁).
③「本のミュージアムの開設—エデュテインメントを目指して」(アジア情報関係機関懇談会，於：国立国会図書館関西館，2012年3月21日).

岡田　英弘
①書評「名著探訪　ヘーロドトス著『ヒストリアイ』」(『環』，vol. 49，372～373頁，藤原書店，2012年3月).
② *Delhijn Tuukh Mendelsen ni*, Ulaanbaatar: Injinash, 2012, 276 p., [『世界史の誕生—モンゴルの発展と伝統』，ちくま書房，1999年，286頁].
②『真実の中国史 [1840-1949]』(監修，〈宮脇淳子著〉，李白社発行，ビジネス社発売，2011年，337頁).
②『読む年表　中国の歴史』(ワック株式会社，2012年，304頁).

岡野　　誠
①書評「辻正博著『唐宋時代刑罰制度の研究』」(『東洋史研究』, 70巻2号，140～147頁，東洋史研究会，2011年9月).
①「唐宋史料に見る「法」と「医」の接点」(『杏雨』, 14, 130～166頁, (財) 武田科学振興財団，2011年6月).
①書評「大津透編『日唐律令比較研究の新段階』」(『日本中国史研究年刊 (2009年度)』, 264～278頁, 上海古籍出版社, 2011年, [中国語, 楊永良訳]).
①書評「陶安あんど「唐律共犯概念再考—大陸法的な理解から英米法的な理解へと視点をかえて」」(『法制史研究』，61，286～290頁，法制史学会，2012年3月).
③「近年の敦煌・吐魯番本『唐律』『律疏』断片の調査・研究」(法史学研究会第146回例会，於：明治大学，2011年6月15日).

小田　壽典
③「偽経本『八陽経』写本からみた仏教文化史の展望」(国際仏教学大学院大学平成23年度第2回公開研究会，於：春日講堂（東京・文京区），2011年11月12日，[http://www.icabs.ac.jp/koshakyo/Openseminar/openseminar20111112.html].

小名　康之

①「ムガル時代の文書行政について」（小名康之編『近世・近代における文書行政—その比較史的研究』，5～41頁，有志舎，2012年）.

②『近世・近代における文書行政—その比較史的研究』（有志舎，2012年，238頁）.

梶谷　　懷

①「中国の経済成長と『分散型の開発体制』」（『比較経済研究』, 49巻1号，1～13頁，比較経済体制学会，2012年1月）.

①"Local Finance and Governments in the Economic Development of China and India: Distribution and Economic Efficiency", Moriki Ohara, Balaji Parthasarathy, M. Vijayabaskar, Hong Lin eds., *Industrial Dynamics in China and India: Firms, Clusters, and Different Growth Paths*; Ide-Jetro Series, pp. 180-202, New York: Palgrave Macmillan, 2011.

①「中国・経済成長の政治経済学—グローバル化と「豊かさ」の実体」（和田春樹他編『和解と協力の未来へ—1990年以降（岩波講座　東アジア近現代通史　第10巻）』，140～159頁，岩波書店，2011年）.

②『「壁と卵」の現代中国論』（人文書院，2011年，266頁）.

②『現代中国の財政金融システム：グローバル化と中央—地方関係の経済学』（名古屋大学出版，2011年，258頁）.

糟谷　憲一

①「「韓国併合」一〇〇年と朝鮮近代史」（『朝鮮学報』，219，1～38頁，朝鮮学会，2011年4月）.

①「甲午改革期以後の朝鮮における権力構造について」（『東洋史研究』，70巻1号，100～126頁，東洋史研究会，2011年6月）.

①「朝鮮の植民地化と東アジア」（『歴史評論』，733，4～18頁，歴史科学協議会，2011年5月）.

①「日本と朝鮮の歴史認識」（一橋大学東アジア政策研究プロジェクト編『東アジアの未来』，215～243頁，東洋経済新報社，2012年，［第8章］）.

片山　章雄

①「世界史教科書掲載の霊芝雲型吐魯番文書の深層」（『東海大学紀要　文学部』，95，1～19頁，東海大学文学部，2011年9月）.

①「杏雨書屋「敦煌秘笈」中の物価文書と龍谷大学図書館大谷文書中の物価文書」(『内陸アジア史研究』, 27, 77 ～ 84 頁, 内陸アジア史学会, 2012 年 3 月).
③コメント「梁職貢図と倭—5・6 世紀の東ユーラシア世界」(國學院大學文学部共同研究シンポジウム, 於：國學院大学渋谷キャンパス, 2012 年 1 月 21 日).
③「大谷探検隊吐魯番将来《青龍》文書と残余で作る霊芝雲文書」(東洋文庫内陸アジア出土古文献研究会例会, 於：(財) 東洋文庫, 2012 年 3 月 19 日).
③「アジア文化研究会の記録と若手会員の動向をたどって」(九州史学会大会イスラム文明学部会特別企画「アジア文化研究会・若手ユーラシア研究会の時代」, 於：九州大学, 2011 年 12 月 11 日).

片山　剛
①「有關近世廣東珠江三角洲地區歷史由來的言説」(『日本中國史研究年刊』刊行會編『日本中國史研究年刊 (2008 年度)』, 280 ～ 298 頁, 上海：上海古籍出版社, 2011 年 5 月 [蘇龍嘎訳]).
①「対自然的擁有形態的多重結構」(森時彦主編『二十世紀的中国社会』, 上巻, 348 ～ 376 頁, 北京:社会科学文献出版社, 2011 年 12 月, [袁広泉訳]).
③「珠江三角洲地区漢族斉民社会的誕生及其特質」(第三届「族群、歴史与地域社会」国際学術研討会, 於：台北：中央研究院台湾史研究所, 2011 年 9 月 23 ～ 24 日).

加藤　弘之
②『新図説　中国近現代史：日中新時代の見取り図』(〈田中仁, 菊池一隆, 日野みどり, 岡本隆司〉, 法律文化社, 2012 年, 282 頁).
②『中国長江デルタ産業集積地図 (WICCS 研究シリーズ 6)』(〈日置史郎〉, 早稲田大学現代中国研究所, 2012 年, 303 頁).
②『中国長江デルタの都市化と産業集積』(勁草書房, 2012 年, 333 頁).

金子　修一
①「「大唐元陵儀注」と『大唐開元礼』」(鈴木靖民編『日本古代の王権と東アジア』, 316 ～ 334 頁, 吉川弘文館, 2012 年).
①「漢唐之際遺詔的変遷及意義」(『中華文史論叢』, 2012 年第 1 期, 147 ～

179 頁，上海古籍出版社，2012 年）.
①「中国の帝と宗—皇帝の呼称をめぐって」（『図書』，753 号，6 ～ 9 頁，岩波書店，2011 年 11 月）.
①「中国史跡見聞記—四半世紀の体験から」（『史学雑誌』，120 編 11 号，38 ～ 40 頁，山川出版社，2011 年 11 月）.
①「読『旧唐書』巻二五・巻二六礼儀志「宗廟」箚記」（『國學院大學大學院紀要—文学研究科』，第 43 輯，1 ～ 22 頁，2012 年 3 月）.

金丸　裕一
①「戦争史研究の諸問題」（村本邦子編『歴史のトラウマの世代間連鎖と和解修復の試み：国際セミナー「南京を想い起こす 2011」の記録（立命館大学人間科学研究所・共同対人支援モデル研究 3）』，86 ～ 93 頁，立命館大学人間科学研究所，2012 年）.
③「戦争史研究的幾個問題」（国立東華大学歴史学系学術専題演講（民国 100 年 1 － 6），2011 年 12 月 27 日）.
③「戦争史研究與通往和解之路」（国立成功大学歴史学系専題座談会，2011 年 12 月 21 日）.

辛島　　昇
①“A Trade Guild Inscription from Viharehinna, Sri Lanka”, <Y. Subbarayalu>, *Epigraphia Indica*, vol. XLIII, pp. 16-24, Archaeological Survey of India, Jan. 2012.
① “Mathas and Medieval Religious Movements in Tamil Nadu: An Epigraphical Study; Part II”, <Y. Subbarayalu, P. Shanmugam>, *Indian Historical Review*, vol. 38, no. 2, pp. 199-210, Indian Council of Historical Research, Dec. 2011.
①「インド文化の多様性と統一性：『ラーマーヤナ』とカレー料理を例として」（鈴木正崇編『南アジアの文化と社会を読み解く』，193 ～ 218 頁，慶応義塾大学東アジア研究所，2011 年）.

川井　伸一
③「ビジネス形態からみた中国製造業企業の海外進出」（愛知大学 ICCS2011 年度国際ワークショップ，於：愛知大学，2011 年 12 月 11 日，[『グローバル社会のなかの中国プログラム・資料集』，29 ～ 30 頁，ICCS，2011 年]）.

川合　安

①「『隋書』音楽志訳注稿（五）」（〈林香奈，大形徹，柳川順子，佐竹保子，長谷部剛，佐藤大志〉，『中国学研究論集』，26，1～64頁，広島中国文学会，2011年4月，［川合安担当：12～18頁］）．

①「唐代初期の「士族」研究―李浩著『唐代〈文学士族〉の研究』の刊行に寄せて」（『集刊東洋学』，105，80～92頁，中国文史哲研究会，2011年6月）．

川﨑　信定

①「田中公明：『インドにおける曼荼羅の成立と発展』（2010年2月1日，春秋社刊）」（『東方』，第26号，212～215頁，東方書店，2011年4月）．

①「高楠先学に『大正大藏経』発刊を決意させた事々」（『豊山教学大会紀要』，第40号，1～27頁，真言宗豊山派教学部，平成24年3月，［第40回豊山教学大会記念講演］）．

③「インド文化史から見た弘法大師」（真言宗豊山派教化センター公開講座「仏教文化の諸相」，於：真言宗豊山派宗務所，平成24年2月10日）．

③「真言律と十善戒―淨厳・慈雲・雲照をめぐって」（真言宗豊山派平成23年度養成所講義，於：真言宗豊山派宗務所，平成23年5月9日）．

③『四恩の世界』（真言宗豊山派第53回全国布教師会，於：真言宗豊山派宗務所，平成23年6月2日，［基調講演］）．

貴志　俊彦

①「植民地初期の日本―台湾間における海底電信線の買収・敷設・所有権の移転」（『東洋史研究』，70巻2号，105～139頁，東洋史研究会，2011年9月）．

①「東アジアにおける『流行歌』の創出：クロスオーバーするレコードと音楽人」（和田春樹ほか編『岩波講座東アジア近現代通史』，別巻『アジア研究の来歴と展望』，313～336頁，岩波書店，2011年）．

①「非文字資料による20世紀満洲史研究へのアプローチ：ビジュアル・メディアとSPレコード盤」（『近現代東北アジア地域史研究会News Letter』，23号，125～127頁，近現代東北アジア地域史研究会，2011年12月）．

①「日本の展望―学術からの提言2010：アジアにおける地域的公共知の創出」（『月刊学術の動向』，2011年10月号，66～69頁，日本学術会議SCJフォーラム，2011年10月）．

③「「写真」をフィールドワークする：図画像データベースの構築と利用」

（京都大学地域研究統合情報センター主催・共同研究ワークショップ「＜地域の知＞の可能性—地域研究の視点から」，於：京都大学，2011年4月23日）．

岸本　美緒

①“Propergy Rights, Land, and Law in Imperial China”, Debin Ma and Jan Luiten van Zanden, eds., *Law and Long-Term Economic Change: A Eurasian Perspective*, pp. 68-90, Stanford University Press, 2011.

①「“中国”的擡頭—明末文章書式所見国家意識的一個側面」（『日本中国史研究年刊　二〇〇九年版』, 163 ～ 186頁, 上海古籍出版社, 2011年12月, [徐谷芃氏訳]）．

①「『岐路灯』に見る清代中国の身分感覚」（『比較日本学教育研究センター研究年報』，8号，39 ～ 49頁，お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター，2012年3月）．

金　　鳳珍

①「徐載弼とリベラル・ナショナリズム」（富沢克編著『「リベラル・ナショナリズム」の再検討』，241 ～ 259頁，ミネルヴァ書房，2012年）．

②『東アジアのナショナリズムと近代—なぜ対立するのか』（〈米原謙・區建英〉，大阪大学出版会，2011年，345頁［第二章（50 ～ 100頁）と第五章（198 ～ 248頁）を執筆］）．

①“The 1911 Revolution and the Korean Independence Movement: Road to Democratic Republicanism”, *Journal of Cultural Interaction in East Asia*, Vol. 3, pp. 19-34, Society for Cultural Interaction in East Asia, Mar. 2012.

①「辛亥革命と韓国独立運動」（『中国研究月報』，66巻3号，11 ～ 18頁，中国研究所，2012年3月）．

①「反日と日韓の歴史和解」（黒沢文貴・イアン・ニッシュ編『歴史と和解』，241 ～ 259頁，東京大学出版会，2011年）．

楠木　賢道

①「清太宗皇太極的太廟儀式和堂子—関于満漢両種儀式的共処情況」（社科院近代史研究室編『清代満漢関系研究』, 32 ～ 40頁, 社会科学文献出版社, 2011年8月）．

①「大野延胤著『松本斗機蔵：幕末の開明派、憂国悲運の幕臣：その人と

献策』十九世紀前半における開国・海防論」（季刊『環』, 48, 428 ～ 431 頁, 藤原書店, 2012 年 1 月）.
①「駐防斉斉哈爾的錫伯佐領的編立過程」（石橋秀雄編『清代中国的若干問題』, 273 ～ 292 頁, 山東画報出版社, 2011 年）.
①「編入清朝八旗的扎魯特部蒙古族」（『扎魯特歴史文化』, 1, 188 ～ 200 頁, 内蒙古教育出版社, 2011 年 9 月）.
③ "The tradition and the current status of Manchu studies in Japan", in The Manchu Studies Symposium in Seoul, 於：高麗大学民族文化研究院, 2011 年 4 月 15 日 .

久保　亨
①「戦後歴史学と野澤豊の民国史研究」（『近きに在りて』, 60, 106 ～ 121 頁, 汲古書院, 2011 年 11 月）.
①「戦後中国の経済自由主義」（村田雄二郎編『リベラリズムの中国』, 307 ～ 327 頁, 有志舎, 2011 年）.
②『近代中国を生きた日系企業』（〈富澤芳亜・萩原充〉, 大阪大学出版会, 2011 年, 289 頁）.
②『中華民国の憲政と独裁 1912-1949』（〈嵯峨隆〉, 慶應義塾大学出版会, 2011 年, 300 頁）.
③ "Chinese policies on textile industries in the 1950s and 1960s", in "ENIUGH" Congress 2011 (ENIUGH = European Network in Universal and Global History), 於：ロンドン大学 LSE, 2011 年 4 月 14 ～ 17 日.

窪添　慶文
①「長楽馮氏に関する諸問題」（『立正史学』, 111, 11 ～ 31 頁, 2012 年 3 月）.
③「石に刻された生涯」（学習院大学東洋文化研究所 78 回東洋文化講座, 於：学習院大学, 2011 年 10 月 7 日, [『東洋文化研究』, 14, 581 ～ 606 頁, 学習院大学東洋文化研究所, 2012 年 3 月]）.
③「長楽馮氏と北魏帝室」（立正史学会大会, 於：立正大学, 2011 年 6 月 26 日）.

黒田　卓
①「イランソヴィエト社会主義共和国（「ギーラーン共和国」）におけるコムニスト政変—その歴史の再構成と歴史認識の変遷」（岡洋樹編『歴史の

再定義—旧ソ連圏アジア諸国における歴史認識と学術・教育』，133～168頁，東北大学東北アジア研究センター，2011年）．
③「アブー・ターレブ・ハーン『求道者の旅路』帰路篇—揺れ動くアイデンティティをめぐって」（東北大学大学院国際文化研究科「中東」表象研究会，於：東北大学，2011年10月19日）．

氣賀澤　保規
①「故宮博物院編『故宮博物院蔵歴代墓誌彙編（故宮博物院藏历代墓志汇编）』—あわせて「所載資料目録」の紹介」（『東アジア石刻研究』，4，81～94頁，明治大学東アジア石刻文物研究所，2012年3月）．
①「新発現彭方尊師墓誌及其鎮墓石—兼談日本明治大学所蔵墓誌石刻」（『唐史論叢』，14輯，69～80頁，陝西師範大学出版総社有限公司，2012年2月，[「新出土唐墓誌与唐史研究」，国際学術研討会，於：中国・洛陽師範学院，2011年9月3日]）．
②『遣隋使がみた風景—東アジアからの新視点』（〈金子修一，田中俊明，吉村武彦，川本芳昭，林部均，河内春人，鐘江宏之，池田温，高瀬奈津子，江川式部〉，八木書店，2012年，452頁．
②『洛陽学国際シンポジウム報告論文集　東アジアにおける洛陽の位置』（〈塩沢裕仁，岡村秀典，石黒ひさ子，落合悠紀，佐川英治，車崎正彦，王維坤，小笠原好彦，肥田路美，毛陽光，酒寄雅志，高明士，妹尾達彦〉，明治大学大学院文学研究科・明治大学東アジア石刻文物研究所・汲古書院，2011年，218頁，[洛陽学国際シンポジウム—東アジアにおける洛陽の位置，於：明治大学，2010年11月27日・28日，「“洛陽学”在日本誕生」，『中国社会科学報』，第13面「域外」，2011年2月22日]）．
③「百済人祢氏墓誌の全容とその意義・課題」（国際シンポジウム「新発見百済人『祢氏（でいし）墓誌』と7世紀東アジアと『日本』」，於：明治大学，2012年2月25日，[『東アジア石刻研究』，4，114～116頁，明治大学東アジア石刻文物研究所，2012年3月，『明大アジア史論集』，16，72～79頁，明治大学東洋史談話会，2012年3月]）．

厳　　善平
①「農村労働市場の基本構造」（〈小原江里香〉，加藤弘之編『中国の都市化と産業集積—長江デルタで何が起きているか』，215～234頁，勁草書房，2012年，[第10章]）．

①「持続的経済成長は可能か？　エネルギー・環境・人口・食料」（南亮進・牧野文夫編『中国経済入門　第3版』，249～247頁，日本評論社，2012年，［第12章］）．
①「中国における経済成長と農業の構造転換」（『農林業問題研究』，47巻4号，21～28頁，地域農林経済学会，2012年）．
①「中国大城市労働力市場的結構転型」（『管理世界』，第9期，53～62頁，国務院発展研究中心，2011年9月）．
②『現代中国農家の人口と労働―農家調査のミクロデータに基づいて（NIHU現代中国早稲田大学拠点WICCS研究シリーズ7）』（人間文化研究機構（NIHU）現代中国地域研究幹事拠点早稲田大学現代中国研究所，2012年，149頁）．

黄　東蘭

①「연구논문「중국에는 역사가 없는가?―지나사, 동양사에서 중국사에 이르기까지 ― (Does Our Country Have no History?)」」，『개념과 소통 제8호 (CONCEPT AND COMMUNICATION)』，pp. 123-181, Korea: Hallym Academy of Sciences, Hallym University, 2011.
①書評・紹介「張玉萍著『戴季陶と近代日本』」（『史学雑誌』，120編12号，73～79頁，山川出版社，2011年12月）．
①「歴史学」（『中国年鑑　2011』，222～224頁，社団法人中国研究所発行，毎日新聞社，2011年5月）．
③「“吾国無史”乎？―従支那史、東洋史到中国史」（「東亜近代知識與制度的形成」国際シンポジウム，於：中国，南京大学，2011年11月4～5日）．
③「東洋史のなかの「東洋」概念―日中両国の東洋史教科書を通して」（東アジア歴史学会2011年度第16回研究大会，於：専修大学，2011年6月18日，［『東アジア近代史学界会報』，第31号，2011年9月］）．

小嶋　芳孝

①「ロシア沿海地方における渤海遺跡調査（2011年）」」（〈中村晋也，中澤寛将〉，『金沢学院大学紀要・文学・美術・社会学編』，10号，1～20頁，金沢学院大学，2012年3月）．
①翻訳「渤海都城遺跡の研究」（〈宋玉彬〉，『古代学研究』，191号，1～10頁，古代学研究会，2011年10月）．
①「渤海の交通路」（鈴木靖民・荒井秀規編『古代東アジアの道路と交通』，

211 ～ 232 頁，勉誠出版社，2011 年）.
①「クラスキノ城跡から出土したアスファルト状物質と容器の研究」（〈Evgenia Gelman〉，『高句麗・渤海史研究の新地平』，73 ～ 78 頁，ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所，2011 年）.
①「日本における渤海史研究の現状」（『高句麗・渤海史研究の新地平』，232 ～ 235 頁，ロシア科学アカデミー極東支部歴史学考古学民族学研究所，2011 年）.

後藤　明
①「佐藤次高さんを偲ぶ」（『東方學』，第 122 輯，186 ～ 189 頁，東方學会，2011 年 7 月）.
②『イブン・イスハーク著・イブン・ヒシャーム編註　預言者ムハンマド伝　三』（〈医王秀行，高田康一，高野太輔〉，岩波書店，2011 年，638 頁）.
②『イブン・イスハーク著・イブン・ヒシャーム編註　預言者ムハンマド伝　四』（〈医王秀行，高田康一，高野太輔〉，岩波書店，2012 年，412 + 138 頁）.
②『いまこそ知りたいイスラムの世界』（監修，中経出版，2011 年，223 頁）.

小浜　正子
①「中国農村計画生育的普及―以 1960-1970 年代 Q 村為例」（『近代中国婦女史研究』，第 19 期，175 ～ 216 頁，台北：中央研究院近代史研究所，2011 年 12 月）.
③「歴史認識とジェンダー：中国史を学ぶ／教える」（日本学術会議主催学術フォーラム「歴史認識を変える―歴史教育改革とジェンダー」，於：東京・日本学術会議，2011 年 7 月 2 日）.
③ Panel: “Comparative Studies on Family Planning in Late Twentieth Century Asia: Politics of Reproductive Health and Rights”, in AAS 2012 Conference, Toronto, Canada, 18 Mar. 2012.

小松　久男
①「近現代史研究の眺望と課題：イスラーム地域を中心に」（『内陸アジア史研究』，26 号，69 ～ 74 頁，内陸アジア史学会，2011 年 3 月）.
① “Мусульманские интеллектуалы и Япония: Панисламистский последник Габдерашит Ибрагим (Ибрагиимов)”, М. Госманов и Ф.

Галимуллин, *Габдереәшит Ибраһим: фәнни-биографик җыентык*, стр. 365-387, Казан: «Җыен» нәшрияты, 2011.

② *Central Eurasian Studies: Past, Present and Future*, <Ş.Karasar, T.Dadabaev, G.Kurmangaliyeva Ercilasun>, Maltepe University, 2011, viii+599pp.

③「イブラヒムの夢：イスラーム世界と日本を結ぶ」（東京外国語大学国際日本研究センター主催国際シンポジウム「戦前日本の対回教圏政策とトルコ」，於：東京外国語大学，2012 年 1 月 28 日）.

小南　一郎

①「香山宝巻―観世音菩薩の中国的生涯」（『桃の会論集』, 5 集, 101 ～ 114 頁, 桃の会，2011 年 11 月）.

①「中国の龍と龍宮」（『説話・伝承学』, 20 号，28 ～ 43 頁，説話・伝承学会，2012 年 3 月）.

近藤　信彰

①「19 世紀後半のテヘランのシャリーア法廷台帳」（『東洋史研究』，70 巻 2 号，389 ～ 420 頁，東洋史研究会，2011 年 9 月）.

早乙女　雅博

①「高句麗壁画古墳の模写資料」（石川徹也・根本彰・吉見俊哉編『つながる図書館・博物館・文書館』，135 ～ 167 頁，東京大学出版会，2011 年）.

①「植民地期日本人研究者の楽浪認識」（樋田豊郎編『楽浪漆器』，194 ～ 203 頁，美学出版，2012 年）.

①「慶州西岳洞石枕塚出土遺物」（『新羅古墳精密測量及び分布調査研究報告書』，247 ～ 251 頁，国立慶州文化財研究所，2011 年）.

③「東山洞高句麗壁画古墳の共同調査」（〈青木繁夫〉，日本考古学協会第 77 回大会，於：國學院大学，2011 年 5 月 29 日，[『日本考古学協会第 77 回総会研究発表要旨』，96 ～ 97 頁，日本考古学協会，2011 年]）.

櫻井　　徹

① “Annual Reports of the Society of Jesus”, “Nihon Shoki/Jindai-kan (edition ordered by Emperor Go-Yozei)”, “Manvale ad Sacramenta Ecclesiae Ministranda”, “The Diary of John Saris”, “Tsurezuregusa (Essays in Idleness)”, “Martini’s Atlas of East Asia”, “Tibetan Hand-Written Version of the Lotus

Sutra", "Adventures of Robinson Crusoe", "Kinkyo", "Siebold's Fauna Japonica", Editor-in-Chief Shiba Yoshinobu, Editor Makino Motonori, *Fifty Selected Treasures from Toyo Bunko: A Journey through the History of the Orient*, pp. 22, 23, 30, 31, 34-39, 44, 45, 50, 51, 56, 57, 82-85, Tokyo: Toyo Bunko, 2011.
①「ヘダ号物語 16 の感動　建造図巻は、技術の缶詰。近代日本・明治の自信が詰ってる。」(『東洋見聞録』, 2011 ―秋〔8 号〕, 5 ～ 8 頁, (財) 東洋文庫, 2011 年 10 月).
①「藤屋のライバル、マンシ (卍 = 万字) という名の茶屋・万年屋」(『東洋見聞録』, 2011 ―秋〔8 号〕, 9 頁, (財) 東洋文庫, 2011 年 10 月).

佐藤　健太郎
①「モリスコの伝える知―アルモナシド・デ・ラ・シエラ写本を通して」(山本正身編『アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜』, 331 ～ 355 頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2012 年).
①訳註「イブン・ハルドゥーン著「イブン・ハルドゥーン自伝 4」」(〈吉村武典, 高野太輔, 五十嵐大介, 湯川武〉,『イスラーム地域研究ジャーナル』, 4, 65 ～ 98 頁, 早稲田大学イスラーム地域研究機構, 2012 年 3 月).
③「17 世紀モリスコの旅行記：ハジャリーのイスラーム「再確認」」(北大史学会月例研究会, 於：北海道大学, 2011 年 6 月 17 日).

佐藤　　宏
①"Local Public Goods Provision in the Post-Agricultural Tax Era in Rural China", <Sai Ding>, *Global COE Hi-Stat Discussion Paper Series*, No. 222, pp. 1-53, Hitotsubashi University, Feb. 2012.
①"Public Pension and Household Saving: Evidence from Urban China", <Jin Fenga and Lixin He>, *Journal of Comparative Economics*, vol. 39, no. 4, pp. 470-85, Association for Comparative Economic Studies, 2011.
③"Housing Privatization and Income Inequality in China", in Conference on Income Inequality and Economic Development, China Academy of Income Distribution, Beijing Normal University, 30 Oct. 2011, [北京師範大学中国収入分配研究院, 2011 年 10 月 30 日].
③"Public goods provision and peasant income under the 'New Socialist Countryside' initiative", in the International Workshop on Economic and Social Development in China and the World, 於：中国社会科学院民族学・

人類学研究所，2011 年 10 月 13 日.
③「房屋所有権，収入与不平等：来自中国 2002-2007 的証据」（中国社会科学論壇（2011/2012 経済学）「新時期中国収入分配」，於：中国社会科学院人口与労働経済研究所，2012 年 1 月 6 日）.

佐藤　仁史
①「回顧される革命―ある老基層幹部のライフヒストリーと江南農村」（山本英史編『近代中国の地域像』，381 ～ 419 頁，山川出版社，2011 年）.
①「従清末民国時期的“教育圏”看江南市鎮―以江蘇省呉江県為例」（復旦大学歴史系編『明清以来江南城市的発展与文化交流〈復旦史学集刊第四輯〉』，102 ～ 124 頁，復旦大学出版社，2011 年）.
①「清末における城鎮郷自治と自治区設定問題―江蘇蘇属地方自治籌辦処の管轄地域を中心に」（『東洋史研究』，70 巻 1 号，127 ～ 165 頁，東洋史研究会，2011 年 6 月）.
②『中国農村の民間藝能―太湖流域社会史口述記録集 2』（〈太田出，藤野真子，緒方賢一，朱火生〉，汲古書院，2011 年，448 頁）.
③「日本的近代中國農村史研究與田野調査―以江南為中心」（中国社会的歴史人類学中期学術会議，於：香港中文大学歴史系，2011 年 8 月 25 日）.

澤江　史子
①翻訳「ヌケット・カルダム「グローバル・ジェンダー・レジームへのトルコの対応」」（〈川邊敬子〉，辻村みよ子，スティール若希編『アジアにおけるジェンダー平等―政策と政治参画』，221 ～ 245 頁，東北大学出版会，2012 年）.
①「トルコにおけるイスラーム的女性公共圏―首都女性プラットフォームを中心的事例として」（『アジア経済』，vol. 52/4，9 ～ 35 頁，アジア経済研究所，2011 年 4 月）.
③“Pious women in the public sphere in Turkey”, in The Cultural Studies Association of Turkey “The 6th International Cultural Studies Conference ‘Space and Culture’”，於：Kadir Has 大学，イスタンブル，8 Sept. 2011.

塩沢　裕仁
①「東都洛陽と鄭州を結ぶ道筋」（鈴木靖民編『円仁と石刻の史料学―法王寺釈迦舎利蔵誌』，237 ～ 257 頁，高志書院，2011 年）.

①「洛陽から四方に通じる大道とその遺跡」(鈴木靖民・荒井秀規編『古代東アジアの道路と交通』, 133 ～ 157 頁, 勉誠出版, 2011 年).
①「洛陽における都城遺跡の保護とその問題点」(『中国考古学』, 11, 245 ～ 262 頁, 日本中国考古学会, 2011 年 12 月).

篠﨑　陽子

① "Waiqi Shijian", "Il Milione", "Yongle Dadian", "Large Map of Edo", "Dianshi Ce (Palace Examination Essay)", "Zhun Hui lianbu Pingding Desheng-tu (Illustrations of triumph which portray the suppression of the Dzungars and the Uyghurs)", "Latest Utamaro- Styled Uchikake", "Illustrated Book of Cherry Blossoms", "The Opium Wars", "Meisho Edo Hyakkei (One Hundred Views of Famous Place in Edo)", Editor-in-Chief Shiba Yoshinobu, Editor Makino Motonori, *Fifty Selected Treasures from Toyo Bunko: A Journey through the History of the Orient*, pp. 14-17, 20, 21, 52, 53, 62-65, 76, 77, 80, 81, 90, 91, 94, 95, Tokyo: Toyo Bunko, 2011.

斯波　義信

② *Fifty Selected Treasures from Toyo Bunko: A Journey through the History of the Orient*, 〈Makino Motonori〉, Tokyo: Toyo Bunko, 2011, 111pp.
②『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 75)』((財) 東洋文庫, 2011 年, 161 頁).
②『時空をこえる本の旅 2　東インド会社とアジアの海賊』(〈平野健一郎, 牧野元紀, 岡崎礼奈〉, (財) 東洋文庫, 2012 年, 28 頁).
③ "Japanese Study in the History of Maritime East Asia"（第 6 回日韓学士院学術フォーラム, 於：ソウル大学, 2011 年 9 月 27 日).

嶋尾　　稔

①「ベトナムにおける家礼の受容と改変：祝文を中心に」(吾妻重二・朴元在編『朱子家礼と東アジアの文化交渉』, 221 ～ 238 頁, 汲古書院, 2012 年).
①「ベトナム阮朝期初学教育テクストの中の国土・国史：『啓童説約』の検討」(山本正身編『アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜』, 107 ～ 139 頁, 慶應義塾大学言語文化研究所, 2012 年).
①「ベトナム阮朝期のラオス方面ルートに関する覚書」(『中・近世ベトナムにおける権力拠点の空間的構成（科学研究費成果報告書, 課題番号：

20320111，研究代表者：桃木至朗)』，2011 年)．
①「ベトナム阮朝期の徴税・徴兵に関する新史料の紹介」(『慶應義塾大学言語文化研究所紀要』，43，249 ～ 261 頁，慶應義塾大学言語文化研究所，2012 年 3 月)．
① "Confucian Family Ritual and Popular Culture in Vietnam", *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 69, pp. 57-96, Tokyo: the Toyo Bunko, 2011.

城山　智子
①「近代中国幣制改革論の系譜—ジェレミア・W・ジェンクス（1856-1929）を中心として」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 75)』，87 ～ 107 頁，(財) 東洋文庫，2011 年)．

真道　洋子
① "Introduction to Islamic Archaeology", *Introduction to Islamic Archaeology and Art: Egypt/Iran/Southeast Asia*, pp. 1-6, Joint Usage, Research Center for Islamic Area Studies, Organization for Islamic Area Studies, Waseda University, 2011.
①「イスラーム・ガラスにみる 8 世紀における社会の変容と展開—フスタート遺跡とラーヤ遺跡を中心に」(『古代』，125，97 ～ 118 頁，早稲田大学考古学会，2011 年 8 月)．
①「中世エジプトのガラス製装身具」(『民族藝術』，28，41 ～ 46 頁，民族藝術学会，2012 年 3 月)．
③「ゲニザ文書とフスタート遺跡出土の装身具について」(特色ある共同研究拠点の整備の推進事業早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業『「モノ」から見た知の技術と生活文化の変容と交流』2011 年度第 1 回研究会，於：早稲田大学，2011 年 6 月 4 日)．
③「初期イスラーム・ガラスから見るシナイ半島」(特色ある共同研究拠点の整備の推進事業早稲田大学イスラーム地域研究機構拠点強化事業『「モノ」から見た知の技術と生活文化の変容と交流』2011 年度公開講演会，於：早稲田大学小野梓記念講堂，2011 年 12 月 4 日)．

鈴木　恵美
①「エジプト革命以後の新体制形成過程における軍の役割」(『地域研究』，Vol. 12，No. 1，135 ～ 147 頁，地域研究コンソーシアム (JCAS)，2012 年

3月).
①「ムバーラク政権がもたらしたもの：安定と息苦しさ」(『現代思想』, Vol. 39-4(アラブ革命総特集4月臨時増刊号), 89～93頁, 青土社, 2011年).
①「エジプト革命はいかに宗教勢力に奪われたか—革命青年勢力の周辺化と宗教勢力の台頭」(『「中東政治変動の研究：アラブの春」の現状と課題』, 11～23頁, (財) 日本国際問題研究所, 2012年).
①「高揚するワタニーヤと憲法改正国民投票」(『季刊アラブ』, No. 137, 20～21頁, 日本アラブ協会, 2011年6月).
①「エジプト・アラブ共和国」(松本弘編『中東・イスラーム諸国民主化ハンドブック』, 92～105頁, 明石書店, 2011年).

鈴木　均
①「対テロ戦争からアラブ民衆の覚醒へ—中東地域の軍事化の10年」(『現代思想』, 2011年9月号, 148～155頁, 青土社, 2011年9月).
①「中東・南アジア政策提言研究の出発—3つの激動を眼前にして」(アジア経済研究所ホームページ掲載, アジア経済研究所, 2011年5月, [http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Seisaku/1105.html]).
①「アフガニスタン」(『アジア動向年報2011』, 553～578頁, アジア経済研究所, 2011年5月).
①「危機の中で進むハメネイへの権力集中—内政・外交上の嵐のなかで」(『外交』, 第12号, 94～99頁, 都市出版, 2012年3月).
①「中東・アラブ世界の変動を見通すために」(『アジ研ワールド・トレンド』, 第196号, 2～19頁, アジア経済研究所, 2012年1月, [座談会]).

鈴木　立子
①書評「仙石知子著『明清小説における女性像の研究』汲古書院, 2011年」(『中国女性史研究』, 第21号, 87～94頁, 2012年2月, [大島立子名義論文]).

砂山　幸雄
①「2010年の動向—思想」(『中国年鑑2011年版』, 202～204頁, 毎日新聞社, 2011年5月).
①「排日教科書と歴史認識問題」(和田春樹・後藤乾一・木畑洋一・山室信一・趙景達・中野聡・川島真編『東アジア近現代通史5　新秩序の模索—1930年代』, 5巻, 388～389頁, 岩波書店, 2011年).

②『新編原典中国近代思想史』(責任編集, 7巻, 岩波書店, 2011年, 464頁).
③「解読賀桂梅"文化自覚与新世紀之交的"中国"叙述」(東京大学東洋文化研究所国際シンポジウム「中国アイデンティティの模索—中国価値論と文化自覚論再考」, 於：東洋文化研究所, 2011年12月18日).

關尾　史郎

①「"名刺簡"三論」(『呉簡研究』, 第3輯, 167～175頁, 中華書局, 2011年6月).
①「敦煌新出鎮墓瓶初探—「中国西北地域出土鎮墓文集成(稿)」補遺(続)」(『西北出土文献研究』, 9号, 61～85頁, 西北出土文献研究会, 2011年5月).
②『고대 동아시아의문자교류와 소통』(〈동북아역사재단 엮음〉, 동북아역사재단, 2011年, 406頁).
②『五胡十六国覇史輯佚』(〈五胡の会編〉, 燎原, 2012年, 314頁).
②『人文学の現在』(〈愛媛大学法文学部・新潟大学人文学部〉, 創風社, 2012年, 204頁).

関本　照夫

①「新年が年に4回やってくる」(『月刊みんぱく』, 36巻1号, 20～21頁, 国立民族学博物館, 2012年1月).
①「布からモノの働きを知る」(『月刊みんぱく』, 35巻5号, 10～11頁, 国立民族学博物館, 2011年5月).
①「布と人の人類学を構想する」(『民博通信』, No. 133, 8～9頁, 国立民族学博物館, 2011年6月).

曽田　三郎

①書評・紹介「田中比呂志著『近代中国の政治統合と地域社会—立憲・地方自治・地域エリート』」(『歴史学研究』, 888号, 55～58頁, 歴史学研究会, 2012年1月).
③「辛亥革命100周年—日本と中国」(九州歴史科学研究会, 於：西南学院大学, 2011年4月23日, [『九州歴史科学』, 39号, 60～64頁, 九州歴史科学研究会, 2011年11月]).
③「中華民国臨時約法の制定と日本人法学者」(広島史学研究会, 於：広島大学, 2011年10月30日, [『史学研究』, 273号, 107～108頁, 広島史学研究会, 2011年10月]).

高田　幸男

①「民国期教育におけるプラグマティズムと民主主義」（久保亨・嵯峨隆編著『中華民国の憲政と独裁　1912-1949』，147～175頁，慶應義塾大学出版会，2011年）.

②『明治大学小史―人物編』（〈明治大学史資料センター〉, 学文社, 2011年, 232頁）.

③「教育界から見た近代中国地域社会」（USC-Meiji Research Exchange 2012（南カリフォルニア大学―明治大学学術交流会、2012），Los Angeles：South California University, 2012年1月25日）.

③「江蘇省の地域社会からみた辛亥革命前後の中国」（移情閣文化講座，於：神戸・孫文記念館，2011年9月18日）.

③「民国教育部的人員構成：1912-1947」（蒋介石与現代中国再評価国際研討会，於：台北・中央研究院近代史研究所，2011年6月27日）.

高遠　拓児

①書評「辻正博著『唐宋時代刑罰制度の研究』」（『集刊東洋学』，105，112～119頁，中国文史哲研究会，2011年6月）.

瀧下　彩子

③「旅行先としての“華北”：鮮満観光から鮮満支観光へ」（東洋文庫公開シンポジウム「華北の発見」，於：（財）東洋文庫，2011年2月12日）.

武内　紹人

①書評 “The Old Tibetan Annals: An Annotated Translation of Tibet's First History. By BRANDON DOTSON. With an Annotated Cartographical Documentation by GUNTRAM HAZOD. Wien: Österreichische Akademie der Wissenschaften, 2009. vi, 319 pp. $112.00 (cloth)”, *The Journal of Asian Studies*, vol. 70, issue 02 (2011), pp. 557-558, 2011.

② *Old Tibetan Texts in the Stein Collection Or.8210, Studies in Old Tibetan Texts from Central Asia*, vol. 1; *Studia Tibetica* No. 45, 〈Kazushi Iwao, Sam Van Schaik〉, Tokyo: the Toyo Bunko, 2012, xviii+115 pp.

② *New Studies of the Old Tibetan Documents: Philology, History and Religion, Old Tibetan Documents Online Monograph Series Vol. III*, <Yoshiro Imaeda, Matthew T. Kapstein>, Tokyo: Tokyo University of Foreign Studies, 2011, ix + 338 pp.

② *Research Notes on the Zhangzhung Language by Frederick W. Thomas at the British Library, Bon Studies 14: Senri Ethnological Reports 99*, <Burkhard Quessel and Yasuhiko Nagano>, Osaka: National Museum of Ethnology, 2011, v + 246 pp.
③ "Formation and Transformation of Old Tibetan", in The 17th Himalayan Languages Symposium, Kobe City University of Foreign Studies, 6-9, Sept. 2011.

武田　幸男
①「広開土王碑「山形大学本（第Ⅲ面）」調査概要」（『山形大学歴史・地理・人類学論集』，13，91 ～ 98 頁，山形大学，2012 年 3 月）.
③「広開土王碑「山形大学本」が語るもの」（講演会「高句麗広開土王碑は何を語るか―広開土王碑拓本の世界」，於：山形大学人文学部・小白川図書館，2011 年 12 月 20 日）.

多田　狷介
③「西安を訪れた日本人」（第 50 回日本女子大学史学研究会大会記念講演，於：日本女子大学，2011 年 12 月 3 日）.

立川　武蔵
①「供養の概念について：南アジアと東アジアの比較」（秋道智彌編『日本の環境思想の基層』，204 ～ 224 頁，岩波書店，2012 年）.
②『仏はどこにいるのか―マンダラと浄土』（せりか書房, 2011 年, 177 頁）.
② *Buddhist Fire Ritual in Japan; Senri Ethnological Reports* 105（〈Madhavi Kolhatkar〉，国立民族学博物館，2012 年 3 月，ii + 198 頁）.
③「マンダラとは何か」（名古屋大学大学院文学研究科公開シンポジウム，於：名古屋大学, 2011 年 3 月 5 日, [和田壽弘編『マンダラと論理のインド』，12 ～ 38 頁，名古屋大学大学院文学研究科，2011 年 12 月]）.

田仲　一成
①「雲南關索戲中的花關索―兼論其與閩粤戲神田都元帥的關係」（『文化遺產』，12 巻 1 号，49 ～ 55 頁，中山大學中國非物質文化遺產研究中心，2012 年 1 月）.
①「戯曲の空間と小説の空間」（『中国古典小説研究』，16，123 ～ 146 頁，中國古典小説研究会，2011 年 12 月）.

①「中国農村演劇における主催者・演技者・観衆」(『公孫樹人』, 11, 1～7頁, 東京大学文学部中国語中国文学同窓会, 2012年1月).
①「閩北的普度與目連戲」(『節日研究』, 4, 194～225頁, 文化部・山東大學編, 泰山出版社, 2011年12月).
③「日本の式三番・鬼能にあたる芸態がかって中国に存在したか」(『2011年秋季能楽　講座』第1回, 於:法政大学能楽研究所, 2011年10月24日, [http://itunes.apple.com/jp/podcast/id163238761 (法政大学IT研究センターポッドキャスティング ステーション) に映像あり]).

田中　仁
①「関於大阪大学中国文化論壇《共同進化的現代中国研究》」(『大阪大学中国文化フォーラム・ディスカッションペーパー』, 6頁, 大阪大学, 2011年12月, [単暁文訳]).
②『共進化する現代中国研究—地域研究の新たなプラットフォーム』(〈三好恵真子〉, 大阪大学出版会, 2012年, 364頁).
②『新　図説中国近現代史—日中新時代の見取図』(〈菊地一隆, 加藤弘之, 日野みどり, 岡本隆司〉, 法律文化社, 2012年, 280頁).
③「関於大阪大学中国文化論壇《共同進化的現代中国研究》」(百年中国與周辺地域—「現代中国與東亜格局」教学與研究工作坊, 於：中国・内モンゴル大学, 2011年8月20日).
③「歴史学と諸学との対話—学校間交流・学際的基盤構築から得られたもの」(首届南開—阪大研究生学術交流会, 於：中国・南開大学, 2012年3月6日).

田中　比呂志
①「清末における中国歴史教科書編纂」(『東京学芸大学紀要（人文社会学系Ⅱ)』, 第63集, 87～100頁, 東京学芸大学学術情報委員会, 2012年1月).
①「華北農村訪問調査報告（2）—2010年8月・12月, 山西省P県D村」(『東京学芸大学紀要（人文社会科学系Ⅱ)』, 第63集, 101～112頁, 東京学芸大学学術情報委員会, 2012年1月).
①「高河店社区における宗族結合の展開—茹姓を中心として」(三谷孝編著『中国内陸における農村変革と地域社会—山西省臨汾市近郊農村の変容』, 195～219頁, 御茶の水書房, 2011年).
③「近年来日本的中国区域社会史研究」(第二届山西区域社会史国際学術

研討会，於：中国山西省永済市）.

田村　晃一

①「貞恵公主墓と貞孝公主墓の意味するもの」（『青山考古』，27 号，83 ～ 103 頁，青山考古学会，2011 年 3 月）.

②『クラスキノ（ロシア・クラスキノ村）における一古城蹟の発掘調査』（東京：渤海文化研究中心，2011 年，本文 139 頁，写真 51 頁）.

千葉　　炅

②『中国社会経済史用語解』（〈（財）東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉，（財）東洋文庫，2012 年，556 頁）.

辻本　裕成

②『中世〈知〉の再生―『月庵酔醒記』論考と索引』（〈服部幸造，弓削繁〉，三弥井書店，2012 年，423 頁）.

土田　哲夫

①「フランク・プライスと戦時中国の国際宣伝」（斎藤道彦編『中国への多角的アプローチ』，151 ～ 172 頁，中央大学出版部，2012 年）.

①「中日戦争与中国宣戦問題」（楊天石・侯中軍編『戦時国際関係』，125 ～ 155 頁，北京：社会科学文献出版社，2011 年）.

①「日中戦争と中国宣戦問題」（西村成雄・石島紀之・田嶋信雄編『国際関係のなかの日中戦争』，355 ～ 378 頁，慶應義塾大学出版会，2011 年）.

②『インタビュー　戦後日本の中国研究』（〈平野健一郎，村田雄二郎，石之瑜〉，平凡社，2011 年，389 頁）.

②『戦後日本的中国研究―口述知識史』（〈石之瑜，何培忠，平野健一郎，村田雄二郎〉，台北：国立台湾大学政治学系中国大陸暨両岸関係教学與研究中心，2011 年，414 頁）.

坪井　祐司

① “Muslims under Dual Jurisdictions: The Nadrah Issue form the Perspective of “Qalam””, Fukami Naoko et al eds., *Islam and Multiculturalism: Between Norms and Forms*, pp. 157-166, Organization for Islamic Area Studies, Waseda

University, 2012.
①「マジュリス」(新井和広編『ジャウィ文字でつながる東南アジア・イスラーム世界：ジャウィ定期刊行物創刊号巻頭言（SIAS Working Paper Series 12)』，139 ～ 158 頁，上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター，2012 年 2 月).
①「英領マラヤにおけるマレー人概念の土着化：スランゴル州におけるマレー人エリート層の形成」(『東洋学報』，第 93 巻第 2 号，1 ～ 26 頁，(財) 東洋文庫，2011 年 9 月).
②『カラムの時代 III：マレー・イスラム世界におけるイスラム的社会制度の設計（CIAS Discussion Paper No. 23)』(〈坪井祐司，山本博之〉，京都大学地域研究情報統合センター，2012 年，47 頁).
②『ジャウィを学ぶ：ジャウィ文献購読テキスト（CIAS Discussion Paper No. 21)』(〈山本博之編，ファリダ・モハメッド協力〉，京都大学地域研究情報統合センター，2011 年，116 頁).

唐　成
①「消費型経済成長を目指す中国の課題」(『東亜』，5 月号，34 ～ 41 頁，霞山会，2011 年 5 月).
①「産業集積地における中小企業と銀行との取引関係」(加藤弘之編『中国長江デルタの都市化と産業集積』，180 ～ 198 頁，勁草書房，2012 年).

朽尾　武
①「小島憲之『上代日本文学と中国文学』上における類書の研究」(『成城国文学』，28，119 ～ 125 頁，成城国文学会，2012 年 3 月).

富澤　芳亜
①「近代中国の紡織業史」(『近きに在りて』，59 号，36 ～ 46 頁，汲古書院，2011 年 5 月).
①「1930 年代の中国における綿紡織工場の設備導入について」(『広島東洋史学報』，15・16 号，11 ～ 22 頁，広島東洋史学研究会，2011 年 12 月).
②『近代中国を生きた日系企業』(〈久保亨，萩原充〉，大阪大学出版会，2011 年，289 頁).
③「新聞記事に見る華北認識」(東洋文庫公開シンポジウム「華北の発見」，於：(財) 東洋文庫，2012 年 2 月 12 日).

③「民国初期の企業関連法整備と日系企業」(辛亥革命百周年記念東京会議，於：東京大学，2012年12月3～4日).

鳥海　靖

②『逆賊と元勲の明治』(講談社学術文庫，2011年，263頁).

③「後藤新平と災害復興」(「東北本線全通120周年記念　杜の都フォーラム―鉄道の旅　ふたたび東北へ！―」(東日本鉄道文化財団・河北新報社共催)，於：トラストシティカンファレンス・仙台，2011年11月19日).

③「日本における立憲政治の形成とその国際的比較」(川崎市民アカデミー，於：川崎市生涯学習センター（神奈川県川崎市)，2011年4月19日).

③「日露戦争の展開と講和」(NHK学園海外スクーリング，於:NHK学園(中華人民共和国大連市)，2011年9月14日).

③「南満州の鉄道問題をめぐる日米摩擦の萌芽」(「鉄道を通して見た日本の近代」研究会，於：東日本鉄道文化財団（東京)，2011年7月12日).

中兼　和津次

①「『都市農村一体化』政策とその背景」(加藤弘之編『中国長江デルタの都市化と産業集積』，21～45頁，勁草書房，2012年).

①「コメント『体制移行の政治経済学―なぜ社会主義国は資本主義に向かって脱走するのか』に対する盛田常夫氏の書評論文を読んで」(『アジア経済』，52巻6号，75～82頁，アジア経済研究所，2011年6月).

①「中国における『都市農村一体化』政策とその背景」(『アジ研ワールド・トレンド』，197号，4～7頁，アジア経済研究所，2012年2月).

中村　元哉

①「日本の中国近現代史研究の動向（2000年度～2010年度)」(『近代中国研究彙報』，第34号，133～146頁，(財）東洋文庫，2012年3月).

中谷　英明

①「Suttanipāta における saññā」(『印度学仏教学研究』，第60巻2号，900～893頁，日本印度学仏教学会，2012年3月).

③「Suttanipāta における saññā」(日本印度学仏教学会，於：龍谷大学大宮学舎，2011年9月7日).

長沢　栄治

①「エジプト1月25日革命は何を目指すか」(水谷周編『アラブ民衆革命を考える』, 98～135頁, 国書刊行会, 2011年).

①「エジプト1月25日革命を考える—「腐敗」をキーワードにして」(『中東研究』, 511号 (2011年第1巻), 39～47頁, 中東調査会, 2011年6月).

①「二つのエジプト革命」(『国際問題』, 2011年10月号, 19～28頁, 日本国際問題研究所, 2011年10月).

②『エジプト革命　アラブ世界変動の行方 (平凡社新書622)』(平凡社, 2012年, 262頁).

③「エジプト革命の歴史的位置付け」(日本イスラム協会2011年度後期公開講演会, 於：東京大学文学部, 2011年12月10日).

永田　雄三

①「トルコのことわざと歴史教育」(日本ことわざ文化学会編『教育とことわざ』, 82～94頁, 人間の科学社, 2011年).

長縄　宣博

①"Holidays in Kazan: The Public Sphere and the Politics of Religious Authority among Tatars in 1914", *Slavic Review*, vol. 71, no. 1, pp. 25-48, Association for Slavic, East European, and Eurasian Studies, the University of Illinois at Urbana-Champaign, Spring 2012.

①"The Hajj Making Geopolitics, Empire, and Local Politics: A View from the Volga-Ural Region at the Turn of the Nineteenth and Twentieth Centuries", in Alexandre Papas, Thomas Welsford, and Thierry Zarcone, eds., *Central Asian Pilgrims: Hajj Routes and Pious Visits between Central Asia and the Hijaz*, pp. 168-198, Berlin: Klaus Schwarz Verlag, 2012,

③ "Russia's Muslim Mediators in Arabia, 1890s-1930s: Some Thoughts on a Research Agenda", in Muslim Identities and Imperial Spaces: Networks, Mobility, and the Geopolitics of Empire and Nation (1600-2011), the Center for Russian, East European, and Eurasian Studies, Stanford University, 7 Apr. 2011.

③「タタール人：祖国とイスラーム世界の狭間で」(スラブ研究センター平成23年度公開講座『スラブ・ユーラシアで躍動する人々』, 於：北海道大学スラブ研究センター, 2011年5月23日).

中見　立夫

① “On the materials of the Imperial Cabinet Archives (Neige daku dangan) and their Manchu and Mongolian sources in the Institute of History and Philology, Academia Sinica: Location, history of research, and our research project”, *Quaestiones Mongolorum Disputatae*, No. 7, pp. 38-47, Oct. 2011.

①「“満蒙独立運動”という虚構と、その実像」(『近代日本研究』, 28 巻 (2011 年度), 73 ～ 106 頁, 慶応義塾福沢研究センター, 2012 年 2 月).

①「关于日本东洋文庫与中国第一历史档案馆所藏镶红旗满洲衙门档案」(中国社会科学院近代史研究所政治史研究室编『清代满汉关系研究』, 570 ～ 581 頁, 北京：社会科学文献出版社, 2011 年).

③ “Үндэстэн улсаа байгуулахыг зорьсон нь: Монголын тусгаар тогтнолын 1911 оны тунхаглал”, in Улаанбаатар: “Mongolian Sovereignty and Mongols”, International Conference, 9 Dec. 2011., [Монголын тусгаар тогтнол ба Монголчууд, pp.17-32, ШУА-ийн Түүхийн хүрээлэн, Dec. 2011] .

③「辛亥革命时期的内蒙古王公—以喀喇沁右翼旗贡桑诺尔布郡王为例」(中国辛亥革命百年纪念暨第十四届国际清史学术研讨会, 於：北京, 2011 年 9 月 17 日, [『中国辛亥革命百年纪念暨第十四届国际清史学术研讨会论文提要汇编』, 18 頁, 北京：国家清史编纂委员会, 故宫博物院, 2011 年 9 月]).

新村　容子

①「「王立アヘン委員会」とモリソンパンフレット」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 75)』, 1 ～ 26 頁, (財) 東洋文庫, 2011 年).

①「1820 ～ 30 年代北京の士大夫交流 (4) —道光十六年 (1836) 四月四日「江亭展禊」を中心として」(『岡山大学文学部紀要』, 55 号, 45 ～ 65 頁, 岡山大学, 2011 年 7 月).

①「許乃済「「弛禁上奏」と黄爵滋「「敬陳六事疏」」(『岡山大学文学部紀要』, 56 号, 5 ～ 23 頁, 岡山大学, 2011 年 12 月).

西　　英昭

①「滋賀文庫引越顛末」(『東洋法制史研究会通信』, 19, 6 ～ 9 頁, 東洋法制史研究会, 2011 年 8 月).

①「村上貞吉とその周辺—人物情報紹介」(『東洋法制史研究会通信』, 19,

10 ～ 14 頁，東洋法制史研究会，2011 年 8 月）.
①「文献目録：台北における図書館・文献検索情報―入門編・三訂版」（『法史学研究会会報』，16，192 ～ 210 頁，法史学研究会，2012 年 3 月）.
①「近代東アジア法制関連日本語論文データベース（仮）」（〈国吉亮太氏と共同制作〉，2012 年 2 月公開，［http://www.terada.law.kyoto-u.ac.jp/nishi/nihongo.htm］）.
③「中華民国民法史研究の検討―親属編を素材に」（法制史学会近畿部会，於：龍谷大学，2011 年 12 月 10 日）.

西田　龍雄
①「西北第二民族学院・上海古籍出版社・英国国家図書館編『英蔵黒水域文献⑤』」（『東洋学報』，第 93 巻第 1 号，55 ～ 63 頁，（財）東洋文庫，2011 年 6 月）.

延廣　眞治
①「『大岡政談』八則」（『日本研究論文集　日本社会･文化史』, 73 ～ 86 頁，ハノイ国家大学附属人文社会科学大学東洋学部日本学科，2011 年）.
②『江戸落語―誕生と発展』（講談社，2011 年，324 頁）.

長谷川　誠夫
②『中国社会経済史用語解』（〈（財）東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉，（財）東洋文庫，2012 年，556 頁）.

服部　龍二
②『日中国交正常化：田中角栄、大平正芳、官僚たちの挑戦』（中央公論新社，2011 年，262 頁）.

濱島　敦俊
①「江南に“封建”有りしや―1930 年代上海郊区の地籍図から看る」（吉尾寛編『民衆反乱と中華世界―新しい中国史像の構築に向けて』，133 ～ 186 頁，汲古書院，2012 年）.
①「江南デルタ圩田水利雑考」（『中国 21』，第 37 号，1 ～ 18 頁，愛知大学現代中国学会，2012 年，［復旦大学歴史地理研究所・Harvard 燕京学社

協同開催シンポジウム「国家視野下的地域」(2012年5月)での口頭報告に基づく]).
①「明代松江何氏之変迁」(陈支平主编『相聚休休亭—傅衣凌教授诞辰100周年纪念文集』, 109～129頁, 厦门大学出版社, 2011年, [東吳大学歷史系主催「第七屆史學與文獻學學術研討會:社會史研究之新視野」(2009年5月)での報告]).
① "Communal Religion in Jiangnan Delta Rural Villages in Late Imperial China", *International Journal of Asian Studies*, Vol. 8, Part 2, pp. 127-162, Cambridge University Press, 2011 [tr. Mathew Fraleigh].
①「從〈放生和規約〉看明代後期江南士大夫家族」(『明代研究』, 第17期, 91～119頁, 台北:中國明代學會, 2011年12月).

林　俊雄
① "Trends in Central Eurasian Archaeology since the Late 1980s", *Asian Research Trends New Series*, No. 6, pp.1-22, Tokyo: The Toyo Bunko, 2011.
①「ユーラシアにおける人間集団の移動と文化の伝播」(窪田順平監修, 奈良間千之編『中央ユーラシア環境史1:環境変動と人間』, 164～208頁, 京都:臨川書店, 2012年).
①「六～八世紀のモンゴリア、中央アジア、北中国—突厥王侯の墓廟から見た文化複合」(『史境』, 64, 1～18頁, 歴史人類学会, 2012年3月).
① "On the Origin of Turkic Stone Statues", *International Journal of Eurasian Studies*, N. S. 1 (11), pp. 15-25, 181-198, 北京:商務印書館, 2011.
①「フン型鍑」(草原考古研究会編『鍑の研究—ユーラシア草原の祭器・什器』, 341～382頁, 雄山閣, 2011年).

原　實
①「川」(『超域アジア研究報告—付　歴史・文化研究—』, 第8号, 27～44頁, (財)東洋文庫, 2012年3月).

原山　隆広
① "al-Qur'ān (The Qur'ān)", "Arabic Vellum Parchment Document", "Hyakunin Isshu", "Otogi Zoshi: Issun Boshi", "The Wealth of Nations", "Tableau Général de l'Empire Othoman", "Siebold's Flora Japonica", "Albums Humouristiques de la Vie Japonaise", "Correspondence between

B.H.Chamberlain and Lafcadio Hearn, 1890-1896", "Miniature Painting of Persia, India and Turkey", Editor-in-Chief Shiba Yoshinobu, Editor Makino Motonori, *Fifty Selected Treasures from Toyo Bunko : A Journey through the History of the Orient*, pp. 12, 13, 18, 19, 40, 41, 54, 55, 66, 67, 72, 73, 86, 87, 100-105, Tokyo: Toyo Bunko, 2011.

平野　健一郎

②『時空をこえる本の旅2　東インド会社とアジアの海賊』(〈斯波義信，牧野元紀，岡崎礼奈〉，(財) 東洋文庫，2012年，28頁).

平野　　聡

①「中国が中国である限り真の民主はありえない(前篇・後篇)」(『WEDGE Infinity』，ウェッジ社，2012年2月17・18日，[ウェブマガジン，前篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1719，後篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1720]).

①「高速鉄道事故で『中間層』を敵に回した中国(前篇・後篇)」(『WEDGE Infinity』，ウェッジ社，2011年8月29・30日，[ウェブマガジン，前篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1472，後篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1473]).

①「東日本大震災に乗じて『産業昇級』を狙う中国(前篇・後篇)」(『WEDGE Infinity』，ウェッジ社，2011年5月19・20日，[ウェブマガジン，前篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1349，後篇 http://wedge.ismedia.jp/articles/-/1351]).

③"How to see The Rise of China?: From Historical Perspective", in Building a Region or Resuming Rivalries? Northeast Asia at the Crossroads; The North East Asia Security Workshop, University of Tokyo with Australian national University, 17 Sept. 2011.

弘末　雅士

①"Chairperson's Reports <Symposium I> Port States in Southeast Asia", *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, no. LVI, 2011, pp. 143-147, Jan. 2012 [『国際東方学者会議紀要』第56冊；2011年5月20日開催の研究会報告].

①「17世紀のメコン川をめぐる多様な交易網」(『なじまぁ -Accessible

Asia-』, no. 2, 13 ～ 15 頁, 2012 年 3 月).
③"Introductory Remarks", in Symposium I: Port States in Southeast Asia, 56th International Conference of Eastern Studies, Tokyo, May 20th, 2011.

廣瀬　紳一
①『中国社会経済史用語解』(〈(財) 東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉, (財) 東洋文庫, 2012 年, 556 頁).

深沢　眞二
①「「さみだれを」歌仙注釈 (下)」(『表現学部紀要』, 12, 2 ～ 19 頁, 和光大学, 2012 年 3 月).
①「宗因独吟「つぶりをも」百韻注釈」(〈深沢了子〉, 『近世文学研究』, 3, 75 ～ 130 頁, 文学史探究の会, 2011 年 10 月).
①「法政大学図書館正岡子規文庫本『素然永雄両吟和漢』について」(『連歌俳諧研究』, 121, 28 ～ 34 頁, 俳文学会, 2011 年 9 月).

藤井　昇三
③「辛亥革命と孫文―日中関係の転機」(愛知大学東亜同文書院大学記念センター国際シンポジウム「辛亥革命・孫文・東亜同文会」, 於：愛知大学, 2011 年 11 月 12 日, [『同文書院記念報 (愛知大学東亜同文書院大学記念センター紀要)』, Vol. 20, 6 ～ 12 頁, 2012 年 3 月]).
③「辛亥革命と孫文」(神奈川県日本中国友好協会主催「辛亥革命百周年記念シンポジウム in かなざわ」, 於：横浜市開港記念会館, 2011 年 11 月 23 日).
③「辛亥革命期の孫文と日本―『東北租借問題』を中心に」(神奈川大学主催「辛亥革命 100 周年記念シンポジウム」, 於・神奈川大学, 2011 年 11 月 6 日, [報告集『辛亥革命とアジア』(仮題)、御茶の水書房より 2012 年 9 月刊行予定]).

藤田　　忠
①「北京大学蔵西漢竹書『趙正書』について」(『国士舘人文学』, 2 (通巻 44 号), 109 ～ 123 頁, 国士舘大学文学部人文学会, 2012 年 3 月).

藤本　幸夫

① "Old Korean Books Preserved in Japan", *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 69, pp. 1-17, Tokyo: the Toyo Bunko, Mar. 2012.

①「古代日本語と朝鮮語」(『万葉集と環日本海（高岡市万葉歴史館叢書24)』，3～19頁，高岡市万葉歴史館，2012年3月).

①「蓬左文庫所蔵駿河御譲本朝鮮本の「御払」に就いて」(高橋亨他編『武家の文物と源氏物語絵―尾張徳川家伝来品を起点として』，116～135頁，翰林書房，2012年).

③「古代日本語と朝鮮語」(於：高岡市万葉歴史館，2011年8月20日).

古田　和子

①「近代中国の市場秩序と広域の経済秩序」(『近きに在りて』，59号，28～35頁，中国現代史研究会，2011年5月).

①書評「籠谷直人・脇村孝平編『帝国とアジア・ネットワーク―長期の19世紀』」(『経済史研究』，第15号，209～219頁，2012年3月).

③ "Comment on the Expansion of the Global Economy and Changes of Local Market Institutions in the Mid-19th century: The Free-trade Regime Reconsidered"（社会経済史学会第80回全国大会，於：立教大学，2011年5月5日).

③ "Information, Trust-building and Market Quality: Governing the Quality of Goods in Modrn Asia"（in An International Workshop on Governing the Quality of Goods in Modern Asia，於：慶應義塾大学三田キャンパス，2012年2月25日).

弁納　才一

①「華北綜合調査研究所の刊行物について」(『近代中国研究彙報』，第34号，103～132頁，(財) 東洋文庫，2012年3月).

①「民国期中国の農村経済史」(『近きに在りて』，59号，67～76頁，汲古書院，2011年5月).

①「山西省の農村経済構造と食糧事情―臨汾市近郊農村高河店の占める位置」(三谷孝編『中国内陸における農村変革と地域社会―山西省臨汾市近郊農村の変容』，51～73頁，御茶の水書房，2011年7月).

寳劔　久俊

① “Development of Land Rental Market and its Effects on Household Farming in Rural China: An Empirical Study in Zhejiang Province”, *IDE Discussion Paper Series*, No. 323, Feb. 2012.

①「中国における農地流動化の進展と農業経営への影響—浙江省奉化市の事例を中心に」(『中国経済研究』, 8巻1号, 4～20頁, 2011年3月).

①「中国のトウモロコシ需給構造と食料安全保障」(清水達也編『変容する途上国のトウモロコシ需給—市場の統合と分離（研究双書No. 596)』, 133～168頁, アジア経済研究所, 2011年).

①「中国の農地賃貸市場の形成とその課題」(『アジ研ワールド・トレンド(特集　中国の都市と産業集積)』, No. 197（2012年2月号), 28～31頁, 2012年2月).

①「農地賃貸市場の形成と農地利用の効率性」(加藤弘之編『中国長江デルタの都市化と産業集積』, 280～302頁, 勁草書房, 2012年).

細谷　良夫

①「尚可喜一族的旗籍與婚姻関係：圍繞満漢関係視覚」(『清史研究』, 2012年1月号, 14～21頁, 中国人民大学清史研究所, 2012年2月, [張永江訳, 現地調査]).

①「新疆ウイグル自治区に残る清代城堡の探訪」(『アジア流域文化研究』, 8, 41～70頁, 東北学院大学アジア流域研究所, 2012年3月).

①「郎世寧カスティリオーネをめぐる二つの石碑」(『満族史研究』, 10号, 75～84頁, 満族史研究会, 2011年12月, [現地調査]).

堀川　　徹

① “Islamic Court Documents as Historical Sources in Central Asia”, Babadjanov & Kawahara Y. eds., *History and Culture of Central Asia*, pp. 73-84, Tokyo: NIHU Program Islamic Area Studies, 2012.

①「世界を見つめて」1～4（『Gaidai Bibliotheca』, 192号, 8頁, 193号, 5頁, 194号, 6頁, 195号, 7頁, 京都外国語大学付属図書館, 2011年4月, 7月, 10月, 2012年1月).

①「中央アジア文化における連続性について—テュルク化をめぐって」(森部豊・橋寺知子編『アジアにおける文化システムの展開と交流』, 35～56頁, 関西大学出版部, 2012年).

牧野　元紀

② *Fifty Selected Treasures from Toyo Bunko: A Journey through the History of the Orient*, 〈Shiba Yoshinobu〉, Tokyo: Toyo Bunko, 2011, 111pp.

②『時空をこえる本の旅２　東インド会社とアジアの海賊』（〈斯波義信，平野健一郎，岡崎礼奈〉，（財）東洋文庫，2012 年，28 頁）.

松井　　太

①「敦煌出土西夏語佛典に挿入されたウイグル文雑記」（『人文社会論叢』，人文科学篇 27，59 ～ 64 頁，弘前大学人文学部，2012 年 2 月）.

①「古ウイグル語文献にみえる「寧戎」とベゼクリク」（『内陸アジア言語の研究』，26，141 ～ 175 頁，中央ユーラシア学研究会，2011 年 8 月）.

①「敦煌出土のウイグル語暦占文書：通書『玉匣記』との關連を中心に」（『人文社会論叢』，人文科学篇 26，25 ～ 48 頁，弘前大学人文学部，2011 年 8 月）.

①「旅順博物館と龍谷大学の大谷探検隊将来ウイグル語世俗文書」（郭富純・三谷真澄編『中央アジア出土の仏教写本』，55 ～ 59 頁，旅順博物館・龍谷大学，2012 年 3 月）.

③ “Borun and Borun-luq in the Old Uigur Legal Documents”, in Beşbalıklı Şingko Şeli Tutung Anısına Uluslararası Eski Uygurca Araştırmaları Çalıştayı, Ankara: Türk Dili Kurumu, 5 June 2011.

松重　充浩

①「榊谷仙次郎日記」（武内房司編『日記に読む近代日本５　アジアと日本』，184 ～ 203 頁，吉川弘文館，2012 年）.

③「日本『外地』における蔣介石認識の形成：満洲事変前大連日本人社会を事例として」（中央研究院近代史研究所主催「『蔣介石与現代中国再評価』国際学術研討会」，於：中央研究院近代史研究所档案館，2011 年 6 月 28 日）.

③「満洲事変前ハルビンにおける中国側諸施策―中国側『記憶』の生成過程の実相」（日本大学文理学部人文科学研究所総合研究「近現代の歴史をめぐる「事実」と記憶」（研究代表者：古川隆久）・私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「東アジアにおける都市形成プロセスの統合的把握とそのデジタル化をめぐる研究」（研究代表者：加藤直人）主催「《ミニ・シンポジウム》近現代の歴史をめぐる「事実」と記憶―ハルビンを事例として」，於：日本大学文理学部，2011 年 12 月 10 日）.

③「『外地』の日本語刊行物からみる華北：『朝鮮及満洲』を事例として」（東洋文庫公開シンポジウム「華北の発見」，於：（財）東洋文庫，2012年2月12日）.

松永　泰行

①「イランの戦略文化と覇権問題—原則的抗米姿勢と抑止力追求の背景」（『国際政治』，167号，42～56頁，日本国際政治学会，2012年1月）.

① "Human Rights and New Jurisprudence in Mohsen Kadivar's Advocacy of 'New-Thinker' Islam", *Die Welt des Islams*, vol. 51, nos. 3-4, pp. 358-381, Brill, Dec. 2011.

松丸　道雄

③「漢字史研究の最前線（1）—新石器時代から楷書成立まで」（於：岐阜市岐阜女子大学，2011年12月10日）.

③「商周時期的王城、青銅器、文字」（北京大学海外名家講学計画，於：北京大学考古文博学院，［(1) 2011年5月17日：殷（商）早期的王城，(2) 2011年5月19日：殷（商）後期的王城，(3) 2011年5月20日：従鋳造技法談殷周青銅器和銘文的真偽問題，(4) 2011年5月27日：先秦時代漢字史］）.

③「殷後期的王城」（於：河南省安陽市文字学博物館講堂，2011年5月23日）.

松本　　弘

①「イエメン—政変とイスラーム主義」（『中東研究』，512号，26～32頁，中東調査会，2011年9月）.

①「イエメンの混迷—その背景と特質」（『国際問題』，605号，38～47頁，日本国際問題研究所，2011年10月）.

②『中東・イスラーム諸国　民主化ハンドブック』（明石書店，2011年，560頁）.

丸川　知雄

①「中国の再生可能エネルギー戦略」（『東亜』，531，12～23頁，霞山会，2011年9月）.

①「浙江省と広東省の産業集積の分布」（『社会科学研究』，63巻2号，7～27頁，東京大学社会科学研究所，2011年）.

① "Technology Acquisition by Indigenous Firms: The Case of the Chinese and Indian Automobile Industries", Moriki Ohara, M. Vijayabaskar, and Hong Lin eds., *Industrial Dynamics in China and India: Firms, Clusters, and Different Growth Paths*, pp. 63-79, Palgrave Macmillan, 2011.
①「長江デルタの産地型産業集積と機械産業集積—地図と解題」(加藤弘之編『中国長江デルタの都市化と産業集積』, 196 ～ 211 頁, 勁草書房, 2012 年).
①「日本の携帯電話産業—ケータイ先進国からイノベーションの袋小路へ」(〈吉岡斉〉, 吉岡斉・後藤邦夫・明石芳彦・名和小太郎・大谷卓史・綾部広則・澤田芳郎編『新通史　日本の科学技術　世紀転換期の社会史　1995 年～ 2011 年』, 第 2 巻, 391 ～ 408 頁, 原書房, 2012 年).

三浦　徹

① "Islamic Regal Institutions of Contracts and Courts: A Comparative Perspective", Debin Ma and Jan Luiten van Zanden eds., *Law and Long-Term Economic Change: A Eurasian Perspective*, Stanford: Stanford University Press, 2011.
① "Professor Sato Tsugitaka and His Achievements", *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, No. 69, pp. 157-173, Tokyo: the Toyo Bunko, 2011.
① "The State of Training and Research in Middle Eastern Studies in Japan", *Asian Research Trends New Series*, No. 6, pp. 85-110, Tokyo: the Toyo Bunko, 2011.
①「追悼　佐藤次高先生」(『史学雑誌』, 120 編 6 号, 108 ～ 110 頁, 山川出版社, 平成 23 (2011) 年 6 月).
①書評「鈴木秀光・高谷知佳・林真貴子・屋敷二郎編著『法の流通：法制史学 60 周年記念若手論集』」(『史学雑誌』, 120 編 10 号, 85 ～ 93 頁, 山川出版社, 平成 23 (2011) 年 10 月).

水野　善文

① "The Atmosphere of Bhakti in Literature: A Buddhist Stotra, a Katha and a Folk Tale", Iwao Shima, Teiji Sakata and Katsuyuki Ida eds., *The Historical Development of the Bhakti Movement in India*, pp. 159-182, New Delhi: Manohar Publishers & Distributers, 2011.
①"The Prosody of Keśav Dās", Hiroko Nagasaki ed., *Indian and Persian Prosody and Recitation*, pp. 131-151, Delhi: Saujanya Publications, 2012.
③「語り部としてのジャイナ教徒：獅子座三十二話を中心に」(科研基盤

研究（A）「多言語重層構造をなすインド文学史の先端的分析法と新記述」第6回研究会，於：東京外国語大学本郷サテライト，2011年11月5日）.

三田　昌彦

②『新詳世界史B』（〈川北稔　ほか〉，帝国書院，2012年，320頁）.

③「「イスラーム」はいかにインドを統治したか：中世ムスリム国家と寺院破壊」（名古屋歴史科学研究会12月例会，於：名古屋大学，2011年12月23日）.

③「インド中世の城砦と城郭都市」（インド文化の会，於：名古屋市東生涯学習センター，2011年5月31日）.

③「ラージャスターン中近世の王都と城郭」（日本南アジア学会第24回全国大会，於：大阪大学，2011年10月2日，［『日本南アジア学会第24回全国大会報告要旨集』，100～102頁，日本南アジア学会全国大会実行委員会，2011年9月］）.

③「移行期の東アジア認識：コメント」（歴史科学協議会第45回大会，於：立教大学，2011年11月26日，［『歴史評論』，746，35～39頁，歴史科学協議会，2012年6月］）.

宮脇　淳子

①「デニス・サイナー教授の逝去を悼む」（『東方學』，122，137～141頁，2011年7月）.

①「侵略と虐殺と弾圧と―血塗られた党史　中国共産党　野望と謀略の90年」（『別冊正論』，15，28～43頁，産経新聞社，2011年6月）.

①「清朝と辛亥革命、中華人民共和国と辛亥革命」（〈楊海英，馬場公彦，村田雄二郎〉『王朝から「国民国家」へ　清朝崩壊100年（アジア遊学）』，148，17～32頁，131～147頁，勉誠出版，2011年12月，［座談会］）.

①「清朝崩壊から満洲帝国の成立へ」（『王朝から「国民国家」へ　清朝崩壊100年（アジア遊学）』，148，69～88頁，勉誠出版，2011年12月）.

②『真実の中国史［1840-1949］』（李白社発行，ビジネス社発売，2011年，337頁，［岡田英弘監修］）.

村井　章介

①「Lequiosのなかの Iapam―境界の琉球、中心の琉球」（竹田和夫編『古代・中世の境界意識と文化交流』，97～114頁，勉誠出版，2011年）.

①「見直される境界空間」(『此君・根津美術館紀要』, 3号, 65～111頁, (財) 根津美術館, 2011年11月).
①「雪舟等楊と笑雲瑞訢—水墨画と入明記にみる明代中国」(『東京大学東洋文化研究所紀要』, 第160冊, 1～37頁, 東京大学東洋文化研究所, 2011年12月).
①「十年遊子は天涯に在り—明初雲南謫居日本僧の詩交」(『アジア遊学』, 142号, 183～196頁, 勉誠出版, 2011年5月).
②『琉球からみた世界史』(〈三谷博〉, 山川出版社, 2011年, 161頁).

村上　衛
①「岡本隆司『中国「反日」の源流』」(『中国研究月報』, 65巻12号, 39～42頁, 2011年12月).
①「零丁洋と広州のあいだ—1830年代カントンアヘン貿易の利権」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界(東洋文庫論叢第75)』, 73～85頁, (財) 東洋文庫, 2011年).
③ "Restoration of the governance in Southern China during the mid-19th Century: The Coolie Trade and Emigration to Southeast Asia", in Scholarly Perspectives on China: The View from Japan, 於：京都大学人文科学研究所, 2011年11月13日.
③ "The Suppression of Pirates in the South China Sea by the Naval Forces of China, Macao, and Britain", 〈豊岡康史〉, in Globalizing Violence, Emerging Modernity: Piracy and Anti-Piracy Campaigns in Eurasia, c. 1600-1900, 於：学習院女子大学, 2011年12月11日.
③「辛亥革命時期在廈門的北婆羅洲移民事業」(四川辛亥革命暨尹昌衡国際学術研討会, 於：潤邦国際飯店(中国・成都), 2011年10月18日).

村田　雄二郎
①「韓国併合と辛亥革命—張謇をてがかりに」(〈国立歴史民俗学博物館〉, 『「韓国併合」100年を問う　2010年国際シンポジウム』, 第1巻43～53頁, 岩波書店, 2011年).
②『インタビュー　戦後日本の中国研究』(〈平野健一郎, 土田哲夫, 石之瑜〉, 平凡社, 2011年, 389頁).
②『リベラリズムの中国』(有志舎, 2011年, 350頁).
②『清末中国と日本—宮廷・変法・革命』(〈孔祥吉〉, 研文出版, 2011年,

362 頁).
③「辛亥革命の空間構造—中華の再編と近代」(東アジア文化交渉学会第3回年次大会，於：武漢，華中師範大学近代中国研究センター，2011 年 5 月 8 日，["The Regional Structure of the 1911 Revolution: The North and the South in Chinese History", *Journal of Cultural Interaction in East Asia*, vol. 3, pp. 7-18, Society for Cultural Interaction in East Asia, Mar. 2012]).

毛里　和子
①「現代中国は手に余るものになった」(平野健一郎・土田哲夫・村田雄二郎・石之瑜編『インタビュー戦後日本の中国研究』, 273 ～ 323 頁, 平凡社, 2011 年，[インタビュー]).
①「世紀の実験—"中国モデル"をどう考えるか」(『ワセダアジアレヴュー』, 第 10 巻，10 ～ 16 頁，早稲田大学アジア研究機構（OAS），2011 年).
①「データから解析する中国共産党の現段階」(菱田雅晴編『中国共産党のサバイバル戦略』，41 ～ 59 頁，三和書籍，2012 年).
①「アジアにおける冷戦構造の変容と地域紛争—米中和解からソ連のアフガン侵攻へ」(和田春樹ほか編『経済発展と民主革命：1975-1990 年（岩波講座東アジア近現代通史)』，第 9 巻，95 ～ 120 頁，岩波書店，2011 年).
③「東アジアの新地域主義」(浙江大学公共管理学院シンポジウム「東北アジアの新関係—歴史を超えて」，於：浙江大学，2011 年 12 月 3 日).

本野　英一
①「「知的所有権」をめぐる在華外国企業と中国企業間の紛争：外国側より見た中国商標法（一九二三年）の意義」(貴志俊彦編『近代アジアの自画像と他者—地域社会と「外国人」問題』，229 ～ 256 頁，京都大学学術出版会，2011 年).
①「在華外国人側より見た『大閘会審公廨案（1905)』に関する一考察」(斯波義信編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第 75)』，109 ～ 145 頁，(財）東洋文庫，2011 年).
① "Anglo-Japanese Trademark Conflict in China and the Birth of the Chinese Trademark Law (1923), 1906-1926", *East Asian History*, 37, pp. 9-26, オーストラリア国立大学・ライデン大学，Dec. 2011，[電子ジャーナル http://www.eastasianhistory.org/：オーストラリア国立大学・ライデン大学共同刊行].
③「一九二〇年代中国における在華外国企業知的財産権保護態勢の確立—

在華日英企業商標を中心に」(2011 年度東洋史研究会大会報告，於：京都大学，2011 年 11 月 3 日).

籾山　明

①「金印と冊封体制―漢代史研究の視点から」(設楽博己・藤尾慎一郎・松木武彦編『多様化する弥生文化(弥生時代の考古学)』, 3 巻, 238 ～ 252 頁, 同成社，2011 年).

①書評「渡邉英幸著『古代〈中華〉観念の形成』」(『史林』，94 巻 5 号, 103 ～ 109 頁，史学研究会，2011 年 9 月).

②『文献と遺物の境界―中国出土簡牘史料の生態的研究』(〈佐藤信〉, 六一書房，2011 年，283 頁).

③「日本居延漢簡研究的回顧与展望：以古文書学的研究為中心」(甘粛省第二届簡牘学国際学術研討会，於:中国甘粛省蘭州市，2011 年 8 月 26 日).

守川　知子

①「シーア派イスラームの聖地巡礼」(『歴史と地理　世界史の研究』，649 号（世界史の研究 229 号)，50 ～ 53 頁，山川出版社，2011 年 11 月).

①翻訳「ムハンマド・ブン・マフムード・トゥースィー著『被造物の驚異と万物の珍奇（5)』」(『イスラーム世界研究』，5 巻 1-2 号，365 ～ 494 頁, 2012 年 2 月).

①「ペルシア・イラン世界における翻訳文化―インド・ギリシア、アラブ、そして西洋諸語から」(近藤信彰編『ペルシア語文化圏史研究の最前線』, 151 ～ 170 頁, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2011 年).

森安　孝夫

① “Epistolary Formulae of the Old Uighur Letters from the Eastern Silk Road; Part 2”（『大阪大学大学院文学研究科紀要』，52，1 ～ 98 頁，大阪大学大学院文学研究科，2012 年 3 月).

①「シルクロード東部出土古ウイグル手紙文書の書式（後編)」(森安孝夫編『ソグドからウイグルへ』，335 ～ 425 頁，汲古書院，2011 年).

①「内陸アジア史研究の新潮流と世界史教育現場への提言」(『内陸アジア史研究』，26，3 ～ 34 頁，内陸アジア史学会，2011 年 6 月).

①「日本におけるシルクロード上のソグド人研究の回顧と近年の動向（増補版)」(森安孝夫編『ソグドからウイグルへ』, 3 ～ 46 頁, 汲古書院, 2011 年).

②『ソグドからウイグルへ』（汲古書院，2011 年，650 頁）.

矢島　洋一

①“The Spread of the Kubrawīya”, Bakhtiyar Babadjanov & Kawahara Yayoi eds., *History and Culture of Central Asia*, pp. 229-240, TIAS: Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, The University of Tokyo, 2012.

①「非アラビア文字表記新ペルシア語」（近藤信彰編『ペルシア語文化圏史研究の最前線』，13 ～ 30 頁，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所，2011 年）.

③「18 世紀ハザラスプ文書」（第 10 回中央アジア古文書研究セミナー，於：京都外国語大学，2012 年 3 月 24 日）.

③「ロシア統治期サマルカンドの上訴審」（第 10 回中央アジアの法制度研究会，於：静岡大学，2011 年 12 月 4 日）.

柳澤　　明

①「清代東北駐防八旗与漢人—以黒龍江地区為中心」（中国社会科学院近代史研究所政治史研究室編『清代満漢関係研究』，289 ～ 302 頁，社会科学文献出版社，2011 年）.

①「清朝の八旗制とモンゴル」（吉田順一監修・早稲田大学モンゴル研究所編『モンゴル史研究：現状と展望』，276 ～ 293 頁，明石書店，2011 年）.

③「オイラド系諸集団のフルンボイル・満洲（中国東北）への移住について」（国際シンポジウム「オイラド・モンゴル研究の新展開」，於：国立民族学博物館，2011 年 11 月 6 日）.

柳田　征司

②『日本語の歴史 2　意志・無意志』（武蔵野書院，2011 年，292 頁）.

柳谷　あゆみ

①「ちまちま系をつないで：アラビア文字資料の整理支援について」（『IAAL ニュースレター』，9，2 ～ 3 頁，NPO 法人大学図書館支援機構，2011 年 10 月）.

③「ザンギー朝ヌール・アッディーンへのヒドゥマ：軍役・移動の記録を中心に」（日本オリエント学会第 53 回大会，於：ノートルダム清心女子大

学，2011年11月20日）.

矢吹　晋

①「周恩来『19歳の東京日記からはじまる歴史のif』」（『東京人』，26巻11号，54～59頁，都市出版，2011年11月）.

②「中国は大発展・変貌した―これから何処へ行く」（〈21世紀中国総研〉，『中国情報ハンドブック2011年版』，20～65頁，蒼蒼社，2011年，［21世紀総研ディレクターとして監修、巻頭論文執筆］）.

①「朝河貫一とG.E.モリソン―『日露衝突』から『日本之禍機』まで」（斯波義信編『モリソンパンフレットの世界（東洋文庫論叢第75）』，47～72頁，（財）東洋文庫，2011年）.

②『一目でわかる上海経済圏市場発展図』（〈スティーブン・M・ハーナー+21世紀中国総研〉，19～69頁（訳），70～73頁（訳），125～128頁（訳），269～270頁（執筆），蒼蒼社，2011年，［21世紀中国総研ディレクターとして監修、翻訳］）.

②『劉暁波と中国民主化のゆくえ』（〈加藤哲郎，及川淳子〉，7～8頁（執筆），9～18頁（訳），21～193頁（対談），197～230頁（訳），282～292頁（訳），307～323頁（訳），花伝社，2011年，355頁）.

山村　義照

③「シーボルト研究の新しいネットワークの組織化」（『日独シーボルト・シンポジウム2011　シーボルトの知的遺産と日独ソリダリティー　第1部　シーボルトをめぐる人々―東と西』，於：社団法人オーアーゲー・ドイツ東洋文化研究協会，2011年10月18日，［ラウンド・テーブル・ディスカッション：パネラー．http://www.oag.jp/jp/veranstaltungen/vortraege-und-gespraechsabende/2879/event-siebold-seminar-deutsch-japanisches-siebold-symposium-2011/，http://www.oag.jp/images/uploads/ プログラム（入稿分）01-08page-2.pdf，に紹介あり］）.

山本　英史

①「中国地方文献の交際術―地方志・判牘・筆記」（大澤浩顕編『東アジア書誌学への招待』，2巻，173～193頁，東方書店，2011年）.

①「伝統中国の官僚道徳規範とその変容」（山本正身編『アジアにおける「知の伝達」の伝統と系譜』，75～105頁，慶應義塾大学言語文化研究所，

2012年).
②『近代中国の地域像』(山川出版社, 2011年, 464頁,).
③「江南基層社会とその地域性—近代蘇松地方における郷村役の比較を通して」(東洋文庫春期東洋学講座, 於:(財) 東洋文庫, 2011年5月23日, [『東洋学報』, 93巻2号, 99～101頁, (財) 東洋文庫, 2011年9月]).

湯浅　剛
①「アナーキーとハイアラーキーのあいだ:グローバル化の中の『階層的秩序』をめぐる概念整理と分析の可能性」(『コスモポリス』, 6, 11～22頁, 上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科, 2012年3月).
①「カザフスタン共和国」(松本弘編『中東・イスラーム諸国　民主化ハンドブック』, 410～423頁, 明石書店, 2011年).
②翻訳『ドミートリー・トレーニン『ロシア新戦略:ユーラシアの大戦略を読み解く』』(作品社, 2012年, 446頁).
③"Миграция и безопасность в Центральной Азии (中央アジアにおける移民と安全保障)" (ロシア科学アカデミー社会・政治研究所, タジキスタン国立法科・実業・政治大学共催国際シンポジウム「中央アジアとロシアの移民の架け橋」, 於:タジキスタン共和国フジャンド市, 2011年11月28日).
③"Stability of Central Asia: An Emerging Issue for Japan-US Cooperation?"(北米アジア学会 (Association for Asian Studies) 2012年年次大会日本セッション19, 於:カナダ、トロント市, 2012年3月15日).

吉澤　誠一郎
①「19～20世紀における中国経済の動態」(『歴史学研究』, 878号, 14～17頁, 歴史学研究会, 2011年4月).
①「近代中国における進化論受容の多様性」(『メトロポリタン史学』, 7号, 67～91頁, メトロポリタン史学会, 2011年12月).

吉田　豊
①"Découvertes récentes en Chine et au Japon: Peinture manichéennes et documents sogdiens (VIIIe – XIIIe s.)", *Annuaire résumé des conférences et travaux*, 142e année, pp. 57-59, École Pratique des Hautes Étsudes, Section des sciences historiques et philologiques, 2009-2010 (2011).

①「附論　西安出土北周「史君墓誌」ソグド語部分訳注」（森安孝夫（編）『ソグドからウイグルへ』，93～111頁，汲古書店，2011年）.
①「仏教ソグド語断片研究（II）」（『西南アジア研究』，no. 75，1～10頁，西南アジア研究会，2011年9月）.
①"Pavel B. Lurje, Personal names in Sogdian texts, (R. Schmitt, H. Eichner, B. G. Fragner and V. Sadovski (eds.), Iranisches Personennamenbuch, Band II, Faszikel 8), 527 pp. Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2010", *Bulletin of the Asia Institute*, 21, pp. 201-206, Bulletin of the Asia Institute, 2007 (March, 2012).
①"Some new readings in the Sogdian version of Karabalgasun Inscription", M. Ölmez et al. eds., *From Ötüken to Istanbul. 1290 years of Turkish (720-2010)*, pp. 77-86, Istanbul, 2011.

吉水　千鶴子
①"Western Explorations into Eastern Spiritual Worlds: Kapstein, Matthew T., Reason's Traces.; Kellner, Birgit and Weigelin-Schwiedrzik, Susanne (eds.), Denkt Asien anders? Reflexionen zu Buddhismus und Konfuzianismus in Indien, Tibet, China und Japan", *Indo-Iranian Journal*, 54-2, pp. 149-173, Brill, 2011.
①"What makes all that is produced impermanent?: The proof of impermanence and the theory of causality", *Religion and Logic in Buddhist Philosophical Analysis*; Proceedings of the Fourth International Dharmakīrti Conference, Vienna, August 23-27, 2005, pp. 491-506, Austrian Academy of Sciences, 2011.
③"Can a Mādhyamika attend a debate and win?: Candrakīrti on Dignāga's logic", in Seminar at the Department of South Asian Studies, Harvard University, MA, USA, Harvard University, MA, USA, 20 Mar. 2012.
③"Non-implicative negation (prasajyapratiṣedha, med dgag) in Buddhist logic and early Tibetan Madhyamaka (dbu ma)", in the 16th Conference of the International Association of Buddhist Studies，於：台湾，法鼓学院，2011年6月21日.

吉村　慎太郎
②『イラン現代史—従属と抵抗の100年』（有志舎，2011年，233頁）.
③"A Review of""June Crisis""in Iran: From the Context of Thirty Years

after the 1979 Revolution", in New Waves in the Middle East, International Conference 2011, Seoul, hosteed by Institute of Middle East Studies, HUFS, National Research Foundation of Korea.

六反田　豊

①「朝鮮時代の「武」と武臣」(韓国朝鮮文化研究会編『韓国朝鮮の文化と社会』, 10, 23 ～ 60 頁, 韓国, 朝鮮文化研究会, 2011 年).

①「朝鮮時代の君臣関係と王権」(『アジア遊学』, 151, 65 ～ 79 頁, 勉誠出版, 2012 年 3 月).

②『日本と朝鮮比較・交流史入門：近世、近代そして現代』(〈原尻英樹・外村大〉, 明石書店, 2011 年, 356 頁).

③「大同法の歴史的意義とその運用実態」(東方学会第 61 回全国会員総会シンポジウム「朝鮮朝後期の社会と思想」, 於：日本教育会館, 2011 年 11 月 4 日).

渡辺　紘良

②『中国社会経済史用語解』(〈(財) 東洋文庫前近代中国研究班・社会経済史用語解の作成グループ総括研究員　斯波義信〉, (財) 東洋文庫, 2012 年, 556 頁).

Ⅳ　業務報告

1. 総務報告

A. 会議事項

(1) 理事会

第 343 回　開催日　2011 年 6 月 2 日（木）
　　出席者　槇原　稔、山川尚義、大﨑　仁、草原克豪、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、濱下武志、福澤　武、三木繁光、東條和彦、西村敏行

第 344 回　開催日　2011 年 6 月 2 日（木）
　　出席者　槇原　稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、濱下武志、平野健一郎、福澤　武、三木繁光、西村敏行

第 345 回　開催日　2012 年 2 月 7 日（火）
　　出席者　槇原　稔、山川尚義、斯波義信、田仲一成、鶴見尚弘、中根千枝、濱下武志、平野健一郎、福澤　武、三木繁光、西村敏行、原　　實

(2) 評議員会

第 165 回　開催日　2011 年 6 月 2 日（木）
　　出席者　荒蒔康一郎、久保正彰、後藤　明、平野健一郎、長尾　真、瀬谷博道、増田信行
　　委任状　有馬朗人、梅村　坦、岸本美緒、白井克彦、清家　篤、西田龍雄、濱田純一、松本　紘、間野英二、Wang Gungwu

第166回　開催日　2012年2月7日（火）
出席者　梅村　坦、大﨑　仁、草原克豪、久保正彰、後藤　明、瀬谷博道、東條和彦、長尾　真、増田信行
委任状　荒蒔康一郎、有馬朗人、岸本美緒、間野英二

(3) 東洋学連絡委員会

前　　期　開催日　2011年5月19日（火）
出席者　尾崎　康、興膳　宏、御牧克己、吉田順一、斯波義信、中根千枝、森本公誠
議　題　1. 2010年度財団法人東洋文庫事業報告について
2. 文部科学省「平成23年度科学研究費補助金（特定奨励費）の審査結果の所見について
3. その他

後　　期　開催日　2012年1月27日（金）
出席者　梅原　郁、尾崎　康、斯波義信、中根千枝、間野英二、御牧克己、吉田順一
議　題　1. 2011年度財団法人東洋文庫事業中間報告書について
2. 2012年度財団法人東洋文庫事業計画書（案）について
3. その他

B．総務・広報事項

・常設展と企画展の組み合わせからなる展示スケジュールを立て、開催した。
・文庫長・学芸員による館内ガイドツアーを実施した。
・学校連携活動の一環として、ミュージアムフリーパスの制度を導入した。
・所蔵図書・史料の掲載・報道・放映などの依頼に適宜対応すると共に、ホームページを随時更新した。
・「三菱デジタルライブラリー」（三菱広報委員会）への収蔵品映像展示、「マンスリーみつびし」への収蔵品掲載、文京区関係広報誌等への掲載協力等を行い、広報普及活動を図った。

C．設備・営繕事項

温度・湿度管理、窒素ガス消火設備運用により、展示図書・資料の保全に

万全を期した。

また、併設のギフトショップ、ミュージアム・カフェでは、東洋文庫の所蔵資料も紹介し、一般利用者に対してミュージアムの魅力を高め、東洋学普及の一翼を担う、ミュージアムの一体施設として運営した。

2. 人事報告

A. 役員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2011.6.2	理事	平野 健一郎	就任	
〃	評議員	大崎 仁	就任	
〃	〃	草原 克豪	〃	
〃	〃	東條 和彦	〃	
〃	監事	原 實	就任	
〃	評議員	清家 篤	退任	
〃	〃	濱田 純一	〃	
〃	〃	松本 紘	〃	
〃	〃	白井 克彦	〃	
〃	〃	西田 龍雄	〃	
〃	〃	Wang Gungwu	〃	
2011.4.11	理事	佐藤 次高	逝去	

B. 職員・研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2011.7.1	研究部長	濱下 武志	就任	
2012.2.13	普及展示部長	平野 健一郎	〃	
2012.4.1	研究員	小田 壽典	委嘱	
〃	〃	片桐 一男	〃	
〃	〃	立川 武蔵	〃	
〃	〃	山本 毅雄	〃	
2011.11.1	〃	藤井 昇三	委嘱	

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2011.6.30	研修員	中村邦子	退任	
2012.3.31	研究員	大澤肇	退任	
〃	〃	花田宇秋	〃	
〃	〃	吉田寅	〃	
2012.3.31	研究員（兼任）	飯島武次	退任	
〃	〃	小名康之	〃	
〃	〃	川崎信定	〃	
〃	〃	窪添慶文	〃	
〃	〃	後藤明	〃	
〃	〃	CAダニエルス	〃	
〃	〃	古屋昭弘	〃	
〃	研修員	新谷芙美子	〃	

C．客員研究員異動

年月日	役職名	氏名	区分	備考
2011.4.1	研究員（客員）	柳谷あゆみ	委嘱	
〃	〃	近藤信彰	〃	
2011.6.1	〃	飯島明子	委嘱	
〃	〃	中谷英明		
〃	〃	新村容子		
〃	〃	星泉		
〃	〃	宮脇淳子		
2011.11.1	〃	城山智子	〃	
〃	〃	村上衛	〃	
〃	〃	矢島洋一	〃	
2011.11.26	〃	重近啓樹	逝去	
2012.3.31	〃	青木敦	退任	
〃	〃	梅原郁	〃	
〃	〃	清水宏祐	〃	
〃	〃	清水信行	〃	
〃	〃	水野善文	〃	
〃	〃	服部龍二	〃	
〃	〃	曽田三郎	〃	

3. 会計報告

A. 一般会計

一 般 会 計 貸 借 対 照 表

2012年3月31日現在　　(単位:円)

科　　目	当年度	前年度	増減
I　資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	890,365	5,382,385	△ 4,492,020
未収収益	5,864,003	6,168,486	△ 304,483
未収金	393,960	252,000	141,960
立替金	231,754	0	231,754
商　　品	10,072,529	4,556,658	5,515,871
前払費用	4,002,405	956,145	3,046,260
流動資産合計	21,455,016	17,315,674	4,139,342
2. 固定資産			
(1)基本財産			
図書資料	1,041,708,012	1,041,708,012	0
土地	110,494	110,494	0
保証金	0	50,000	△ 50,000
投資有価証券	2,842,501,375	2,842,500,000	1,375
預金	163,122	115,322	47,800
基本財産合計	3,884,483,003	3,884,483,828	△ 825
(2)特定資産			
建物	2,669,193,702	0	2,669,193,702
構築物	170,959,642	0	170,959,642
什器備品	385,582,230	0	385,582,230
図書資料	238,265,823	0	238,265,823
ソフトウェア	9,837,305	0	9,837,305
退職給付引当資産	52,089,296	45,689,256	6,400,040
建物設備修繕引当資産	161,558,973	109,580,601	51,978,372
展示開設準備引当資産	0	26,607,858	△ 26,607,858
ＰＣＢ引当資産	24,605,000	0	24,605,000
特定資産合計	3,712,091,971	181,877,715	3,530,214,256
(3)その他固定資産			
什器備品	5,478,156	9,159,372	△ 3,681,216
図書資料	0	204,874,067	△ 204,874,067
ソフトウェア	5,272,418	6,072,411	△ 799,993
電話加入権	364,000	364,000	0
長期前払費用	2,195,506	899,962	1,295,544
運営調整積立資産	69,669,703	83,628,604	△ 13,958,901
その他固定資産合計	82,979,783	304,998,416	△ 222,018,633
固定資産合計	7,679,554,757	4,371,359,959	3,308,194,798
資産合計	7,701,009,773	4,388,675,633	3,312,334,140

Ⅱ　負債の部			
1.　流動負債			
未払金	3,829,602	3,019,260	810,342
預り金	2,416,398	1,110,972	1,305,426
賞与引当金	7,390,861	6,949,184	441,677
資産除去債務	0	80,026,000	△ 80,026,000
流動負債合計	13,636,861	91,105,416	△ 77,468,555
2.固定負債			
退職給付引当金	52,089,296	45,689,256	6,400,040
ＰＣＢ引当金	24,605,000	24,605,000	0
固定負債合計	76,694,296	70,294,256	6,400,040
負債合計	90,331,157	161,399,672	△ 71,068,515
Ⅲ　正味財産の部			
1.　指定正味財産			
寄付金	3,493,027,513	202,110,494	3,290,917,019
補助金	186,679,204	0	186,679,204
分担金	31,518,974	0	31,518,974
固定資産受贈額	25,286,418	0	25,286,418
指定正味財産合計	3,736,512,109	202,110,494	3,534,401,615
（うち基本財産への充当額）	(202,110,494)	(202,110,494)	(0)
（うち特定資産への充当額）	(3,504,049,904)	(0)	(3,504,049,904)
2.一般正味財産	3,874,166,507	4,025,165,467	△ 150,998,960
（うち基本財産への充当額）	(3,682,372,509)	(3,682,373,334)	(△825)
（うち特定資産への充当額）	(131,347,771)	(136,188,459)	(△4,840,688)
正味財産合計	7,610,678,616	4,227,275,961	3,383,402,655
負債及び正味財産合計	7,701,009,773	4,388,675,633	3,312,334,140

一 般 会 計 正 味 財 産 増 減 計 算 書

2011年4月1日から2012年3月31日まで　　(単位:円)

科　　目	当年度	前年度	増減
Ⅰ　一般正味財産増減の部			
1.　経常増減の部			
（1）経常収益			
基本財産運用益	88,000,787	88,251,432	△ 250,645
特定資産運用益	102,548	190,710	△ 88,162
受取寄付金	61,703,000	75,920,000	△ 14,217,000
維持会費収入	60,150,000	74,310,000	△ 14,160,000
寄付金収入	1,553,000	1,610,000	△ 57,000
受取会費	634,000	297,000	337,000
受取分担金	14,096,274	16,000,000	△ 1,903,726
受託金	8,920,000	10,500,000	△ 1,580,000
事業収益	18,428,112	8,265,292	10,162,820
受取補助金等	77,052,481	110,000,000	△ 32,947,519
雑収益	11,412,439	3,932,580	7,479,859
経常収益計	280,349,641	313,357,014	△ 33,007,373
（2）経常費用			
事業費	275,503,303	260,148,309	15,354,994
調査研究費	27,278,644	25,346,339	1,932,305
資料収集・整理費	14,272,206	14,176,432	95,774
研究資料出版費	15,955,042	27,738,117	△ 11,783,075
普及活動費	19,494,880	18,687,765	807,115
学術情報提供費	26,660,150	9,735,111	16,925,039
地域研究ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ費	14,097,920	13,622,639	475,281
受託研究費	8,116,021	8,080,605	35,416
人件費	106,687,912	102,699,253	3,988,659
役員報酬	6,432,000	6,432,000	0
給料手当	77,821,449	73,435,641	4,385,808
賞与引当金繰入	5,984,965	5,543,288	441,677
退職給付費用	4,758,276	5,978,306	△ 1,220,030
福利厚生費	11,691,222	11,310,018	381,204
事務費	42,940,528	40,062,048	2,878,480
設備保守修繕費	2,335,076	3,214,846	△ 879,770
水道光熱費	16,629,979	8,327,461	8,302,518
賃借料	209,076	367,708	△ 158,632
業務委託費	8,026,571	2,064,714	5,961,857
減価償却費	6,067,549	18,168,697	△ 12,101,148
諸雑費	9,672,277	7,918,622	1,753,655
管理費	25,097,016	28,218,925	△ 3,121,909
人件費	20,874,436	21,029,416	△ 154,980
役員報酬	4,288,000	4,288,000	0
給料手当	11,089,388	10,910,900	178,488
賞与引当金繰入	1,405,896	1,405,896	0
退職給付費用	1,641,764	1,907,480	△ 265,716
福利厚生費	2,449,388	2,517,140	△ 67,752
事務費	4,222,580	7,189,509	△ 2,966,929
設備保守修繕費	23,587	54,943	△ 31,356
水道光熱費	167,980	122,268	45,712
謝金	2,905,380	2,123,900	781,480
減価償却費	367,032	4,062,236	△ 3,695,204
諸雑費	758,601	826,162	△ 67,561
経常費用計	300,600,319	288,367,234	12,233,085
当期経常増減額	△ 20,250,678	24,989,780	△ 45,240,458

２．経常外増減の部			
（１）経常外収益			
過年度受取寄付金	74,385,740	0	74,385,740
固定資産受贈益	0	211,632	△ 211,632
経常外収益計	74,385,740	211,632	74,174,108
（２）経常外費用			
固定資産除却損	189,955	268,491,667	△ 268,301,712
ＰＣＢ引当金繰入額	0	24,605,000	△ 24,605,000
資産除去債務会計基準適用に伴う影響額	0	78,425,480	△ 78,425,480
指定正味財産への振替額	204,874,067	0	204,874,067
経常外費用計	205,064,022	371,522,147	△ 166,458,125
当期経常外増減額	△ 130,678,282	△ 371,310,515	240,632,233
税引前当期一般正味財産増減額	△ 150,928,960	△ 346,320,735	195,391,775
法人税、住民税及び事業税	70,000	70,000	0
当期一般正味財産増減額	△ 150,998,960	△ 346,390,735	195,391,775
一般正味財産期首残高	4,025,165,467	4,371,556,202	△ 346,390,735
一般正味財産期末残高	3,874,166,507	4,025,165,467	△ 150,998,960
Ⅱ　指定正味財産増減の部			
受取補助金等	110,000,000	0	110,000,000
受取分担金	17,570,000	0	17,570,000
受託金	8,920,000	0	8,920,000
固定資産受贈額	2,189,284	0	2,189,284
特別会計からの繰入額	3,365,302,759	0	3,365,302,759
一般正味財産からの振替額	204,874,067	0	204,874,067
一般正味財産への振替額	△ 174,454,495	0	△ 174,454,495
当期指定正味財産増減額	3,534,401,615	0	3,534,401,615
指定正味財産期首残高	202,110,494	202,110,494	0
指定正味財産期末残高	3,736,512,109	202,110,494	3,534,401,615
Ⅲ　正味財産期末残高	7,610,678,616	4,227,275,961	3,383,402,655

一般会計財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的有価証券

償却原価法（定額法）を採用しております。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法を採用しております。

(3) 固定資産の減価償却方法

① 有形固定資産

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物　30～50年

構築物　15～20年

什器備品　3～15年

② 無形固定資産

定額法を採用しております。

なお、耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア　5年

(4) 引当金の計上基準

① 賞与引当金

役員及び職員の賞与金の支払いに備えて、賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

② 退職給付引当金

役員及び職員の退職給付に備えるため、当事業年度における退職給付債務に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

うち、役員退職給付引当金14,740,000円が含まれています。

③ PCB引当金

PCB（ポリ塩化ビフェニル）の処分等にかかる支出に備えるため、今後発生すると見込まれる額を計上しております。

(5) 消費税等の会計処理

税込方式を採用しております。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	－	－	1,041,708,012
土地	110,494	－	－	110,494
保証金	50,000	－	50,000	0
有価証券	2,842,500,000	2,502,200	2,500,825	2,842,501,375
預金	115,322	2,550,036	2,502,236	163,122
小計	3,884,483,828	5,052,236	5,053,061	3,884,483,003
特定資産				
建物	－	2,669,193,702	－	2,669,193,702
構築物	－	170,959,642	－	170,959,642
什器備品	－	385,582,230	－	385,582,230
図書資料	－	238,265,823	－	238,265,823
ソフトウエア	－	9,837,305	－	9,837,305
退職給付引当資産	45,689,256	6,400,040	－	52,089,296
建物設備修繕引当資産	109,580,601	51,978,372	－	161,558,973
展示開設準備引当資産	26,607,858	5,081	26,612,939	0
ＰＣＢ引当資産	－	24,605,000	－	24,605,000
小　計	181,877,715	3,556,827,195	26,612,939	3,712,091,971
合　計	4,066,361,543	3,561,879,431	31,666,000	7,596,574,974

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	当期末残高	（うち指定正味財産からの充当額）	（うち一般正味財産からの充当額）	（うち負債に対応する額）
基本財産				
図書資料	1,041,708,012	－	(1,041,708,012)	－
土地	110,494	(110,494)	－	－
有価証券	2,842,501,375	(202,000,000)	(2,640,501,375)	－
預金	163,122	－	(163,122)	－
小　計	3,884,483,003	(202,110,494)	(3,682,372,509)	－
特定資産				
建物	2,669,193,702	(2,669,193,702)	－	－
構築物	170,959,642	(170,959,642)	－	－
什器備品	385,582,230	(385,582,230)	－	－
図書資料	238,265,823	(238,265,823)	－	－
ソフトウエア	9,837,305	(9,837,305)	－	－
退職給付引当資産	52,089,296	－	－	(52,089,296)
建物設備修繕引当資産	161,558,973	(30,211,202)	(131,347,771)	－
ＰＣＢ引当資産	24,605,000	－	－	(24,605,000)
小　計	3,712,091,971	(3,504,049,904)	(131,347,771)	(76,694,296)
合　　計	7,596,574,974	(3,706,160,398)	(3,813,720,280)	(76,694,296)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
特定資産			
建物	2,793,532,666	△ 124,338,964	2,669,193,702
構築物	179,828,553	△ 8,868,911	170,959,642
什器備品	417,471,493	△ 31,889,263	385,582,230
ソフトウエア	10,749,742	△ 912,437	9,837,305
小　計	3,401,582,454	△ 166,009,575	3,235,572,879
その他固定資産			
什器備品	41,748,951	△ 36,270,795	5,478,156
ソフトウェア	12,352,010	△ 7,079,592	5,272,418
小　計	54,100,961	△ 43,350,387	10,750,574
合　　計	3,455,683,415	△ 209,359,962	3,246,323,453

5. 満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の内訳ならびに帳簿価額、時価及び評価損益は次のとおりです。

（単位：円）

科　　目	帳簿価額	時　価	評価損益
国債	2,501,375	2,503,033	1,658
三菱ＵＦＪｾｷｭﾘﾃｨｰｽﾞｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	300,000,000	305,088,000	5,088,000
三菱ＵＦＪｾｷｭﾘﾃｨｰｽﾞｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	1,000,000,000	1,043,130,000	43,130,000
三菱ｾｷｭﾘﾃｨｰｽﾞｲﾝﾀｰｸﾚｼﾞｯﾄﾘﾝｸ債	500,000,000	470,680,000	△ 29,320,000
三菱ＵＦＪ証券ｸﾚｯｼﾞｯﾄﾘﾝｸ債	500,000,000	462,180,000	△ 37,820,000
三菱ＵＦＪｾｷｭﾘﾃｨｰｽﾞｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	500,000,000	500,120,000	120,000
共同発行市場公募地方債	40,000,000	41,362,000	1,362,000
合　　計	2,842,501,375	2,825,063,033	△ 17,438,342

6. 補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は次のとおりです。

（単位：円）

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
一般会計 補助金 科学研究費補助金 （特定奨励費）	文部科学省	0	110,000,000	77,052,481	32,947,519	指定正味財産 （注）
合　　計		0	110,000,000	77,052,481	32,947,519	－

（注）当期末残高は、特定資産に計上されている図書及び固定資産に対応する指定正味財産相当額です。

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりです。

（単位：円）

内　　容	金　額
経常収益への振替額	
目的達成による指定解除額	100,009,461
減価償却費計上による指定解除額	59,294
経常外収益への振替額	
目的達成による指定解除額	74,385,740
合　計	174,454,495

8. 一般会計　正味財産増減計算書関係

(1) 指定正味財産への振替額

「Ⅰ一般正味財産増減の部」の「2. 経常外増減の部 (2) 経常外費用」に計上されている「指定正味財産への振替額」204,874,067 円及び「Ⅱ指定正味財産増減額の部」の「一般正味財産からの振替額 204,874,067 円は、前期まで補助金や寄付金を財源として取得した図書を一般財産として会計処理していましたが、当該図書は非償却のため指定正味財産にすべきものであり、当期修正のため振替たものです。

これに合わせて、一般会計貸借対照表の「その他固定資産」に計上していた図書 204,874,067 円を「特定資産」に振替えております。

(2) 過年度受取寄付金

「Ⅰ一般正味財産増減の部」の「2. 経常外増減の部 (1) 経常外収益」に計上されている「過年度寄付金収益」74,385,740 円は、前期に資産除去債務会計基準適用に伴い発生した費用に対し、特別会計の指定正味財産（受取寄付金）において一般会計の一般正味財産（寄付金収益）への振替を行っていなかったため、当期修正したものです。

9. 退職給付関係

(1) 採用している退職給付制度の概要

確定給付型の制度として退職一時金制度をもうけています。

(2) 退職給付債務及びその内訳

退職給付債務	△ 52,089,296 円
退職給付引当金	52,089,296 円

(3) 退職給付費用に関する事項

勤務費用	6,400,040 円
退職給付費用	6,400,040 円

(4) 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

退職給付債務の計算に当たっては退職一時金制度に基づく期末自己都合要支給額を基礎として計算しています。

10. 金融商品関係

(1) 金融商品の状況に関する事項

当法人は資金運用については短期的な預金及び元本償還の確実性の高い公社債等に限定しております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

①現金預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

②退職給付引当資産

③建物設備修繕引当資産

④ PCB 引当資産

⑤運営調整積立資産

これらは預金に限定されており短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、開示は省略しております。

⑥投資有価証券

これらの時価について、取引所の価額又は取引金融機関からの提示された価額によっております。

また、期末における貸借対照表計上額、時価及び差額については前述 5. に記載されているため、開示は省略しております。

B．財産目録

財　　産　　目　　録

2012 年 3 月 31 日　現　在　　（単位：円）

科目	金額		
（資　産　の　部）			
Ⅰ　流　動　資　産			
現　金　預　金			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店普通預金	855,045		
郵便振替口座	35,320		
未収収益			
有価証券未収利息	5,864,003		
未　収　金			
複写手数料等	393,960		
立替金			
光熱費等	231,754		
商　品			
出版物等	10,072,529		
前　払　費　用			
保険料等	4,002,405		
流動資産合計		21,455,016	
Ⅱ　固　定　資　産			
(1) 基本財産			
図　書　資　料	1,041,708,012		
和　漢　書　515,330冊			
洋　書　364,722冊			
複　写　資　料　29,800点			
土　地	110,494		
所　在　東京都文京区本駒込2丁目28番21号			
地　番　東京都文京区本駒込2丁目147番１号			
地　目　宅　地			
面　積　３，６８７．６３平方米			
投資有価証券			
満期保有目的有価証券	2,842,501,375		
預金			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店普通預金	163,122		
基本財産合計	3,884,483,003		
(2) 特定資産			
建　物			
所　在　東京都文京区本駒込2丁目147、157-2			
建物(本館)　構　造　鉄骨鉄筋コンクリート造	2,471,521,356		
建築面積　1,351.67平方米			
延床面積　6,698.12平方米			
空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備			
建物(付属棟)　構　造　鉄骨造	197,672,346		
建築面積　216.45平方米			
延床面積　408.14平方米			
空調衛生、昇降機、電気給排水等諸設備			
構　築　物	170,959,642		
什　器　備　品	385,582,230		
金庫他　151 点			
図　書　資　料	238,265,823		
和　漢　書　20,885 冊			
洋　書　26,914 冊			
ﾏｲｸﾛﾌｨﾙﾑ等　883 冊			
ソフトウェア　15 点	9,837,305		
退職給付引当資産			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店普通預金	89,296		
〃　定期預金	52,000,000		
建物設備修繕引当資産			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店普通預金	3,858,973		
〃　定期預金	157,700,000		
ＰＣＢ引当資産			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店定期預金	24,605,000		
特定資産合計	3,712,091,971		

(3) その他固定資産			
什器備品	5,478,156		
事務用器具等　137 点			
ソフトウェア　11 点	5,272,418		
電話加入権　5 回線	364,000		
長期前払費用	2,195,506		
保険料			
運営調整積立資産			
三菱東京ＵＦＪ銀行駒込支店普通預金	3,669,703		
〃　定期預金	66,000,000		
その他固定資産合計	82,979,783		
固定資産合計		7,679,554,757	
資産合計			7,701,009,773
（負債の部）			
Ⅰ 流動負債			
未払金　出版物印刷料等	3,829,602		
預り金　職員に対する給与源泉所得税等	2,416,398		
賞与引当金　役職員賞与引当額	7,390,861		
流動負債合計		13,636,861	
Ⅱ 固定負債			
退職給与引当金　役職員退職金引当額	52,089,296		
ＰＣＢ引当金　ＰＣＢ処理費用	24,605,000		
固定負債合計		76,694,296	
負債合計			90,331,157
正味財産			7,610,678,616

C．一般会計収支

一　般　会　計　収　支　計　算　書

2011年4月1日から2012年3月31日まで　　（単位:円）

科　　目	予算額	決算額	増　減	備　考
Ⅰ 事業活動収支の部				
1．事業活動収入				
基本財産運用収入	85,000,000	88,001,612	△ 3,001,612	
維持会費収入	60,000,000	60,150,000	△ 150,000	
寄付金収入	500,000	1,553,000	△ 1,053,000	
会費収入	500,000	634,000	△ 134,000	
分担金収入	16,000,000	17,570,000	△ 1,570,000	
受託金収入	10,500,000	8,920,000	1,580,000	
研究活動収入	23,750,000	18,428,112	5,321,888	
補助金等収入	110,000,000	110,000,000	0	
雑収入	2,000,000	5,731,080	△ 3,731,080	
特別会計からの繰入金収入	0	58,316,202	△ 58,316,202	
事業活動収入計	308,250,000	369,304,006	△ 61,054,006	
2．事業活動支出				
事業費	290,100,000	305,033,163	△ 14,933,163	
調査研究費	30,600,000	27,278,644	3,321,356	
資料収集・整理費	37,100,000	46,241,143	△ 9,141,143	
研究資料出版費	20,800,000	15,955,042	4,844,958	
普及活動費	21,500,000	19,494,880	2,005,120	
学術情報提供費	35,000,000	32,327,354	2,672,646	
地域研究ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ費	16,000,000	17,154,061	△ 1,154,061	
受託研究費	10,500,000	8,116,021	2,383,979	
人件費	86,700,000	101,929,636	△ 15,229,636	
事務費	31,900,000	36,536,382	△ 4,636,382	
管理費	42,150,000	23,154,820	18,995,180	
人件費	39,000,000	19,232,672	19,767,328	
事務費	3,150,000	3,922,148	△ 772,148	
事業活動支出計	332,250,000	328,187,983	4,062,017	
事業活動収支差額	△ 24,000,000	41,116,023	△ 65,116,023	
Ⅱ 投資活動収支の部				
1．投資活動収入				
建物設備修繕引当資産取崩収入	2,400,000	0	2,400,000	
展示開設準備引当資産取得収入	28,000,000	26,612,939	1,387,061	
運営調整積立資産取崩収入	27,000,000	20,000,000	7,000,000	
投資活動収入計	57,400,000	46,612,939	10,787,061	
2．投資活動支出				
固定資産取得支出	4,000,000	2,776,991	1,223,009	
退職給付引当資産取得支出	7,000,000	6,369,743	630,257	
建物設備修繕引当資産取得支出	23,000,000	51,911,202	△ 28,911,202	
ＰＣＢ引当資産取得支出	0	24,605,000	△ 24,605,000	
運営調整積立資産取得支出	0	6,000,000	△ 6,000,000	
投資活動支出計	34,000,000	91,662,936	△ 57,662,936	
投資活動収支差額	23,400,000	△ 45,049,997	68,449,997	

Ⅲ 財務活動収支の部				
1．財務活動収入	0	0	0	(注1)
2．財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
当期収支差額	△ 600,000	△ 3,933,974	3,333,974	
前期繰越収支差額	1,679,600	1,679,600	0	
次期繰越収支差額	1,079,600	△ 2,254,374	3,333,974	

(注) 1. 借入金限度額　30,000,000円

一般会計収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収収益、未収金、立替金、前払費用、未払金預り金、賞与引当金を含めています。

なお、前期末残高及び当期末残高は、下記２に記載するとおりです。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

（単位：円）

科　　目	前期末残高	当期末残高
現金預金	5, 382, 385	890, 365
未収収益	6, 168, 486	5, 864, 003
未収金	252, 000	393, 960
立替金	0	231, 754
前払費用	956, 145	4, 002, 405
合　　計	12, 759, 016	11, 382, 487
未払金	3, 019, 260	3, 829, 602
預り金	1, 110, 972	2, 416, 398
賞与引当金	6, 949, 184	7, 390, 861
合　　計	11, 079, 416	13, 636, 861
次期繰越収支差額	1, 679, 600	△ 2, 254, 374

V　役職員名簿

2012年3月31日現在の財団法人東洋文庫の役職員は、以下のとおりである。

1. 役　　員

役職名	氏名	現職
理事長	槇原　稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
専務理事	山川尚義	東洋文庫専務理事
理事	斯波義信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	田仲一成	東洋文庫図書部長 日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	鶴見尚弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	濱下武志	東洋文庫研究部長 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター研究フェロー
〃	平野健一郎	国立公文書館アジア歴史資料センター長 東京大学名誉教授
〃	福澤　武	三菱地所株式会社相談役
〃	三木繁光	株式会社三菱東京UFJ銀行相談役
監事	西村敏行	三菱金曜会事務局長
〃	原　實	日本学士院会員 東京大学名誉教授

2. 評議員

役職名	氏名	現職
評議員	荒蒔康一郎	キリンホールディングス株式会社相談役
〃	有馬朗人	科学技術館館長 武蔵学園長 東京大学名誉教授
〃	梅村坦	中央大学教授
〃	大崎仁	人間文化研究機構長特別顧問
〃	岸本美緒	お茶の水女子大学教授
〃	草原克豪	前拓殖大学副学長
〃	久保正彰	日本学士院院長 東京大学名誉教授
〃	後藤明	東洋大学教授 東京大学名誉教授
〃	瀬谷博道	旭硝子株式会社相談役
〃	東條和彦	三菱商事株式会社顧問
〃	長尾真	前国立国会図書館館長 京都大学名誉教授
〃	増田信行	三菱重工業株式会社相談役
〃	間野英二	京都大学名誉教授

3. 東洋学連絡委員

役職名	氏名	現職
委員長	槇原稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
委員	梅原郁	京都大学名誉教授
〃	尾崎康	元慶應義塾大学教授
〃	興善宏	京都大学名誉教授
〃	斯波義信	東洋文庫文庫長 日本学士院会員 大阪大学名誉教授
〃	竺沙雅章	京都大学名誉教授

役職名	氏名	現職
委員	中根千枝	日本学士院会員 東京大学名誉教授
〃	西田龍雄	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	間野英二	京都大学名誉教授
〃	御牧克己	日本学士院会員 京都大学名誉教授
〃	森本公誠	東大寺長老
〃	吉田順一	早稲田大学名誉教授

4. 名誉研究員

氏名	所属機関
BLUSSE, Leonard	Universite Leiden
De BARY, W. T.	Columbia University
ELVIN, Mark	The Australian National University (Prof. Emeritus)
HUMPHREYS, R.Stephen	University of California
GERNET, Jacques	Collége de France
KADIVAR, Mohsen	Tarbiat Modarres University
韓永愚	Seoul 大学校（Prof. Emeritus）
黄寛重	国立中興大学 中央研究院歴史語言研究所
KYCHANOV, E. I.	Saint-Petersburg Branch of the Institute of Oriental Studies of Russian Academy of Sciences
LANCIOTTI, Lionelio	University of Naples (Prof. Emeritus)
李伯重	清華大学人文社会科学学院経済学研究所
McDERMOTT, Joseph P.	St. Johns College, Cambridge University
RAFEQ, Abdul-Karim	The College of William and Mary Department of History
SAHIN, Ilhan	Kırgızistan-Türkiye Manas Üniversitesi
WANG, Gungwu	National University of Singapore

5. 職員・研究員

部名	職名	氏名	現職
	理事長	槇原　稔	東洋文庫理事長 三菱商事株式会社特別顧問
	文庫長	斯波義信	研究員を兼務
	専務理事	山川尚義	総務部長を兼務
総務部	課長	柴代淳子	
〃	参事	藤村由美子	
〃	〃	牧　祐紀子	
普及展示部	主幹研究員	牧野元紀	
〃	研究員	岡崎礼奈	
〃	参事	長谷川茂広	
〃	〃	藤代和卓	
図書部	部長	田仲一成	
〃	課長	會谷佳光	研究員を兼務
〃	研究員	櫻井　徹	
〃	〃	篠崎陽子	
〃	〃	山村義照	
〃	参事	橋　伸子	
研究部	研究部長	濱下武志	東洋文庫研究員（兼任） 龍谷大学人間・科学・宗教総合研究センター　研究フェロー
〃	主幹研究員	瀧下彩子	
〃	研究員	原山隆広	
〃	〃	大澤　肇	現代中国研究資料室派遣研究員
〃	〃	徳原靖浩	イスラーム地域研究資料室派遣研究員
〃	〃	池田　温	東京大学名誉教授 創価大学名誉教授
〃	〃	池田雄一	中央大学名誉教授
〃	〃	石塚晴通	北海道大学名誉教授
〃	〃	市古宙三	お茶の水女子大学名誉教授
〃	〃	梅田博之	麗澤大学名誉教授
〃	〃	大江孝男	東京外国語大学名誉教授
〃	〃	太田幸男	東京学芸大学名誉教授
〃	〃	岡田英弘	東京外国語大学名誉教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研　究　員	小　田　壽　典	豊橋創造大学名誉教授
〃	〃	片　桐　一　男	青山学院大学名誉教授
〃	〃	辛　島　　昇	東京大学名誉教授
〃	〃	菊　池　英　夫	中央大学元教授
〃	〃	草　野　　靖	熊本大学元教授
〃	〃	酒　井　憲　二	田園調布学園大学短大部名誉教授
〃	〃	設　樂　國　廣	立教大学元教授
〃	〃	蔀　　勇　造	東京大学名誉教授
〃	〃	志　茂　碩　敏	
〃	〃	末　成　道　男	東京大学元教授
〃	〃	武　田　幸　男	岐阜聖徳学園大学元教授
〃	〃	多　田　狷　介	日本女子大学名誉教授
〃	〃	立　川　武　蔵	国立民族学博物館名誉教授
〃	〃	田　中　時　彦	東海大学名誉教授
〃	〃	田　村　晃　一	青山学院大学名誉教授
〃	〃	竺　沙　雅　章	京都大学名誉教授
〃	〃	千　葉　　炅	学校法人桐朋学園元理事長
〃	〃	鶴　見　尚　弘	横浜国立大学名誉教授 山梨県立大学名誉教授
〃	〃	杤　尾　　武	成城大学名誉教授
〃	〃	土　肥　義　和	國学院大学名誉教授
〃	〃	鳥　海　　靖	東京大学名誉教授
〃	〃	中　兼　和津次	東京大学名誉教授
〃	〃	永　田　雄　三	明治大学元教授
〃	〃	永　積　洋　子	東京大学元教授
〃	〃	西　田　龍　雄	京都大学名誉教授
〃	〃	延　廣　真　治	東京大学名誉教授
〃	〃	花　田　宇　秋	明治学院大学元教授
〃	〃	濱　島　敦　俊	暨南国際大学教授
〃	〃	原　　實	東京大学名誉教授
〃	〃	藤　井　昇　三	電気通信大学名誉教授
〃	〃	細　谷　良　夫	東北学院大学名誉教授
〃	〃	本　庄　比佐子	
〃	〃	松　濤　誠　達	大正大学名誉教授
〃	〃	松　丸　道　雄	東京大学名誉教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研　究　員	松　村　　潤	日本大学名誉教授
〃	〃	御　牧　克　己	京都大学名誉教授
〃	〃	毛　里　和　子	早稲田大学名誉教授
〃	〃	籾　山　　明	埼玉大学元教授
〃	〃	柳　田　征　司	奈良大学元教授
〃	〃	矢　吹　　晋	横浜市立大学名誉教授
〃	〃	山　口　瑞　鳳	東京大学名誉教授
〃	〃	山　本　毅　雄	情報・システム研究機構国立情報学研究所名誉教授
〃	〃	吉　田　　寅	立正大学元教授
〃	〃	渡　辺　紘　良	獨協医科大学名誉教授
研　究　部	研究員(兼任)	飯　島　武　次	駒沢大学教授
〃	〃	石　橋　崇　雄	国士舘大学教授
〃	〃	今　西　祐一郎	国文学研究資料館館長
〃	〃	内　山　雅　生	宇都宮大学教授
〃	〃	梅　村　　坦	中央大学教授
〃	〃	太　田　信　宏	東京外国語大学准教授
〃	〃	小　名　康　之	青山学院大学教授
〃	〃	粕　谷　　元	日本大学准教授
〃	〃	糟　谷　憲　一	一橋大学大学院教授
〃	〃	加　藤　直　人	日本大学教授
〃	〃	川　崎　信　定	筑波大学名誉教授
〃	〃	岸　本　美　緒	お茶の水女子大学教授
〃	〃	窪　添　慶　文	立正大学教授
〃	〃	後　藤　　明	東洋大学教授
〃	〃	小　松　久　男	東京大学教授
〃	〃	嶋　尾　　稔	慶應義塾大学教授
〃	〃	妹　尾　達　彦	中央大学教授
〃	〃	関　本　照　夫	国立民族学博物館特任教授
〃	〃	高　田　幸　男	明治大学教授
〃	〃	C.A. ダニエルス	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授
〃	〃	長　沢　栄　治	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	中　見　立　夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(兼任)	八尾師　　誠	東京外国語大学教授
〃	〃	林　　佳世子	東京外国語大学教授
〃	〃	平　野　健一郎	国立公文書館アジア歴史資料センター長 東京大学名誉教授
〃	〃	弘　末　雅　士	立教大学教授
〃	〃	深　沢　眞　二	和光大学教授
〃	〃	古　屋　昭　弘	早稲田大学教授
〃	〃	三　浦　　徹	お茶の水女子大学教授
〃	〃	柳　澤　　明	早稲田大学准教授
〃	〃	山　本　英　史	慶應義塾大学教授
〃	〃	吉　田　光　男	放送大学教授
〃	〃	吉　水　千鶴子	筑波大学大学院准教授
〃	嘱託職員	近　藤　敦　子	

6. 客員研究員

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	青　木　　敦	青山学院大学教授
〃	〃	青　山　瑠　妙	早稲田大学教授
〃	〃	秋　葉　　淳	千葉大学准教授
〃	〃	浅　田　進　史	首都大学東京助教
〃	〃	浅　野　秀　剛	大和文華館　館長
〃	〃	天　児　　慧	早稲田大学教授
〃	〃	新　井　政　美	東京外国語大学教授
〃	〃	荒　川　正　晴	大阪大学大学院教授
〃	〃	飯　尾　秀　幸	専修大学教授
〃	〃	飯　島　　渉	青山学院大学教授
〃	〃	飯　島　明　子	天理大学教授
〃	〃	池　田　美佐子	名古屋商科大学教授
〃	〃	石　川　　寛	早稲田大学非常勤講師
〃	〃	磯　貝　健　一	追手門学院大学准教授
〃	〃	井　上　和　枝	鹿児島国際大学教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	井　上　和　人	国立文化財機構奈良文化財研究所副所長
〃	〃	上　野　英　二	成城大学教授
〃	〃	内　田　知　行	大東文化大学教授
〃	〃	梅　原　　郁	京都大学名誉教授
〃	〃	宇　山　智　彦	北海道大学スラブ研究センター教授
〃	〃	江　川　ひかり	明治大学教授
〃	〃	大河原　知　樹	東北大学大学院准教授
〃	〃	大　澤　正　昭	上智大学教授
〃	〃	大　谷　俊　太	奈良女子大学教授
〃	〃	岡　野　　誠	明治大学教授
〃	〃	丘　山　　新	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	小　川　裕　充	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	奥　村　　哲	首都大学東京教授
〃	〃	梶　谷　　懷	神戸学院大学大学院准教授
〃	〃	片　山　章　雄	東海大学教授
〃	〃	片　山　　剛	大阪大学大学院教授
〃	〃	加　藤　弘　之	神戸大学教授
〃	〃	金　子　修　一	國學院大学教授
〃	〃	金　丸　裕　一	立命館大学教授
〃	〃	川　井　伸　一	愛知大学教授
〃	〃	川　合　　安	東北大学大学院教授
〃	〃	川　島　　真	東京大学大学院准教授
〃	〃	貴　志　俊　彦	京都大学地域研究統合情報センター教授
〃	〃	北　川　香　子	東京大学大学院助教
〃	〃	北　本　朝　展	情報・システム研究機構 国立情報学研究所准教授
〃	〃	金　　鳳　珍	北九州市立大学教授
〃	〃	楠　木　賢　道	筑波大学准教授
〃	〃	久　保　　亨	信州大学教授
〃	〃	熊　本　　裕	東京大学言語学研究所教授
〃	〃	黒　田　　卓	東北大学大学院教授
〃	〃	気賀澤　保　規	明治大学教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	厳　　善　平	同志社大学大学院教授
〃	〃	黄　　東　蘭	愛知県立大学准教授
〃	〃	興　梠　一　郎	神田外語大学教授
〃	〃	小　嶋　芳　孝	金沢学院大学教授
〃	〃	小　杉　　泰	京都大学教授
〃	〃	小　浜　正　子	日本大学教授
〃	〃	小　南　一　郎	京都大学名誉教授
〃	〃	近　藤　信　彰	東京外国語大学アジア・アフリカ研究所准教授
〃	〃	齋　藤　真麻里	人間文化研究機構国文学研究資料館准教授
〃	〃	早乙女　雅　博	東京大学大学院教授
〃	〃	桜　井　由躬雄	東京大学名誉教授
〃	〃	佐　藤　健太郎	北海道大学大学院准教授
〃	〃	佐　藤　慎　一	東京大学教授
〃	〃	佐　藤　　宏	一橋大学教授
〃	〃	佐　藤　仁　史	一橋大学大学院准教授
〃	〃	澤　江　史　子	東北大学大学院准教授
〃	〃	塩　沢　裕　仁	東京大学東洋文化研究所特任研究員
〃	〃	城　山　智　子	一橋大学教授
〃	〃	清　水　宏　祐	九州大学教授
〃	〃	清　水　信　行	青山学院大学教授
〃	〃	庄垣内　正　弘	京都産業大学教授
〃	〃	真　道　洋　子	イスラーム考古学研究所主任研究員
〃	〃	新　免　　康	中央大学教授
〃	〃	須　川　英　徳	横浜国立大学教授
〃	〃	鈴　木　恵　美	早稲田大学イスラーム地域研究機構研究院准教授
〃	〃	鈴　木　　均	日本貿易振興機構アジア経済研究所地域研究センター主任調査研究員
〃	〃	鈴　木　博　之	山形短期大学講師 東北学院大学講師
〃	〃	鈴　木　立　子	愛知大学大学院教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	砂　山　幸　雄	愛知大学教授
〃	〃	關　尾　史　郎	新潟大学教授
〃	〃	曽　田　三　郎	広島大学大学院教授
〃	〃	高　遠　拓　児	中京大学准教授
〃	〃	武　内　紹　人	神戸市外国語大学教授
〃	〃	田　島　俊　雄	東京大学教授
〃	〃	田　中　明　彦	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	田　中　　仁	大阪大学大学院教授
〃	〃	田　中　比呂志	東京学芸大学教授
〃	〃	辻　本　裕　成	南山大学准教授
〃	〃	土　田　哲　夫	中央大学教授
〃	〃	坪　井　祐　司	立教大学講師
〃	〃	寺　田　浩　明	京都大学大学院教授
〃	〃	唐　　成	桃山学院大学准教授
〃	〃	唐　　亮	早稲田大学政治経済学術院教授
〃	〃	戸　倉　英　美	東京大学教授
〃	〃	富　澤　芳　亜	島根大学准教授
〃	〃	長　縄　宣　博	北海道大学スラブ研究センター准教授
〃	〃	中　谷　英　明	東京外国語大学教授
〃	〃	中　村　元　哉	津田塾大学准教授
〃	〃	新　村　容　子	岡山大学大学院教授
〃	〃	西　　英　昭	九州大学法学研究院准教授
〃	〃	西　尾　寛　治	防衛大学校教授
〃	〃	萩　田　　博	東京外国語大学准教授
〃	〃	長谷川　誠　夫	千葉工業大学講師
〃	〃	服　部　龍　二	中央大学教授
〃	〃	濱　田　正　美	龍谷大学教授
〃	〃	濱　本　真　美	東京大学大学院客員研究員
〃	〃	林　　俊　雄	創価大学教授
〃	〃	平　勢　隆　郎	東京大学東洋文化研究所教授
〃	〃	平　野　　聡	東京大学准教授
〃	〃	廣　瀬　紳　一	慶應義塾大学大学院助教
〃	〃	藤　田　　忠	国士舘大学教授
〃	〃	藤　本　幸　夫	麗澤大学教授

部　名	職　名	氏　　名	現　　職
研　究　部	研究員(客員)	古　田　和　子	慶應義塾大学教授
〃	〃	弁　納　才　一	金沢大学教授
〃	〃	寶　劔　久　俊	日本貿易振興機構アジア経済研究所研究員
〃	〃	星　　泉	東京外国語大学准教授
〃	〃	堀　川　　徹	京都外国語大学教授
〃	〃	松　井　　太	弘前大学准教授
〃	〃	松　重　光　浩	日本大学教授
〃	〃	松　永　泰　行	東京外国語大学准教授
〃	〃	松　本　　弘	大東文化大学准教授
〃	〃	丸　川　知　雄	東京大学教授
〃	〃	三　田　昌　彦	名古屋大学大学院助教
〃	〃	宮　崎　修　多	成城大学教授
〃	〃	宮　脇　淳　子	国士舘大学講師
〃	〃	村　井　章　介	東京大学教授
〃	〃	村　上　　衛	京都大学准教授
〃	〃	村　田　雄二郎	東京大学大学院教授
〃	〃	本　野　英　一	早稲田大学大学院教授
〃	〃	守　川　知　子	北海道大学大学院准教授
〃	〃	森　平　雅　彦	九州大学大学院准教授
〃	〃	森　安　孝　夫	大阪大学大学院教授
〃	〃	矢　島　洋　一	京都外国語大学講師
〃	〃	柳　谷　あゆみ	早稲田大学講師
〃	〃	山　内　弘　一	上智大学教授
〃	〃	山　内　民　博	新潟大学准教授
〃	〃	湯　浅　　剛	防衛省防衛研究所主任研究官
〃	〃	吉　澤　誠一郎	東京大学大学院准教授
〃	〃	吉　田　伸　之	東京大学教授
〃	〃	吉　田　　豊	京都大学大学院教授
〃	〃	吉　村　慎太郎	広島大学大学院准教授
〃	〃	六反田　　豊	東京大学大学院准教授
〃	〃	和　田　恭　幸	龍谷大学准教授

財団法人 東洋文庫年報 2011年度

2013年2月28日 発行
発行者 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫
槇原 稔
印刷所 株式会社 東京プレス
発行所 東京都文京区本駒込2丁目28番21号
財団法人 東洋文庫

本書は財団法人東洋文庫に対する2012年度文部科学省補助金の一部によって刊行されたものである。